

地方独立行政法人
大阪府立環境農林水産総合研究所
「平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書」
添付資料集

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所
平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書 添付資料集

目次

項目	ページ
研究所の概要	1
平成25年度実績報告書に用いたデータ集	
1 受託研究利用者アンケート調査結果	8
2 行政支援に係る現地指導、モニタリング及び行政依頼検 体分析	9
5 緊急時への対応事例	11
4 農産物病虫害の診断及び防除の助言	15
5 環境保全への取組支援	16
6 環境農林水産分野の技術支援(その他)	18
7 農業大学校運営実績	19
8 情報発信ツール一覧	20
9 セミナー・講習会・イベント	23
10 報道提供一覧	30
11 新聞掲載・テレビ、ラジオ放送	33
12 法人職員が参加した学会・シンポジウム等及び公設試験研究機関ネッ トワーク	36
13 調査研究関係業務一覧	37
14 学術論文・学会発表一覧	41
15 重点研究分野への取組	48
16 新たな研究分野への取組	56
17 研究活力向上支援事業採択課題	65
18 外部研究資金応募実績	66
19 行政評価	69
20 平成26年度に実施する行政依頼事項	71
21 研究アドバイザー委員会による研究課題 評価	73
22 法人が参画するコンソーシアム一覧	74
23 法人の知的財産	76
24 法人職員が受講した研修	79
25 目的積立金使途計画及び実績	80
26 研究所が有する資源の有効活用事例	81
27 講師派遣実績	82
28 委員・役員等派遣実績	86

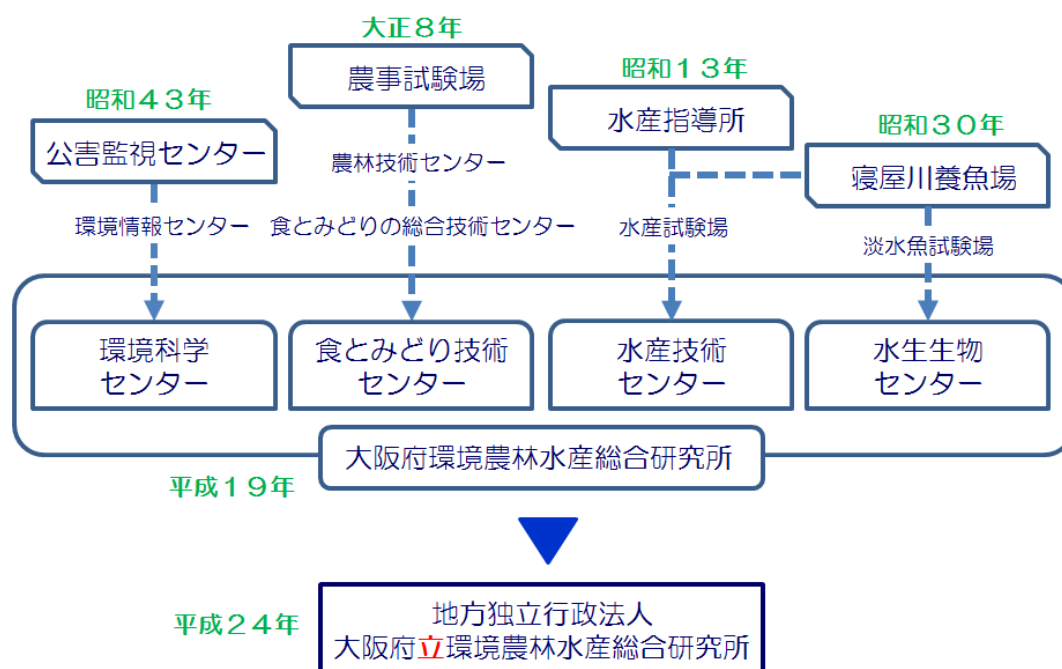
研究所の概要

研究所の概要

(1) 法人沿革・役員・施設・組織・要員・予算

① 沿革

- 平成19年 「環境情報センター」、「食とみどりの総合技術センター」、「水産試験場」を統合し、「大阪府環境農林水産総合研究所」として発足した。
- 平成24年 地方独立行政法人化し、「地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所」として発足した。



② 役員

理事長1名、副理事長1名、理事1名（以上常勤）、監事2名（非常勤）

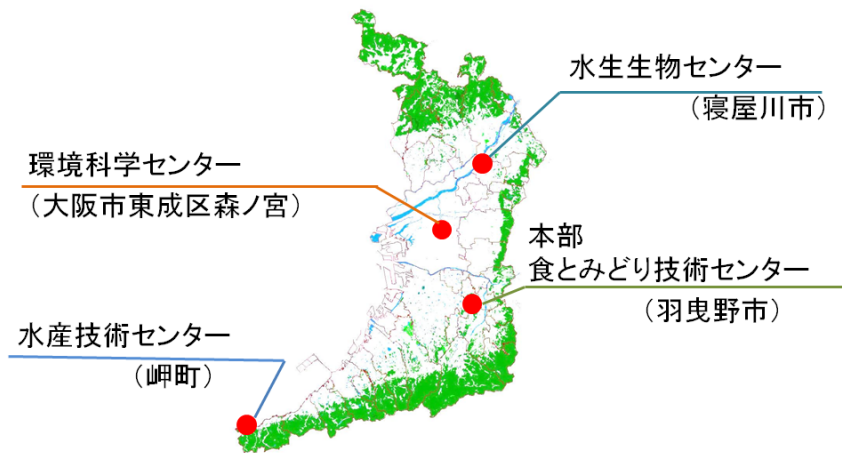
理事長	大河内 基夫
副理事長	井上 博司
理事	笠松 昌弘
監事（弁護士）	黒田 清行
監事（公認会計士）	三谷 英彰

③施設

食とみどり技術センター、環境科学センター、水産技術センター、水生生物センターの4サイトで運営している。本部は、食とみどり技術センターに置いている。

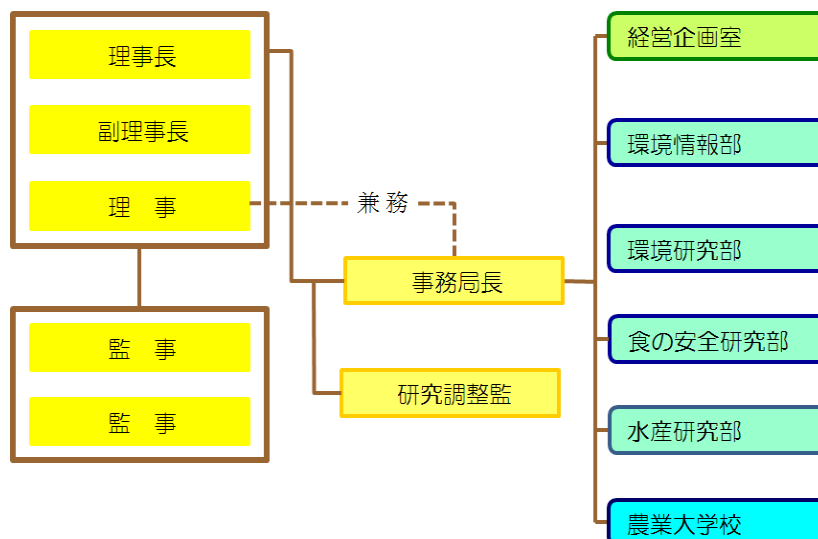
(平成26年3月31日現在)

	敷地面積	建物面積(延床面積)	役職員数
本部・食とみどり技術C	245,913㎡	23,464㎡	105名
環境科学C	2,078㎡	5,240㎡	25名
水産技術C	8,585㎡	6,769㎡	13名
水生生物C	23,477㎡	920㎡	7名
総計	280,053㎡	36,393㎡	150名



④組織

役員、監事、本部(経営企画室)、4部(環境情報部、環境研究部、食の安全研究部、水産研究部)、及び農業大学校から構成されている。



⑤要員

独立行政法人化後は、法人採用職員、任期付職員、契約職員及び府派遣職員の雇用形態をとり、研究職、研究補助職、事務職、技術職、技能労務職の職種がある。平成26年3月時の役職員数は150名である。

人員体制(平成26年3月31日)

合計	役員	法人採用職員					契約職員		府派遣職員		
		研究職	事務職	研究補助職	任期付研究職	任期付事務職	甲種	乙種	技術職	事務職	技能労務職
150	3	49	4	4	4	2	11	20	33	11	9

役員は上記以外に監事(非常勤)2名を含む。契約職員甲種は、府における再任用(週3日勤務)。契約職員乙種は通常勤務形態

人員配置(平成26年3月31日)

組織体制	役員	法人採用職員										府派遣職員					配置人員	
		法人採用職員					事務・技術・研究補助職					事務・技術職			技能労務職			
		総括研究員	主幹研究員	主任研究員	研究員	任期付研究員	主査級	主事・技師級	任期付事務職	契約甲種	契約乙種	課長級	補佐級	主査級	主事・技師級	主査級		技師級
役員	3																	3
経営企画室		3		2				4	2	2	1	1	3	9	6		1	34
環境情報部				2						2	6	1	2	6	5			24
環境研究部		1	2	2	6	1	1	1		1	6		2	1	1	1	2	28
食の安全研究部		2	4	10	2	2	1			3	5		1	1		1	4	36
水産研究部		2	2	7	2	1		1		1	2				1			19
農業大学校										2		1		3				6
合計	3	8	8	23	10	4	2	6	2	11	20	3	8	20	13	2	7	150

⑥ 予算

a. 収入

(単位:千円)

予算区分		H25予算額(当初)	割合(%)
収入		1,899,242	
	運営費交付金収入	1,747,926	92
	運営費交付金収入(標準)	1,666,220	
	運営費交付金収入(特定)	81,706	
	自己収入	40,363	2
	授業料収入	6,624	
	使用料及び手数料収入	1,804	
	財産処分収入	18,659	
	雑収入	13,276	
	受託研究収入	84,577	4
	補助金収入	26,376	1
	施設整備補助金収入	26,376	
	事業補助金収入	0	
	寄付金収入	0	
	目的積立金取崩収入	0	

b. 支出

(単位:千円)

予算区分		H25予算額(当初)	割合(%)
支出		1,899,242	
	業務費	1,785,179	
	事業費	229,558	12
	農林研究経費	35,996	
	水産研究経費	20,405	
	環境研究経費	54,127	
	環境常時監視費	52,413	
	環境情報管理費	45,231	
	環境教育推進事業費	762	
	農業大学校事業費	7,995	
	研究調整費	12,629	
	人件費	1,295,843	68
	一般管理費	259,778	14
	施設整備費	26,376	1
	受託研究等研究経費	84,577	4
	寄付金事業費	0	0
	予備費	3,110	0

ー施設整備等補助金ー食みセンター建替基本設計策定費（予算：27 百万円）

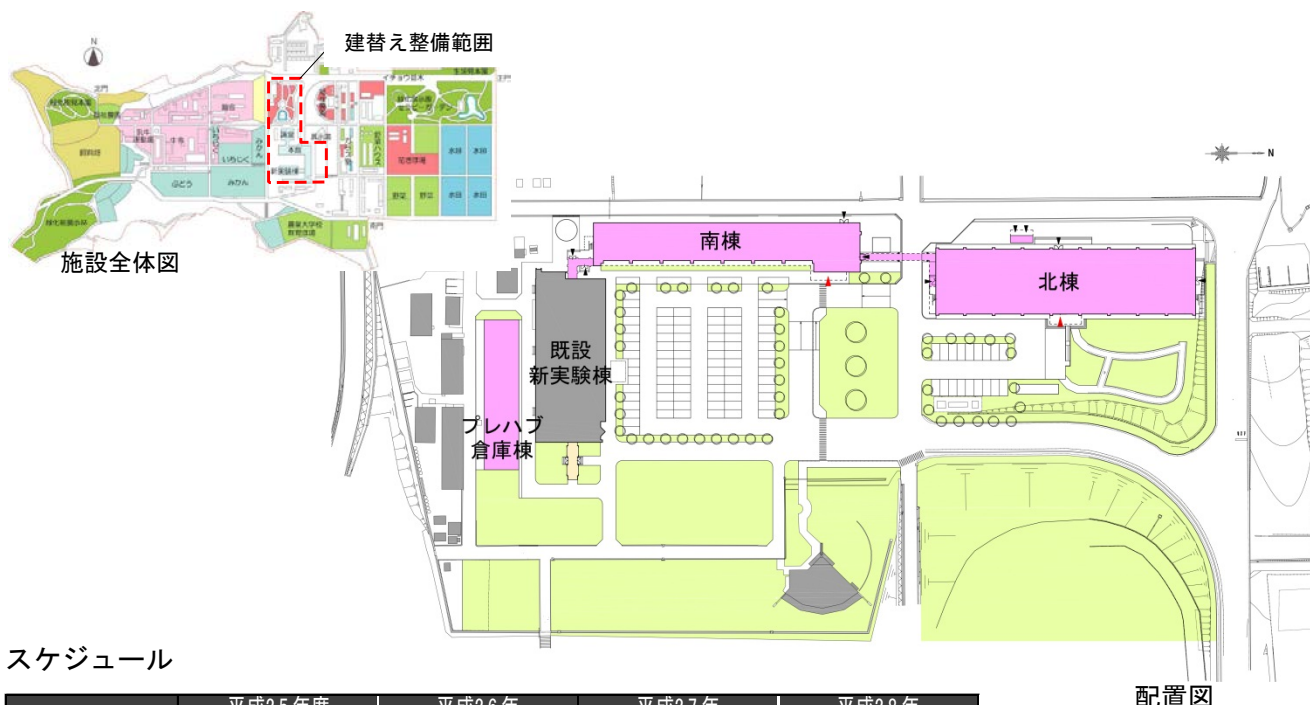
食とみどり技術センターの施設（研究所本部機能を含む）は築50年以上を経過し老朽化が著しく、耐震性が現行建築基準法に対して大きく不足し安全性を欠く状況にある。また、環境科学センターについても築45年を経過し老朽化が進んでおり、環境の調査及び試験研究や災害時に環境汚染物質測定等の緊急対応が求められる施設としては非常に脆弱であることから、羽曳野に集約し、建替えることとなった。

建替えにあたり、研究分野の融合による研究活動の向上を目指し、各研究機能の連携を重視し2つの研究施設の統合による、効率かつ効果的な計画となるよう基本設計を行った。

設計条件として、建物を使いながら空地での建替え整備とし、平成13年度に完成した新実験棟を既存で残し、配置計画については、既存施設との利便性を考慮し、現本館の西側へ計画し、既存の東西構内通路を生かした北棟と南棟からなる2棟構成とし、その他プレハブ倉庫を設ける。

平面計画については、建替え後は既存新実験棟を含め4棟となる。このことから、中央に計画する「南棟」に執務室や会議室を計画し、「北棟」に実験室、農業大学校等の部屋を計画して適切なゾーニングを行った。執務室においては、食とみどりの技術センター及び環境科学センター両施設の研究員がワンフロアで執務する計画とし、実験室については研究分野毎にゾーニングを行う事により、部門間の連携が図りやすく、職員が一体となって研究に取り組めるよう、更なるシナジー効果を発揮できるようなものとした。また、農業大学校についてはほ場側の「北棟」に計画し、利便性がよく管理しやすい計画とした。

	食とみどり技術センター	環境科学センター	既設建物（新実験棟）
建設年度	昭和38年(築51年)	昭和43年(築46年)	平成13年度
延床面積	約6,075 m ²	約5,240 m ²	延床面積 約1,805 m ²
計画面積	延床面積 約5,805 m ² 北棟 約3,005 m ² 、(RC造、地上2階) 南棟 約2,360 m ² 、(RC造、地上3階) 附属棟(倉庫) 約440 m ² 、(S造、平屋)		



スケジュール

	平成25年度	平成26年	平成27年	平成28年
基本設計	基本設計			
実施設計		実施設計		
建設工事			建設工事	

(2) 調査研究課題

①行政依頼課題の選定

府民・事業者の要望・問題点を解決するために大阪府環境農林水産部が立案した政策・事業・施策に必要な技術支援を課題化（目的・目標の吟味）して、府から法人に受け渡す会議体として、「大阪府環境農林水産試験研究推進会議」を設けている。推進会議は別表のようにテーマ毎に部会を持ち運営している。

大阪府環境農林水産試験研究推進会議メンバー

会長	環境農林水産部長
副会長	環境農林水産部環境政策監 環境農林水産部次長、環境農林水産総務課長、エネルギー政策課長、 みどり・都市環境室長、循環型社会推進室長、環境管理室長、農政室長、 流通対策室長、水産課長、動物愛護畜産課長
	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所理事長

各部会

所管室・課	研究部会
環境農林水産総務課、関係所管室・課	総合部会（分野横断課題）
エネルギー政策課、みどり・都市環境室	みどり・都市環境部会
循環型社会推進室、環境管理室	環境部会
農政室、流通対策室	農政・食品部会
水産課	水産部会
動物愛護畜産課、家畜保健衛生所	畜産・野生動物部会
各農と緑の総合事務所	

②調査研究課題の評価

a. 行政依頼課題

推進会議で依頼された課題と大阪府から委託を受けた事業及び運営交付金によって実施されている事業については、行政による評価を受ける（４段階評価）。

b. 競争的研究資金

競争的研究資金等外部資金の実施事業及び応募課題については、外部有識者から構成される「研究アドバイザー委員会」において評価を受ける（４段階評価）。

c. 民間受託研究

民間から受ける受託研究については、報告書提出後に依頼者（クライアント）に対してアンケートを実施し、その点数をもって評価としている（５段階評価）。

研究アドバイザー委員（平成 25 年度）

氏 名	所属・役職
荒井 修亮	京都大学 フィールド科学教育研究センター 教授
池 道彦	大阪大学 大学院工学研究科 教授
大塚 耕司	大阪府立大学 大学院工学研究科 教授
尾崎 嘉彦	近畿大学 生物理工学部食品安全工学科 教授
切畑 光統	大阪府立大学 21 世紀科学研究機構 BNCT 研究センター 特認教授
久保 浩三	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究推進センター 教授
佐野 資郎	独立行政法人 近畿中国四国農業研究センター 企画管理部長
皆川 恵	独立行政法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 所長
鳥居 厚志	独立行政法人 森林総総合研究所関西支所 産学官連携推進調整監
藤本 高志	大阪経済大学 経済学部地域政策学科 教授
吉田 敏臣（特別顧問）	大阪大学 名誉教授

平成 25 年度実績報告書
に用いたデータ集

1 受託研究利用者アンケート調査結果（実績報告書 4ページ）

5段階評価 5；大変満足、4；やや満足、3；どちらともいえない、2；やや不満、1；大変不満

受託研究例及び利用者アンケート	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7
	職員態度	契約手続	納期	報告書難易度	報告内容水準	研究費用	総合評価
新しい食品素材の評価	5	5	5	5	5	5	5
トマト萎凋病菌に対する抗菌効果の確認試験	5	5	5	5	5	5	5
銀ゼオライト粉体混合発泡スチロールの養液栽培適応試験	4	4	5	3	4	4	4
発泡スチロール箱によるブロッコリーの鮮度保持効果調査	4	4	4	4	4	3	4
吸着式の鮮度保持剤を用いたブロッコリーの鮮度保持効果調査	4	4	3	4	4	4	4
石灰窒素を利用したキャベツの有機肥料全量基肥栽培	3	4	3	4	3	2	4
ブドウの着色改善技術の開発	5	5	4	5	5	5	5
抗菌素材ケニファインを用いた農業用資材の衛生管理に関する研究	5	5	3	4	5	4	5
液状魚かすを利用したイチジク施肥技術の開発	4	5	3	3	3	2	3
廃棄糠を用いた“生きている糠床”の開発	4	4	3	4	4	4	4
壁面緑化用マットの適正な施肥及び気層の条件調査	4	4	5	5	5	4	5
麦茶粕の飼料化利用に関する研究	3	4	3	3	3	4	4
芝用目土と基盤材による土壌改良	4	4	5	3	4	4	4
漁礁構造の違いがキジハタ種苗の蛸集に与える影響	5	5	5	5	5	5	5
平均値	4.2	4.4	4.0	4.1	4.2	3.9	4.4

※ アンケート未回答

6件

2 行政支援に係る現地指導、モニタリング及び行政依頼検体分析（実績報告書 6ページ）

・現地指導

	内容・回数等	場所・回数等
1	森林害虫カシノナガキイムシの分布拡大によるナラ枯れ被害状況調査及び防除方法の指導	河内長野市 1回
2	ため池養殖業者への巡回魚病指導と魚病検査用個体の採取	東大阪市、岸和田市 4回
3	野菜、花き等の土壌に係る障害事例についての技術指導	17回
4	ユリ収穫後開花技術の現地指導を行った	河南町2回、能勢町1回、八尾市1回
5	校庭の芝生化の現地指導	羽曳野市3回
6	獣害に係る指導（市町村鳥獣害防止対策事業の評価など）	6回
7	ヒツジ飼育による府民協働河川環境づくりに係る飼養管理の指導	28回
8	コイヘルペスウイルス病発生時における現場確認・処分にかかる技術的支援	高槻市 2回
10	イチジクの接ぎ木栽培技術指導	岸和田 1回、和泉市 1回
11	ブドウ緑枝接ぎ講習	1回

・モニタリング調査

	名称	内容・回数等
1	大阪湾環境モニタリング調査	水質、プランクトン等調査(44回)
2	漁業資源モニタリング調査	100回
3	水産有用魚種のイカナゴ日別漁獲量データを用いた資源解析	漁獲物測定：18回、漁獲量データ：4回
4	漁業権河川（芥川）の環境及び生物モニタリング調査	3地点において春・秋の年2回
5	微小粒子状物質(PM2.5)成分分析	3地点、年4回、無機元素29項目等41項目
6	有害大気汚染物質及びVOCモニタリング調査	9地点、月1回、21項目+80項目
7	浮遊粒子状物質の環境調査	1地点、年4回、粒径別重量濃度、44項目
8	酸性雨等調査	11地点、年2回

・行政依頼検体分析

	事例	回数・検体数など
1	ダイオキシン類の環境基準超過河川における原因特定及び汚染範囲確定の調査・分析	32検体
2	常時監視においてヒ素の環境基準を超過した千里川の水質状況監視分析)	12検体
3	工場等からの排ガス中のVOC等分析	18検体
4	廃棄物焼却炉等の排ガス及び排水中のダイオキシン類分析	排ガス：2検体、排水：4検体
5	ごみ焼却施設等からの燃えがら・ばいじん中のダイオキシン類分析	17検体
6	自然海浜保全地区の水質検査（窒素、リン等）	10検体
7	ゴルフ場排水の農薬検査	20検体
8	河川・地下水の有機フッ素化合物分析	7検体
9	流通飼料の肉骨粉の水分測定	6検体
10	養豚場浄化槽排水の分析	10検体
11	府内畜産農家が生産した堆肥の分析	17検体
12	農空間整備事業に係るため池・農業用水路の水質分析	56検体
13	淀川河口域および二色浜・男里川河口の貝毒プランクトン分析	20検体
14	建築解体工事に伴うアスベスト緊急分析	大気：28件109検体、建材：7件16検体
15	異常水質に伴う原因究明調査	水質：9件39検体、へい死魚：5件

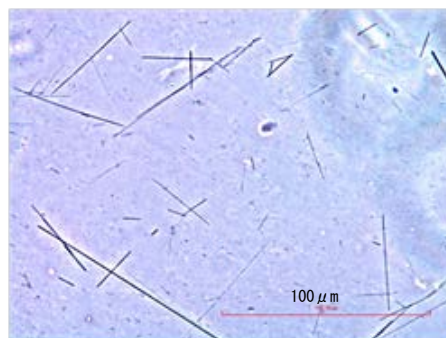
16	薄層流浄化施設の浄化効果の調査	25検体
17	廃棄物最終処分場からの1, 4-ジオキサン溶出検査	10検体
18	豊能町残土崩落現場の環境汚染調査	2検体
19	魚類へい死事故発生時の魚病検査	24検体
20	肥料検査事業における収去肥料分析	2検体

3 緊急時への対応事例 (実績報告書 8 ページ)

(1) 建築物解体工事に伴うアスベスト緊急分析

①発生した緊急事象の概要

アスベスト含有建材が使用された建物の解体等工事では、業者は大阪府環境管理室事業所指導課に届出を行い、アスベスト飛散防止対策を実施し、条例で定められた敷地境界基準 10 本/L を遵守しなければならない。事業所指導課は基準遵守確認のため、必要に応じて敷地境界において大気中アスベストの濃度測定を行う。



アスベスト繊維の顕微鏡写真

②業務の具体的内容

未届出で解体等工事が行われた等アスベストの飛散のおそれがある場合は、事業所指導課が緊急で現場に立ち入り、大気又は建材を採取して研究所に試料を搬入する。研究所は直ちに分析を行い、結果を事業所指導課に報告する。分析結果が敷地境界基準を超過した場合、健康への影響が懸念されることから、事業所指導課が報道提供を行って周辺の住民に知らせるとともに、飛散防止対策を業者に実施させる。飛散防止対策実施後、再度事業所指導課が試料採取を行い、研究所が直ちに分析を行って、飛散の有無を確認する。平成 25 年度は、大気 109 検体、建材 16 検体の分析を行った。



立入検査風景

③実施期間

通年

④業務実施結果の概要

平成 25 年度は研究所が分析を行った結果、基準超過が判明した事例はなかった。しかし、飛散防止対策が実施されないまま吹付けアスベストが使われている建築物が解体されていると通報があった未届出工事において、事業所指導課の聴取調査に対し、業者は当初アスベストの存在を認めなかったが、研究所が行った建材の分析により吹付けアスベストであることが判明し、言を翻した事例があった。これにより、事業所指導課は悪質な事例として業者を告発するなど、同様の事例の再発防止のための行政措置を素早く実施することができた。

⑤今後に向けた研究所の考え方

平成 25 年度からは、アスベストの飛散のおそれがある場合、事業所指導課が現場で簡易な分析を行い、さらに公定法に基づく分析が必要と判断された場合に研究所で分析を行うこととしている。また、平成 26 年度からは、研究所は、大阪府に加え、新たに市町村所管分に対しても重大かつ緊急を要する場合には、検体を受け入れ、速やかに分析を行うなどの技術支援を行う。

(2) 河川における異常水質の原因究明調査

①発生した緊急事象の概要

大阪府域では、例年酸素欠乏や油の流出など河川の異常水質が発生し、魚類のへい死等が起こっている。原因不明の案件が多いが、繰り返し発生しているケースもあり、原因究明及び再発防止・未然防止の方策の確立が求められている。



魚類の大量へい死

②業務の具体的内容

異常水質が発生し、付近住民等から市町村等を通じて大阪府に連絡があると、大阪府事業所指導課が緊急で現場に出動し、採水した水を環境科学センターに、回収したへい死魚は水生生物センターに搬入する。搬入後は直ちに原因究明のために、pH やシアン等の有害物質等の分析、コイヘルペスウイルス病をはじめとする魚病の検査を行い、その結果を事業所指導課、水産課に報告する。

③実施期間

通年

④業務実施結果の概要

平成 25 年度に発生した異常水質のうち、9 件の水質分析、5 件のへい死魚検査の依頼があった。水質分析では異常水質の原因物質を特定化するとともに、へい死魚検査により 3 件は酸素欠乏によるものと推定した。また、コイヘルペスウイルス病の発生が疑われるコイの PCR 検査を 2 件（その他の検査によりコイヘルペスウイルス病の疑いが無かった 3 件を含まない）実施し、うち 1 件は陽性であった。陽性事例では水産課と緊密に連携し、飼育者への指導や、処分方法について技術的支援を行った。

また、異常水質の原因をより迅速かつ正確に確認するために、異常水質の現場に出動する際に現場に持参すべき道具類、現場で調査・確認すべき事項をとりまとめた異常水質現場確認シート等を作成し、大阪府の「異常水質対応マニュアル」にその内容を盛り込んだ。また、これまでのへい死魚の診断事例などをとりまとめて「魚類へい死事故対応集」を作成するとともに、より短時間で原因究明が行える分析手順を検討し、「有害物質迅速分析手順マニュアル」としてとりまとめた。

⑤今後に向けた研究所の考え方

平成 25 年度に引き続き、異常水質の原因究明を行う。また、従来の分析では原因者の特定が困難であった油流出事故に対応するために、油の種類同定手法を検討し、「油の種類同定分析マニュアル」を作成する。

さらに、魚類へい死事故時の現場状況調査や事故事例をもとに、酸欠による魚類へい死事故発生要因の解析や、へい死状況の蓄積して「魚類へい死事故対応集」としてとりまとめる。

(3) 廃棄物最終処分場からのジオキサン溶出

①発生した緊急事象の概要

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令が改正（平成25年6月に施行）され、廃棄物処分場の排水、周縁地下水および浸透水に1,4-ジオキサンの基準が追加された。これに伴い大阪府循環型社会推進産業廃棄物指導課が府内の安定型埋立処分場の浸透水中の1,4-ジオキサン濃度を検査した結果、基準値を超過する事例が確認された。このため、汚染が確認された処分場について、汚染源の究明および汚染水の環境中への排出経路の推定を行い、効果的かつ効率的な浸透水の処理対策を早急に講じる必要がある。



1,4-ジオキサン汚染土砂の埋立が推定される地点

②業務の具体的内容

産業廃棄物指導課と協力し、汚染が確認された処分場において、観測用井戸、浸透水、放流水、周辺の環境水の1,4-ジオキサンおよび金属元素濃度等を測定し、1,4-ジオキサンの汚染源および周辺環境への影響を推定した。結果は、有効な対策につなげるため、産業廃棄物指導課へ速やかに報告した。



浸透水集水ピット

③実施期間

平成26年1月～3月

④業務実施結果の概要

- ・処分場の観測用井戸および浸透水は、処分場の上部で高い傾向を示した。産業廃棄物指導課の聞き取り調査等によると、1,4-ジオキサンの汚染が推定される土砂を処分場上部に埋め、処分場下部では覆土として利用したとのことである。浸透水の1,4-ジオキサン濃度が上部で高い傾向はこの聞き取り調査の結果と一致しており、上部の対策を優先的に進めることが効果的であることが示唆された。
- ・当該処分場の浸透水は集水ピットから浸透水処理施設を経て放流される。集水ピットと放流水の1,4-ジオキサン濃度はほぼ同程度であり、現状の施設では1,4-ジオキサンはほとんど低減していない。
- ・観測用井戸や周辺の環境水の1,4-ジオキサン濃度は環境基準値未満であった。

⑤今後に向けた研究所の考え方

1,4-ジオキサン汚染土砂の埋立地点を中心に防水シートの設置等の応急対策が実施されており、平成26年度はその効果を検証する。また、1,4-ジオキサン汚染土砂を覆土として使用しているところの汚染分布を調査する。さらに、現在の当該処分場の浸透水処理施設は曝気処理のみで、1,4-ジオキサン低減が期待できないため、促進酸化等の物理化学的処理対策についても検討する。

(4) 豊能町残土崩落現場の環境汚染調査

①発生した緊急事象の概要

平成26年2月、豊能町木代の砂防指定区域内(民有地)で、大阪市内の建設業者が道路沿いに積み上げていた建設残土が土砂崩れを起こし、府道110号線(余野茨木線)が崩れた残土で覆われた。

②業務の具体的内容

大阪府と協力し、現場で崩落した残土等により、有害な物質が環境中に浸出し、周辺住民の健康や農作物の生育等への影響を及ぼしていることがないかどうか確認するために、崩落現場近くの水路の水を2回にわたり採取し、水質汚濁防止法の健康項目、ダイオキシン類を速やかに分析し、結果を大阪府に回答した。



残土崩落現場

③実施期間

平成26年3月

④業務実施結果の概要

2つの検体いずれも水質汚濁防止法の健康項目、ダイオキシン類とも環境基準値を超過する項目はなく、崩落した残土からの有害な物質の浸出は確認されなかった。

⑤今後に向けた研究所の考え方

降雨時についても同様の調査を行うとともに、現場周辺には、他の建築業者が建設残土を搬入しているところもあることから、これらの搬入場所における大阪府の環境汚染調査にも協力する。



採水現場風景

4 農産物の病虫害発生時に係る緊急診断 (実績報告書 9ページ)

※ 主な15事例を抜粋

	事例	指導内容
1	海外から侵入し、早期落果や果実に輪紋病斑が発生するなどの被害を生じるウメ輪紋ウイルス(PPV)病の調査	府職員に同行して現地調査を実施(7人、7回)。
2	ハウストマトでの微生物農薬ボトキラーの効果について助言依頼	ダクト投入効果について情報提供
3	水なすアザミウマ類対策について助言依頼	農政アクションプラン事業実施内容打ち合わせ
4	ぶどう葉の障害について診断依頼	普及員の検鏡を指導
5	みつば生育障害について指導依頼	みつば部会定例会においてキノコバエ対策についての助言
6	トマト青枯病に対する還元土壌消毒の効果判定依頼	選択培地を用いた菌密度測定で協力
7	きくほ場内の害虫の同定依頼	ヒメナガカメムシ類の1種と診断
8	水稲ほ場に発生した虫の同定依頼	カマバチ類(ウンカ類の天敵)の1種と診断
9	トマトの黄化葉巻病疑義株の同定依頼	血清学的診断により黄化葉巻病と判定
10	トマト病害の同定依頼	検鏡によりばら色かび病と診断
11	バラ花卉の黒点症状の診断依頼	オオタバコガの食害と判明、防除法を指導
12	きゅうりの総合防除技術展示ほ視察	生産者に所内の赤色防虫ネット、赤色蛍光灯等施設見学を実施
13	ミカンのモザイク症状の診断依頼	普及員の判定を追認(カンキツモザイク病)
14	いちご根にいるウジムシの同定	検鏡によりキノコバエ類の幼虫と診断
15	ハクサイの黒斑症状の診断依頼	病徴より黒斑細菌病と診断

5 環境保全への取組支援（実績報告書 10 ページ）

省エネ・省 CO₂ 相談窓口

【調査研究の目的と H25 年度目標】

（目的）大阪府域全体の温室効果ガス排出量の4分の1を占める中小事業者の省エネルギーの取組みを支援することにより、温暖化対策を推進することを目的とする。

（H25 目標）①中小事業者の省エネ等対策の個々の事業内容に応じた支援

②業界団体・市町村と連携した省エネ等対策の支援体制の構築

③府職員に対するエネルギー管理に関する研修の実施

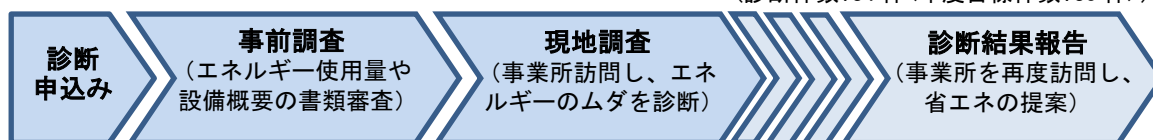
④省エネ・省CO₂・節電対策における効果、コスト等に関する情報の収集・分析・整理

【進捗の概要】（平成 26 年 3 月末現在）

（1）省エネ診断（目標①）

○事業所を訪問し、設備等の運用管理等における省エネ・省 CO₂・節電について提案を行った。

（診断件数：34 件<年度目標件数：30 件>）



診断報告書作成…



書類とヒアリングによる調査



設備の運転管理状況の診断



計測による診断

（2）セミナーの開催等（目標①）

○大阪府・大阪市（おおさかスマートエネルギーセンター）、大阪商工会議所と共催で、省エネ・省CO₂に関するセミナーを開催した。（開催：2 回、参加者合計：238 人）

（3）関連企業、団体等と連携した情報発信及び普及啓発（目標②）

○商工会議所、商工会等及び企業組合等の会報誌への投稿、会員へのメール配信、チラシの配布等を行った。（件数：42 件）

○業界団体の要望に応じて講演を行った。（講演：2 回、参加者合計：96 人）

（4）ホームページによる情報発信と普及啓発（目標①）（更新：21 回）

（5）府職員に対する研修（目標③）

○地球環境課職員を対象にエネルギー管理の講義等を実施した。

○府職員を省エネ診断に同行させることにより技術支援を行った。

（6）その他（目標①、④）

○補助金情報や省エネ技術等、省エネ・省CO₂に関する相談対応を行った。

○省エネ・省CO₂・節電に関する情報収集を行った。



環境技術評価・普及事業(おおさかエコテック)

【調査研究の目的とH25年度目標】

(目的) 大阪発の優れた環境技術の普及を通じて環境保全を推進する。

(H25 目標)

① 技術評価

大阪の中小・ベンチャー企業が開発した環境技術・製品の技術評価し、高い技術評価を受けたものを「おおさかエコテック」技術・製品として選定する。

② 普及支援

「おおさかエコテック」選定技術・製品について、様々な広報媒体を通じて普及を支援する。

【進捗の概要】

① 技術評価

平成 25 年度は、7 件の申請があり、うち6件がおおさかエコテック技術・製品に選定された。

このうち2件は、特に優れた技術・製品「ゴールド・エコテック」の評価を受け、大阪府知事から「ゴールド・エコテック授与書」の交付を受けた。

② 普及支援

(1) 展示会出展

平成 25 年度は、中小企業総合展 in Kansai など展示会4件に出展し、おおさかエコテック選定技術・製品の開発企業に技術・製品を展示する機会を提供した。

(2) セミナー開催

平成 25 年度は、「中小・ベンチャー企業のための環境技術セミナー」など3回のセミナーを開催し、おおさかエコテック選定技術・製品の開発企業に発表機会を提供した。

また、おおさかエコテック選定技術・製品の発表にあたっては、難解なものであっても少しでも一般の人々にとって理解しやすくなるよう企業担当者に対して助言した。

(3) メールマガジン・ホームページによる発信

メールマガジン「環境技術情報メール配信サービス」や、当研究所ホームページにおいて、おおさかエコテック選定技術・製品の紹介を行った。

(4) その他

おおさかエコテック選定技術・製品の紹介チラシを制作し、MOBIO や大阪商工会議所等の中小企業支援機関で配布・配架したほか、当研究所環境科学センターの玄関ホールにおいて、ポスター・パネル展示によるおおさかエコテック選定技術・製品の紹介を行った。



6 環境農林水産分野の技術支援(その他) (実績報告書 10ページ)

1	府内畜産農家が生産する堆肥を審査する「大阪府堆肥共励会」において、品質を科学的、外観的の両面から評価するとともに、耕畜連携推進に関する情報を提供
2	田尻町マーブルビーチに造成されたアマモ場について調査・指導の(7回)
3	大阪府漁連が開催する資源管理部会(船引き網部会、底引き網部会、刺し網部会など)での技術指導(12回)。
4	府からの委嘱により委員会等へ参画。 ・府知事依頼 大阪府環境審議会幹事 ・府商工労働部依頼 大阪府中小企業新事業活動促進法承認等審査委員 ・府都市整備部依頼 せんなん里海公園人工磯浜検討委員会委員 ・府環境管理室依頼 大阪府環境影響評価連絡会及び同審査部会 ・府農政室依頼 大阪府エコ農業推進委員会委員 ・府農政室依頼 なにわ伝統野菜推進委員会委員 ・府農政室依頼 大阪産(もん)五つの星大賞及び大阪産(もん)チャレンジ支援審査委員会審査委員
5	安威川ダム建設事務所からの委託により、ダム建設予定の安威川における魚類や河川環境について調査を実施。
6	府内内水面養殖業者が参加する内水面検討会(2回)、府内河川漁協が出席する内水面振興対策推進事業に係る検討会(3回)に出席し、魚類や魚病についての情報を提供。
7	水産課より委託を受け、「安威川・余野川アユ調査」を実施(2河川6地点)し、府の漁業権免許更新に係るデータの蓄積、漁場環境の経時的把握について技術的に支援した。
8	水産課より要請を受け、ノリ、ワカメなどの藻類養殖について巡回指導(5回)と採苗指導(1回)をおこない、併せて藻類養殖情報を発行して養殖漁家に対する技術支援を行った。
9	水産課の委託を受け、大阪湾内に造成された魚類増殖場の効果把握のための調査を実施
10	大阪府果樹振興会主催の大阪府果樹品評会(くり立木)、花き園芸品評会、溶液栽培トマト品評会において表彰者を選定

7 農業大学校運営実績 (実績報告書 11 ページ)

(1) 養成科コース

① 新入生の志願者・入学者状況

入学年度	志願者数	入学者数(※)	うち女子	充足率(%)	平均年齢
23	24	21(3)	5	84	25.2
24	37	25(7)	6	100	27.0
25	37	25(8)	5	100	31.0

※括弧内は短大、大学、大学院の卒業者数

② 履修時間

1学年 学科 720 時間、実習 720 時間、課外学習・研修 60 時間で合計 1,500 時間

2学年 学科 600 時間、実習 765 時間、課外学習・研修 60 時間で合計 1,425 時間

③ 履修科目

1学年 作物・果樹・野菜・花きなど 14 科目

2学年 農業経営、マーケティング論、農産加工など 19 科目

④ 実習

1学年 農場実習: 農大教育ほ場及び各研究部門での技術実習と販売実習

農家実習: 先進的な農家である大阪府「農の匠」宅での農作業

2学年 専攻実習: 当研究所の研究部での卒業論文

⑤ 講師

28 名(大阪府職員 5 名 非常勤講師 3 名 外部講師 20 名)

⑥ 卒業生の進路状況

卒業年度	入学者数	卒業者数	就農	農業法人等	JA	農業関連	その他
23	25	22	4(*1)	9	0	3	6
24	21	19	2(*2)	6(*4)	3	4(*6)	4
25	25	19	3(*3)	9(*5)	2	1	4

* 就農形態 *1: 親元就農 4 *2: 親元就農 1、準農家 1 *3: 親元就農 1、親元就農 2

* 雇用就農 *4: 農業生産法人 3、農の匠 3 *5: 農業生産法人 5、農の匠 4

* 農業関連 *6: 青果物流通・加工販売 2、鉢花加工・販売 1、農業機械販売 1

(2) 短期プロ農家養成コース

コース別の応募状況

年度 コース ／分野	23			24			25		
	集中		入門	集中		入門	集中		入門
	野菜	果樹		野菜	果樹		野菜	果樹	
応募者数	52	12	55	30	15	65	37	19	55
受講者数	22	12	41	21	15	53	20	16	49

【備考】 募集定員は野菜 20 名、果樹 15 名、入門 50 名(年 2 回、各 25 名募集)

(3) 無料職業紹介

養成科コースの学生を対象に、農業生産法人やJA等農業関連企業への就職を斡旋

① 農業大学校への募集件数の推移

23年度: 29件 → 24年度: 37件 → 25年度: 26件

② 地方独立行政法人への移行に伴い、厚生労働大臣への届出制から許可制となった無料職業紹介所を開設した。(平成 24 年 9 月 1 日許可)

(4) 新たな教育カリキュラム編成のための検討の実施

大阪農業の特性に重点をおいた新たなカリキュラムについては、実習時間を増加させるなど技術力の向上を図るほか、農業技術研鑽コース、農業実践コースなどのコース分けの実施を視野においた検討を行った。

8 情報発信ツール一覧（実績報告書 12 ページ）

1 危機管理情報（光化学スモッグ情報など緊急性が高く、府民の健康や業被害に影響がある情報）

No	名称と情報発信の方法	内 容	対 象 者 <メール配信 登録者数>	発信 時期 頻度
1	大阪湾赤潮情報 （大阪湾赤潮速報・月別赤 潮発生状況・有害プランク トン情報） ホームページ	プランクトン観測結果（赤潮・有 害）	漁業関係者・一般 府民	速報・有害：月 2 ～ 4 回 月別：月 1 回
2	大阪湾貝毒原因プランク トン情報 ホームページ	プランクトン観測結果（貝毒）	漁業関係者・一般 府民	月 2 ～ 4 回

2 総合情報（研究所本部や各サイトのHP、エコギャラリーや環境プラザなど施設利用サイトも含む）

No	名 称	内 容	対 象 者 <メール配信 登録者数>	発信 時期 頻度
1	大阪府環境農林水産総合 研究所 ホームページ	研究所の概要、各種お知らせ、研 究成果紹介、栽培技術情報など	一般府民・行政関 係者等	常時（随時更新）
2	大阪府環境農林水産総合 研究所メールマガジン Eメール	研究所が実施する事業に関する最 新情報やイベントの案内など	一般府民・行政機 関等 <530>	18 回／年
3	環境技術情報メール配信 サービス Eメール	環境技術に関する最新情報や講習 会の案内など	配信登録企業 <1,275>	随時 月 2 回以上 （年間 36 回）
4	環境情報プラザ ホームページ	施設概要、貸出資料類の紹介、貸 室空き状況確認、環境学習に関す る情報提供	一般府民・N P O・行政機関等	常時（随時更新）
5	本部・食とみどり技術セン ター ホームページ	施設および研究内容の紹介、イベ ント情報	一般府民・事業 者・行政機関等	常時（随時更新）
6	環境科学センター ホームページ	環境科学センターの概要紹介、各 種環境分析の結果、省エネ・省C O ₂ 相談、環境技術コーディネート 事業など	一般府民・事業 者・行政機関等	常時（随時更新）
7	農業大学校 ホームページ	農業大学校の課程・施設・行事な どの概要紹介、募集案内など	一般府民	常時（随時更新） ・学生募集：8 月 ・短期プロ農家養 成コース募集 集中コース：4 月 入門コース：6、9 月
8	水産技術センター ホームページ	水産技術センターの概要紹介、大 阪湾の生きものの紹介、大阪府の 漁業概要、イベント情報等	一般府民・漁業者	常時（随時更新）
9	水生生物センター ホームページ	水生生物センター概要、イベント 紹介、府内の水生生物などに関す る情報、淡水魚・植物図鑑、淡水 魚の病気など	一般府民	常時（随時更新）

10	水産技術センター・メール マガジン Eメール	水産技術センターのイベント情報 等	一般府民等 <229>	随時 (11 件)
----	------------------------------	----------------------	----------------	-----------

3 技術普及および技術支援情報 (各種公表データのHP等)

No	名 称	内 容	対 象 者 <メール配信 登録者数>	発信 時期 頻度
1	過去に寄せられたよくある質問 ホームページ	府民から寄せられた代表的な技術相談のQA	一般府民・NPO・行政機関等	常時 (随時更新)
2	環境技術コーディネート事業 ホームページ	在阪企業の環境分野における技術開発を大学や関係機関との連携体制でサポートする事業。	事業者	常時 (随時更新)
3	省エネ・省CO ₂ 相談窓口 ホームページ	中小事業者の省エネルギーの取組支援を通じて温暖化対策を推進する相談窓口	事業者	常時 (随時更新)
4	大阪府が発注する環境調査・検査業務に係る技術認定制度 ホームページ	大阪府が発注する環境調査・検査業務の適正な履行を確保するため、これらの業務を受託しようとする事業者の技術的適性の認定制度	事業者	常時 (随時更新)
5	微小粒子状物質 (PM _{2.5}) 成分分析 ホームページ	微小粒子状物質 (PM _{2.5}) の成分分析結果	一般府民	常時 (随時更新)
6	ひと目でわかる花と野菜の病害虫 (大阪府園芸植物病害虫図鑑) ホームページ	主な農作物の病害虫の診断・防除について	農業者・農協職員・府関係者など	更新予定なし
8	作物栽培技術情報 ホームページ	新奨励品種情報、水稻栽培の手引き、水稻奨励品種特性表など	農業者・農協職員・府関係者・学校教育関係者など	常時 (随時更新)
9	おおさかアグリメール Eメール	大阪府内主要農作物の栽培技術情報、気象情報、市況、各種お知らせなど	農業者・農協職員・府関係者など <1,149>	ほぼ毎日 (年間 366 件)
10	緑化技術等研修の案内 ホームページ 、 Eメール 、 通送	緑化技術等研修 開催案内	緑化技術者 (市町村・教育委員会等)・一般府民	随時 (年 5 回程度)
11	漁況通報 ホームページ 、 郵送 、 通送	主な魚介類の種別漁獲量	漁業関係者・一般府民 (郵送・通送 37 カ所)	月 1 回
12	藻類養殖情報 ホームページ 、 郵送 、 FAX	ノリ・ワカメ養殖に関する情報	藻類養殖関係者等 (郵送は 6 カ所、FAX は 2 カ所)	月 1 回 (11~3 月)
13	大阪湾水温速報 ホームページ 、 FAX	水温定置観測結果	漁業関係者・一般府民 (FAX は 26 カ所)	毎日 (FAX は毎週月曜日)
14	大阪湾全域水温速報 FAX	水温観測結果	漁業関係者 26 カ所	月 2 回

15	大阪湾カタクチイワシ卵稚仔情報 <u>F A X</u>	カタクチイワシ卵稚仔の採集状況	漁業関係者 27 カ所	月 1 回
16	大阪湾シラス情報 (速報) <u>F A X</u>	シラス全長組成情報	漁業関係者 13 カ所	月 1~3 回
17	イワシシラス・イカナゴしんこ漁況予報 <u>ホームページ、FAX</u>	シラス漁・イカナゴ漁に関する情報	漁業関係者・一般府民 (FAX はイカナゴ 38 カ所、シラス 29 ヶ所)	4・6・9・10・1・2月
18	生物・植物図鑑 <u>ホームページ</u>	大阪湾や府内の魚類や水草、両生類、甲殻類、外来種などの情報	一般府民	常時
19	直売切り花技術情報 <u>ホームページ</u>	直売切り花技術マニュアル	農業者、一般府民	常時

9 セミナー・講習会・イベント（実績報告書 13ページ）

※ 実施場所の“食みC”は食とみどり技術センター、“水技C”は水産技術センターの略

分類	番号	手法	事業名称	内容	対象者 予定人数	実施場所	回数	実施時期	主催
法人が主催のもの	1	出展	おおさかエコテック企画展 in MOBIO	おおさかエコテックの事業PR及び選定技術・製品の普及支援	一般	クリエイションコア 東大阪	1回	3月4～27日	主催
	2		魚庭のうみづくり大会	調査船の内部見学、タッチングプール、水槽展示、パネル展示などにより研究所業務と大阪湾の魚介類に対する理解を深めてもらう。	一般	岸和田市地蔵浜	1回	10月20日	
	3	講習等	省エネ・省CO2セミナー	省エネ省CO2に関する国や府の施策や、省エネの手法について広く情報発信する	中小事業者	①大阪商工会議所 ②マイドームおおさか	2回	①6月10日 ②11月25日	共催
	4		環境技術セミナー	環境負荷を低減し、環境改善に役立つ技術及び製品の開発を促進するための話題提供とエコテック技術・製品のPR	中小・ベンチャー企業	①環境情報プラザ ②大阪商工会議所	2回	①10月29日 ②3月5日	①主催 ②共催
	5		環境技術セミナー	揮発性有機化合物(VOC)・重金属など有害大気汚染物質の府内の状況・対策のほか、環境分析事業者の技術の現状を紹介	事業者等	いであ(株)大阪支社	1回	1月24日	共催
	6		ATC省エネ博2013併催セミナー	おおさかエコテックの事業PR及び選定技術・製品の普及支援	一般、事業者等	おおさかATCグリーンエコプラザ	1回	9月20日	共催
	7		講演会 大阪府木質系バイオマス活用推進協議会発足記念「バイオコークスの普及と用途拡大の模索」	石炭コークスの代替燃料として開発されたバイオコークスの産業分野での展開や用途拡大について、発明者である近畿大学井田准教授が講演	事業者、行政等	食みC	1回	10月7日	主催
	8		テクニカルセミナー	食品関連事業者を対象に、技術動向や最新の研究成果を解説	中小事業者	大阪産業創造館	1回	11月20日	共催
	9		「かけはし」エコセミナー	①「大阪府環境教育等行動計画」の概要について講演及び協働取組の事例発表 ②協働事業の事例発表及び「協働」についての交流ワークショップ	環境に興味のある府民・事業者・行政担当者等	環境情報プラザ	2回	①8月26日 ②1月20日	共催
	10		「かけはし」事業 中学数学で学ぶ統計学勉強会	環境施策の立案・評価・改善等において数値を適切に取り扱うための統計学の勉強会	NPO	環境情報プラザ	6回	①11月20日 ②12月18日 ③1月15日 ④2月19日 ⑤3月19日 フォローアップ 1月25日	共催
	11		水生生物センターサポートスタッフ講習会	府内水辺の生物や自然環境の講習や現地観察会	サポートスタッフ	水生生物センター	1回	12月23日	主催
	12		大阪湾セミナー	大阪湾の魚の食べ物と濃厚な味わいが特徴のヨシエビの話	府民(高校生以上)	環境情報プラザ	1回	6月16日	主催
	13		研究所・府大連携セミナー	景観デザイナーの花村先生と共に大阪湾に再び目を向け、新たな視点で大阪湾の再生や修復を進めていく	一般	大阪府咲洲庁舎	1回	11月26日	共催
	14		研究所・大阪市立環境科学研究所 平成25年度連携環境セミナー	大阪府民とのかかわりの深い道頓堀川と淀川の水质や生き物について最新の話題を提供するとともに、水都大阪の再生に向けた市民活動事例の紹介	一般	大阪市立環境科学研究所	1回	12月10日	共催
	15		家庭園芸セミナー	園芸を愛好する府民に、野菜、花、果樹、庭木などの栽培方法を実践をまじえて解説する。	府民	食みC	5回	①5月17日 ②7月26日 ③9月20日 ④11月15日 ⑤1月17日	主催
	16	次代を担う産業人材養成啓発事業(学びが変わる! 高校生の職業意識3D化事業)	高校生を対象に河川水のCOD分析、ペーパークロマトグラフィーの実験、バックテストによる水の分析等を通して、理系への興味を促し、理解を深める。	高校生	環境情報プラザ	1回	9月9日	主催	
	17	イベント	環境科学Cこども環境教室(環境月間行事)	環境月間に、小学校の児童を対象として環境に関するテーマを取り上げ、暮らしの中で環境問題を考えて行動するヒントを身につける。	大阪市立森之宮小学校6年生	環境情報プラザ	1回	6月12日	主催
	18		水産技術Cのこども体験教室(環境月間行事)	研究員から大阪湾の魚類について話を聞くとともに稚魚を放流して、栽培漁業について学習。	深日小学校	深日漁港	1回	6月19日	主催
	19		環境情報プラザ『環境について学ぼう!』キッズプログラム	指導員の指導のもと、環境紙芝居の読み聞かせやビオトープでの自然体験、ワークショップなどのプログラムを実施	主に小学生	環境情報プラザ	2回	①8月7日 ②8月21日	主催

法人が主催・共催のもの	府民・事業者	イベント	20	環境情報プラザ『環境について学ぼう!』自由プログラム	環境図書の読書、調べ物学習、ピオトープ教材を使っての体験など、興味のある分野を各自で体験。必要に応じて指導員がアドバイス。	一般	環境情報プラザ	7回	①8月30日 ②10月7日 ③10月7日 ④10月16日 ⑤10月28日 ⑥12月19日 ⑦1月22日	主催
			21	環境科学Cこども環境教室	環境月間に、小学校の児童を対象として環境に関するテーマを取り上げ、暮らしの中で環境問題を考えて行動するヒントを身につける。	一般	環境情報プラザ	1回	6月12日	主催
			22	食とみどりの探検隊	食べものやウシ、アヒルなどの研究をしている研究所の中を探検し、研究員と一緒に楽しく「食」や「農」について学ぶ。	小学生・保護者	食みC	1回	8月24日	主催
			23	イタセンバラとふれあおう	水生Cピオトープ池での生物採取やイタセンバラ観察など	小中学生・保護者	水生生物センター	1回	10月6日	主催
			24	海の教室	海岸生物の観察、栽培漁業の体験、地引き網体験などを通じて、海に関する理解を深めるとともに、環境の大切さを認識。	小中学生・保護者	水産技術C	1回	7月21日	主催
			25	出前授業「天然記念物イタセンバラを知ろう」	イタセンバラの出張展示と淀川やイタセンバラ、生物多様性に関する講習	小学生	府内小学校2校	2回	10月3日、10月29日	主催
			26	その他	ゴールド・エコテック授与式	ゴールド・エコテック選定技術開発者に対し、「ゴールド・エコテック授与書」を授与	事業者等	①大阪府知事公館 ②大阪府庁正庁の間	2回	①8月27日 ②2月18日
	27	シンポジウム	研究所発足シンポジウム		事業者・府民・行政	マイドーム大阪	1回	5月14日	主催	
	行政	報告会	1	研究所環境課題成果発表会	研究所が環境分野で行っている調査研究や業務の成果について、府及び市町村職員を対象に発表する。	府環境農林水産部、府内市町村環境行政担当職員	大阪府咲洲庁舎	1回	1月23日	主催
			2	水産技術C研究業務成果発表会	H25年度 水産技術センターの研究成果についての発表会	漁業関係者・行政	大阪府漁連	1回	2月7日	主催
講習		3	大気中の石綿濃度測定技術研修	大気中石綿濃度の迅速測定のための位相差顕微鏡の使い方測定に必要な技術習得	府環境農林水産部石綿規制業務従事職員	環境科学センター	7回	1日目 ①4月24日 ②4月26日 2日目 ①5月2日 ②5月7日 ③5月9日 ④5月10日 ⑤5月16日	主催	
		4	緑化技術等研修会	市町村職員等を対象に、緑化技術の研修を行う。	市町村職員等	食みC	4回	①8月8日、9月12日、10月24日 ②11月1日 ③2月7日 ④3月14日	主催	

他機関が主催のもの	ビジネスマッチング	1	アグリビジネス創出フェア	開花液を用いた特定日開花技術、直売専用バケツなどの研究成果 事業者との連携成果(ケニファイン、オクトクロスなど)	事業者	東京ビッグサイト	1回	10月23日～25日	農林水産省
	ビジネスマッチング	2	地方特産食材の商談会「天下の台所」	全国からこだわりの食材を扱う企業にご出展いただき、大阪の食品メーカー・企画・卸・小売業の企業と商談していただくイベント	事業者他	大阪産業創造館	1回	11月20日	
	ビジネスマッチング	3	なんと元気企業マッチングフェア2013	事業者のマッチング	事業者	マイドームおおさか	1回	11月20日	南都銀行
	ビジネスマッチング	4	大阪府立大学・大阪府立大学ニューテックフェア2013	研究所と事業者の連携事例紹介	事業者	大阪産業創造館	1回	11月27日	大府大、大市大
	ビジネスマッチング	5	アグリフードEXPO大阪2014		事業者	ATCホール	1回	2月20日～21日	日本政策金融公庫
	ビジネスマッチング	6	和泉市ビジネス交流会		事業者	産技研	1回	9月19日	和泉市、和泉市商工会議所、産技研
	ビジネスマッチング	7	産技研・市工研合同発表会		事業者	クリエイションコア 東大阪南館	1回	11月28日	産技研・市工研
	ビジネスマッチング	8	近畿地域マッチングフォーラム	直売所での切り花販売にかかる研究成果を報告、展示	事業者、JA、行政、研究者	エルおおさか	1回	11月19日	農林水産技術会議
	ビジネスマッチング	9	中小企業総合展2013 in Kansai	おおさかエコテックの事業PR及び選定技術・製品の普及支援	事業者	インテックス大阪	1回	5月29～31日	その他
	ビジネスマッチング	10	大阪トップランナープロジェクト・ビジネスマッチングフェスタ	おおさかエコテック及び大阪府環境情報プラザの事業PR	事業者	大阪産業創造館	1回	3月18日	その他

他 機 関 が 主 催 の も の	ビジネス マッチン グ	11	おおさかATCグリーン エコプラザ常設展示	おおさかエコテックの事業PR及び選定技術・ 製品の普及支援	事業者	おおさかATCグ リーンエコプラザ	1回	通年	その他
	ビジネス マッチン グ	12	大阪新年互礼会	チャレンジ支援事業の成果として、桃飴、玉 葱おこげ、イチジクグラッセの展示、紅たでジ ンジャーエール、泉州水ナス塩クッキー、ピク ルスの展示と試食	行政・事業者	大阪国際会議場	1回	1月6日	大阪府 大阪市 在阪経済三団体
	一般	13	大阪産(もん)大集合	パネル展示による大阪産(もん)チャレンジ支 援事業の取組成果紹介、タッチングプールで 大阪産(もん)の魚とのふれあいなど。	一般	WTC	1回	7月7日	大阪府
	一般	14	みんなでkappo! 御 堂筋フェスタ2013	大阪産(もん)チャレンジ事業の紹介とタッチ ングプールにより大阪湾の魚介類に対する理 解を深めてもらう。	一般	御堂筋	1回	5月12日	大阪府 大阪市
	一般	15	13食博覧会・大阪	食に関する4年に1度の総合展示会	一般	インテックス大阪	1回	4月26日 ～5月6日	食博覧会実行委 員会
	一般	16	はびきの市民フェス ティバル	府内のバイオマスを原料とするバイオコー クスに関する研究成果物の展示	一般	羽曳野市 峰塚公園	1回	5月6日	はびきの市民フェ スティバル実行委 員会
	一般	17	淀川わいわいガヤガ ヤ祭	移動水族館	一般	摂津市淀川右岸河 川敷公園	1回	4月20日	その他
	一般	18	「来て見て体験in村野 浄水場」	天然記念物イタセンバラの展覧と説明	一般	村野浄水場	1回	11月3日	村野浄水場
	一般	19	エコフェスタ in Expo Park	研究所及び「かけはし」として出展。 ・太陽光を利用した電動玩具の展示 ・食塩水を使った発電体験 ・研究所の取り組み紹介 ・「かけはし」及び登録団体の活動紹介	一般	万博記念公園	1回	11月2日 ～4日	その他
	一般	20	フィッシングショー OSAKA2014	キジハタ水槽展示と栽培漁業対象種につ いて小型魚の再放流について釣り人への呼び かけ	一般	インテックス大阪	1回	2月7日 ～9日	大阪釣具協同組 合
	一般	21	大阪湾Years2012～ 2013 ファイナルイベ ント	市民、学識者、企業や行政など多様な主体が 連携し、共通テーマ「つながる・つなげる」に基 づく「大阪湾再生」の10年間の総括を行うと ともに、将来像を議論	一般	大阪市立自然史博 物館 海遊館	1回	3月1日～ 3日	大阪湾Yearsコア グループ会議事 務局 近畿地方整備局
	一般	22	深日漁港ふれあい フェスタ	タッチングプールにより大阪湾の魚介類に 対する理解を深めてもらう。	一般	深日漁港	1回	10月27日	深日漁業協同組 合 岬町商工会
	ビジネス マッチン グ	1	「農業者・事業者マッ チング相談会」	南河内地域内の農業者及び農業者団体など が、農産物やその加工品(漬物・ジャム等)を 展示し、府内の食品関連事業者へPR	事業者他	南河内府民C	1回	1月30日	南河内農緑事務 所
	事業者	2	省エネ・省CO2研修会 講演	業界団体が主催する研修会等において、省 エネ・省CO2に関する講演を行う。	公益社団法人大阪 介護老人保健施設 協会会員	ホテルアウリーナ 大阪	1回	6月12日	(公社)大阪介護 老人保健施設協 会
	事業者	3	省エネ・省CO2研修会 講演	業界団体が主催する研修会等において、省 エネ・省CO2に関する講演を行う。	扶桑化学工業㈱社 員	扶桑化学工業㈱	1回	12月18日	扶桑化学工業㈱
	事業者	4	JEO定期セミナー	おおさかエコテックの事業及び選定技術・製 品の紹介	JEO会員	StoRKビル会議室	1回	6月20日	(一社)全国環境 対策機構(JEO)
	事業者	5	特定非営利活動法人 テクノメイトコープ技 術講演会	おおさかエコテックの事業及び選定技術・製 品の紹介	特定非営利活動法 人テクノメイトコー プ会員	大阪府立大学 I- siteなんば	1回	11月27日	NPO テクノメ イトコープ
	事業者	6	「地球温暖化対策推 進」に関する事業者 向けセミナー	「工場・事務所の省エネ対策」について講演	大阪市内事業者	大阪YMCA会館	1回	2月27日	大阪市環境局
	事業者	7	大阪市環境経営推進 協議会セミナー		大阪市環境経営推 進協議会会員	大阪市環境局会議 室	1回	3月20日	大阪市環境経営 推進協議会
	事業者	8	漬物衛生講習会	漬物製造における水なすの色落ち試験結果 について講演	中小事業者	泉州府民センター	1回	3月25日	その他
	事業者 (JA)	9	大阪府植物防疫協力 員等研修会	アザミウマ類の薬剤抵抗性及び生物農薬を 活用したなすのアザミウマ類の防除について	大阪府植物防疫協 力員、行政	食みC	1回	7月22日	大阪府・大阪府植 物防疫協会
	事業者 (JA)	10	アグリアドバイザー養 成研修	静電気を利用した病害虫侵入防止技術	JA職員	食みC	1回	7月30日 12月18日 1月22日	JA大阪中央会

他 機 関 が 主 催 の も の	事業者 (JA)	11	スーパーアグリアドバイザー養成研修	病害虫防除	JA営農指導員	食みC	1回	11月7日 11月14日	JA大阪中央会
	事業者 (JA)	12	JA直売所店長会議	直売向け切り花の特定日開花と需要予測技術について	JA直売所店長	JA共済大阪ビル	1回	10月21日	JA大阪中央会
	事業者 (JA)	13	JA直売所店長講習会	直売向け切り花の特定日開花と需要予測技術について	JA関係者	JAファーマーズマーケットおうみんち	1回	12月2日	JA滋賀中央会
	行政	14	環境行政基礎技術研修		大阪府職員	大阪府咲洲庁舎	1回	7月31日	大阪府
	行政	15	平成25年度環境モニタリング技術研修		国及び地方公共団体等において汚染物質等の常時監視業務を担当している職員	環境省環境調査研修所	1回	7月5日	環境省環境調査研修所
	行政	16	平成25年度九州ブロック農業分野における障がい者就労セミナー	福祉から就労へ～障がいのある人材が農業で活躍するための方策について講演	農業・福祉・行政関係者	くまもと森都心プラザ プラザホール	1回	11月13日	九州農政局
	行政	17	普及指導員研修(作物研修)	水稻の栽培方法、及び奨励品種決定調査について、及び、水稻の高温登熟障害対策について	大阪府普及指導員6名	食みC	3回	5月29日 10月2日 11月8日	大阪府
	行政	18	大阪府高病原性鳥インフルエンザ防疫実動訓練	府内養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生したと想定し、各種訓練を実施。	畜産関係者、府関係機関職員、市町村職員	食みC	1回	12月19日	大阪府
	行政	19	全国一斉口蹄疫防疫演習への協力	口蹄疫疑似患畜発生を想定した防疫演習において、家畜防疫員の検査・情報伝達訓練への協力	府関係機関職員、当所職員	食みC	1回	2月17日	大阪府
	行政	20	普及指導員を対象としたクローピクリン剤研修会	クローピクリン剤の防除効果について	普及指導員、行政	食みC	1回	10月17日	大阪府・大阪府植物防疫協会
	行政	21	第11回アライグマ対策連絡協議会総会	アライグマ生息状況のモニタリング調査	府関係機関職員、市町村職員	咲洲庁舎	1回	5月30日	大阪府
	行政	22	平成25年度大阪府シカ・イノシシ保護管理検討会	シカ生息状況のモニタリング調査、イノシシ生息状況のモニタリング調査	学識経験者、JA、猟友会、保全団体、府市町村関係職員	咲洲庁舎	1回	8月29日	大阪府
	行政	23	第8回大阪府アライグマ被害対策検討委員会	アライグマ生息状況のモニタリング調査	学識経験者、JA、猟友会、保護団体、府市町村関係職員	咲洲庁舎	1回	9月3日	大阪府
	行政	24	平成25年度鳥獣保護管理庁内検討会	シカ・イノシシのモニタリングと効果的防除方法調査	府関係機関職員、当所職員	咲洲庁舎	1回	9月3日	大阪府
	行政	25	北摂山系森づくりサポート協議会	鳥獣被害対策調査	府関係機関職員、市町村職員、森林組合員	大阪府三島府民センター	1回	9月18日	大阪府
	行政	26	南丹・北摂地域鳥獣被害防止対策連絡協議会	大阪府における野生鳥獣モニタリング調査	府関係機関職員、南端北摂地域市町村職員	大阪府三島府民センター	1回	1月28日	南丹・北摂地域鳥獣被害防止対策連絡協議会
	行政	27	H25大阪府鳥獣被害防止対策推進協議会第3回総会	大阪府における野生鳥獣モニタリング調査	府関係機関職員、市町村職員、JA	咲洲庁舎	1回	2月25日	大阪府
	行政	28	ナラ枯れ研修会(大阪府治山治水協会)	ナラ枯れ被害の現状とその対策について	府関係機関職員、森林保全員、自然環境保全指導員	箕面市立市民活動センター	1回	10月29日	大阪府治山治水協会
	行政	29	大阪府新規採用職員研修	環境科学センター、大阪府大気汚染常時監視業務紹介、施設見学	大阪府職員	環境科学センター	1回	4月5日	その他
	行政	30	大阪府エネルギー政策課職員視察	環境科学センター、大阪府大気汚染常時監視業務紹介、施設見学	大阪府職員	環境科学センター	1回	5月9日	その他
	行政	31	試料分析用窒素定量装置導入事例調査	当所が導入した窒素定量装置の見学	宮崎県畜産振興課	食みC	1回	3月24日	その他
	NPO等	32	農産園芸福祉ボランティア養成	園芸福祉ボランティアに研修活動の場を提供するとともに、栽培技術等の情報提供を行う。	園芸福祉ボランティアグループ会員	食みC	50回	通年	その他

他機関が主催のもの

一般	33	堺エコロジー大学堺の海再発見	堺エコロジー大学で大阪湾の環境と生物について知識を深める。	一般	堺2区友愛ビーチ堺市出島漁協等	2回	5月20日 10月26日	その他
一般	34	大阪府高齢者大学校自然文化研究科	大阪における環境保全の取組の歴史を講演。	大阪府高齢者大学校受講者	大阪市教育会館	1回	1月21日	NPO大阪府高齢者大学校
一般	35	香里園協和会施設見学	環境科学センター、大阪府大気汚染常時監視業務紹介、施設見学	府民	環境科学センター	1回	4月9日	その他
一般	36	NPO法人大阪シニア自然カレッジ施設見学	環境科学センター、大阪府大気汚染常時監視業務紹介、施設見学	府民	環境科学センター	1回	1月8日	その他
海外	37	大阪府立大学地域連携研究機構施設見学	環境科学センター、大阪府大気汚染常時監視業務紹介、施設見学	留学生	環境科学センター	1回	8月13日	その他
海外	38	海外技術協力センター施設見学	環境科学センター、大阪府大気汚染常時監視業務紹介、施設見学	海外研修生	環境科学センター	1回	10月24日	その他
海外	39	あおぞら財団施設見学	環境科学センター、大阪府大気汚染常時監視業務紹介、施設見学	海外研修生	環境科学センター	1回	1月23日	その他
教育者	40	ものづくりから始まる技術指導力向上研修	培養土等の栽培に関する基本的な知識、播種等の栽培技術に関する基本的な知識及び技術とその指導方法	中学校及び府立支援学校(中学部)の技術分野担当教員	食みC	1回	8月13日	その他
教育者	41	摂津市学校保健会総会		摂津市医師会、摂津市歯科医会、摂津市薬剤師会、幼稚園・小学校・中学校等保護者、摂津市立学校園教職員、学校関係者等	摂津市役所	1回	6月6日	摂津市学校保健会
教育者	42	吉野郡科学教育研究会施設見学	環境科学センター、大阪府大気汚染常時監視業務紹介、施設見学	教員	環境科学C	1回	8月22日	その他
研究	43	大気エアロゾルセミナー		大気環境学会会員	大阪府立大学	1回	3月14日	大気環境学会近畿支部
大学	44	大阪府立大学研修生講習会	果樹栽培についての講習会	大阪府立大学学生	食みC	1回	5月29日	大阪府立大学
大学	45	大阪府立大学 国際環境学特論	環境保全対策の概要について講義をするとともに、環境問題解決をテーマにグループで討論。	府立大学院生	大阪府立大学	2回	①5月30日 ②7月4日	大阪府立大学
学生	46	日本分析化学専門学校施設見学	環境科学センター、大阪府大気汚染常時監視業務紹介、施設見学	専門学校生	環境科学センター	1回	5月21日	その他
学生	47	環境学園専門学校施設見学	環境科学センター、大阪府大気汚染常時監視業務紹介、施設見学	専門学校生	環境科学センター	1回	7月2日	その他
高校生	48	奈良学園SSH科学専攻クラス研修	理数系の授業が水産技術センターの業務を行う上で、どの様に役立つのかが理解できる話しをし、生徒の理数系への関心を高める	奈良学園高校	水技C	1回	6月17日	その他
高校生	49	農業体験学習	野菜の栽培方法、形態特性等について講習、及び、ほ場実習	懐風館高等学校	食みC	7回	11月7日	その他
高校生	50	大阪府立高津高校施設見学	環境科学センター、大阪府大気汚染常時監視業務紹介、施設見学	高校生	環境科学センター	1回	7月11日	その他
中学生	51	職業体験研修	総合学習の一環として職場体験を通じた教育の機会を提供する	依頼のあった府内中学校	水生生物センター	3回	9月3～5日、9月11～12日、11月6～7日	
中学生	52	職業体験研修	羽曳野市立高鷲中学校	羽曳野市立峰塚中学校	食みC	1回	6月13日	
中学生	53	職業体験学習	野菜の栽培方法、形態特性等について講習、及び、ほ場実習	羽曳野市立峰塚中学校	食みC	6回	2013/6/12～13	その他

他
機
関
が
主
催
の
も
の

講
習
等

こども	54	里海公園磯浜見学会	大阪府の漁業の講義	小学生	淡輪小学校	1回	9月	港湾局
こども	55	西浦小学校総合学習	西浦の自然と共存するためにどんなことができるのか	小学生	西浦小学校	1回	6月10日	西浦小学校
農業者	56	JA大阪泉州水稲技術講習会	水稲栽培技術、有望品種の動向、及び高温登熟障害について	水稲生産農家	JA大阪泉州営農C	1回	3月29日	JA大阪泉州
農業者	57	イチジク講習会	イチジク接ぎ木栽培の実演講習会	JALいずみの(岸和田)いちじく部会	JALいずみの営農センター	1回	3月25日	大阪府
農業者	58	イチジク講習会	イチジク接ぎ木栽培の実演講習会	JALいずみの(和泉)いちじく部会	JALいずみの横山支店	1回	3月26日	大阪府
農業者	59	ブドウ栽培技術講習会	ブドウ早期落葉症状について解説	交野ブドウ生産者団体	交野市ブドウ出荷場	1回	3月19日	大阪府
農業者	60	南河内地区果樹振興会連絡協議会研修会	最近の果樹を巡る病気の防除について	南河内地区果樹振興会会員	食みC	1回	7月4日	南河内地区果樹振興会連絡協議会
農業者	61	田尻町農業委員会視察研修	病害虫防除における最近の話題と防除対策	田尻町農業委員会	食みC	1回	10月30日	田尻町農業委員会
農業者	62	野菜の病害について	野菜病害防除講習会	農業者	食みC	1回	5月14日	河内っこ軟弱野菜研究会
農業者	63	中空構造栽培槽で「勝てる」イチゴ	中空構造栽培槽で新規就農する技術的なポイントについて現地研修	観光農園担当者	富田林市	1回	7月29日	中空構造栽培槽技術開発コンソーシアム
農業者	64	中空構造栽培槽で「勝てる」イチゴ	中空構造栽培槽でイチゴ栽培をする技術的なポイントについて現地研修	生産者	富田林市	1回	10月2日	中空構造栽培槽技術開発コンソーシアム
農業者	65	中空構造栽培槽で「勝てる」イチゴ	中空構造栽培槽で新規就農する技術的なポイントについて研修	JA営農指導員	食みC	1回	11月7日	中空構造栽培槽技術開発コンソーシアム
農業者	66	中空構造栽培槽で「勝てる」イチゴ	中空構造栽培槽で新規就農する技術的なポイントについて現地研修	新規就農者	食みC	1回	11月24日	中空構造栽培槽技術開発コンソーシアム
農業者	67	イチジク栽培技術研修	リフレッシュ剪定や台木栽培など新しい栽培技術研修	八女市イチジク生産者	食みC	1回	7月22日	その他
農業者	68	イチジク栽培技術研修	リフレッシュ剪定や台木栽培など新しい栽培技術研修	小田原市イチジク生産者	食みC	1回	7月29日	その他
農業者	69	ブドウ栽培技術研修	着色不良対策技術について	交野市ブドウ生産者	食みC	1回	9月13日	その他
農業者	70	イチジク栽培技術研修	リフレッシュ剪定や台木栽培など新しい栽培技術研修	堺市イチジク生産者	食みC	1回	9月17日	その他
農業者	71	イチジク栽培技術研修	リフレッシュ剪定や台木栽培など新しい栽培技術研修	山口県イチジク生産者	食みC	1回	10月30日	その他
農業者	72	イチジク栽培技術研修	リフレッシュ剪定や台木栽培など新しい栽培技術研修	掛川市イチジク生産者	食みC	1回	11月12日	その他
農業者	73	イチジク栽培技術研修	リフレッシュ剪定や台木栽培など新しい栽培技術研修	川西市いちじく生産者	食みC	1回	1月21日	その他
農業者	74	イチジク栽培技術研修	リフレッシュ剪定や台木栽培など新しい栽培技術研修	福岡県普及センター	食みC	1回	1月22日	その他

他 機 関 が 主 催 の も の	農業者	75	ブドウ波状型ハウス換気装置研修会	ブドウ波状型ハウス換気装置に関する研修会と見学	南河内4Hクラブ会員	食みC	1回	2月7日	その他	
	農業者	76	大阪エコ農産物出荷部会視察	軟弱野菜研究の取り組みについて紹介	JA堺市	食みC	1回	4月9日	その他	
	農業者	77	なにわの伝統野菜の生産・出荷・販売会議	田辺大根、天王寺蕪、碓井豌豆の栽培研究について紹介	JA大阪南なにわの伝統野菜部会	食みC	1回	10月4日	その他	
	農業者	78	JA北河内野菜研修会	伝統野菜研究の取り組みについて紹介	JA北河内	食みC	1回	1月16日	その他	
	農業者	79	田辺大根、天王寺蕪検討会	伝統野菜研究の取り組みについて紹介	南河内農の普及課・泉州農の普及課	食みC	1回	1月17日	その他	
	農業者	80		「キュウリアーチンネルを用いた田辺大根の越年栽培の検討会」および「天王寺蕪露地栽培による越年収穫の播種適期の検討」	越年栽培に関する取り組みを紹介	JA大阪南なにわの伝統野菜部会	食みC	1回	2月20日	その他
	農業者	81	ブドウ栽培技術講習会	ブドウ栽培における土づくり、および波状型ハウス換気装置について	柏原市4Hクラブ(ブドウ)	食みC	1回	3月13日	大阪府	
	農業者	82	イチジク講習会	イチジク栽培における肥培管理について	藤井寺市イチジク研究会	JA大阪南道明寺支店	1回	5月8日	大阪府	
	農業者	83	イチジク講習会	イチジク株枯病の発生病態と防除および台木の効果について	大阪府果樹振興会	食みC	1回	10月9日	大阪府	
	農業者	84	ブドウ緑枝接ぎ講習会	ブドウ緑枝接ぎについての実演講習会	中部4Hクラブ会員	食みC	1回	5月31日	大阪府	
	農業者	85	大阪府養液栽培研究会		大阪府養液栽培研究会	JA大阪東部本店 食みC	2回	9月6日 11月13日	大阪府養液栽培研究会	
	農業者	86	なにわの伝統野菜の生産・出荷・販売会議		生産農家	食みC	1回	10月5日		
	農業者	87	加古川市農業委員会視察		農業委員会委員	食みC	1回	11月15日	加古川市農業委員会	
	一般	88	貝塚市自主申告会役員研修		貝塚市自主申告会	食みC	1回	9月11日	貝塚市自主申告会	
	一般	89	関西市場駐在協議会視察研修		関西市場駐在協議会	食みC	1回	11月14日	関西市場駐在協議会	
	事業者(JA)	90	アグリアドバイザーフォローアップ研修		JA職員	食みC	1回	2月27日	JA大阪中央会	
	教育者	91	東大阪市立小中学校校務員研修	種蒔きから始める花苗の育て方	小中学校校務員	英田小学校	1回	10月16日	東大阪市教育委員会	
	教育者	92	府立農業系高等学校初任者研修		教員	食みC	1回	9月18日	大阪府	
	事業者	93	府営公園指定管理者研修	食物の管理と癒しの園芸植物を育てる意味を考える	指定管理者	風土木事務所	1回	3月25日	大阪府	
	行政	94	普及指導員研修(花き)		普及指導員	食みC	1回	2月7日	大阪府	
一般	95	岬町民生委員会研修会	大阪湾の環境と生物	岬町民生委員会	水技C	1回	4月26日	岬町		
一般	96	アマモ学習会	アマモ場の生物、苗床づくり	環境教育技術振興会	水技C	1回	10月16日	環境教育技術振興会		

10 報道提供一覧（実績報告書 14ページ）

No.	タイトル	報道提供日
1	短期プロ農家養成コース（集中コース：野菜部門、果樹部門）受講者募集します	4月5日
2	大阪特産ぶどう（デラウエア）を種なしにするジベレリン処理適期の指標をホームページで公表します	4月24日
3	「第1回家庭園芸セミナー」を開催します	4月30日
4	大阪産（もん）チャレンジ支援事業でいちじくから新しいスイーツを試作！！「御堂筋kappo」で試食できます。	5月1日
5	農作物の水耕（養液）栽培で高機能抗菌めっき技術の有効性を確認	5月13日
6	「平成25年度 中小事業者のための省エネ・省CO2セミナー1」を開催します。テーマ 省エネ・節電の最新情報！～エネルギーの「見える化」と効率化～	5月15日
7	第8回大阪湾セミナーを開催します	5月20日
8	大阪府立環農水研が「中小企業総合展2013 in Kansai」に優れた環境技術・製品を出展し、企業活動を支援します	5月21日
9	環境月間に地元小学校と連携した体験教室を開催します	6月4日
10	農業大学校では平成25年度短期プロ農家養成コース（第1回入門コース）を開催いたします	6月6日
11	PM2.5の濃度が高くなった日の原因について～平成24年度微小粒子状物質成分分析結果（速報）～	6月21日
12	第2回家庭園芸セミナー「失敗しない野菜づくり」を開催します	6月27日
13	夏休み子ども体験教室「海の教室」を開催します	6月27日
14	大阪環境パートナーシップネットワーク「かけはし」『第10回環境NPO等の交流エコセミナー』を開催します。	7月10日
15	環境情報プラザで『環境について学ぼう！！』参加者募集	7月10日
16	お帰りなさい！！8年ぶりに淀川で繁殖確認！天然記念物「イタセンパラ」	7月17日
17	近鉄文化サロン【まなぼスタジオ】で「水辺の生きもの図鑑を作ろう！」を開催します	7月19日
18	緑化技術研修会～地域を花いっぱいにするための研修会～を開催します	7月23日
19	夏休み子ども体験教室「食とみどりの探検隊」を開催します	7月29日
20	おおさかA T Cグリーンエコプラザとの共催セミナー A T C省エネ博2013併催「省エネルギー及び再生可能エネルギーの最新動向」を開催します	8月9日
21	「最新航空機部品等の製造に用いる穴開け工具『Rドリル』」など3技術・製品を大阪発の優れた環境技術「おおさかエコテック」に選定	8月21日
22	淀川におけるイタセンパラの野生復帰の取り組みー「淀川城北ワンド群イタセンパラ放流式」の開催について	8月29日

No.	タイトル	報道提供日
23	平成26年度農業大学校学生を募集します	8月30日
24	農業大学校では平成25年度短期プロ農家養成コース・入門コース（第2回）受講者募集します	8月30日
25	第3回家庭園芸セミナー「ちょっとおしゃれな秋の花壇づくり」を開催します	9月2日
26	こども体験教室「イタセンパラとふれあおう」を開催します	9月2日
27	枯渇が危惧されるリンの安定確保に向けた循環モデルを創出します（豚ふんからのリン資源の回収実証に着手）	9月12日
28	平成25年9月25日に予定していました「淀川城北ワンド群イタセンパラ放流式」の開催延期のお知らせ	9月19日
29	講演会を開催！植物由来の新しい燃料「バイオコークス」の普及と用途拡大	9月27日
30	中小・ベンチャー企業のための環境技術セミナー「ものづくり企業が支える『環境にやさしい街づくり』」を開催します	10月1日
31	小学校への出前授業「天然記念物の淡水魚イタセンパラを知ろう」を実施します	10月1日
32	緑化技術研修会「緑化樹の剪定」を開催します	10月4日
33	台風18号の影響により延期していた「淀川城北ワンド群イタセンパラ放流式」を行います	10月7日
34	中小事業者のための省エネ・省CO2セミナー2「エネルギーの『見える化』と省エネ・節電の実例」を開催します。	10月15日
35	環農水研テクニカルセミナー「食品の加工・保存～フリーズドライ法と殺菌技術～」を開催	10月21日
36	府大連携セミナー「大阪湾～人と自然の接点を再考する」を開催します	10月22日
37	連携環境セミナー「水都大阪！河川と水辺の再生」を開催します	10月22日
38	第4回家庭園芸セミナー「家庭でできる果樹づくり」を開催します	10月24日
39	大阪府から環境調査・検査業務を受注しようとする分析機関に対して技術認定を実施します。	11月5日
40	「おおさか生物多様性パートナー協定」を初締結～企業が行う生物多様性保全活動を大阪府、試験研究機関、大学で支援～	11月5日
41	ぶどうハウスの換気装置を開発～高温障害を回避！～	11月8日
42	大阪特産野菜「しゅんぎく」の新病害を特定し、命名しました	11月26日
43	『環境パートナーシップ「かけはし」交流エコセミナー』開催します ～事業者・学校・府民などによる協働事業のための交流会～	12月12日
44	環境技術セミナー「化学物質汚染の実態とそれを支える分析技術」を開催します	12月19日
45	第5回家庭園芸セミナー「春からの畑の準備とイチゴの新しい育て方」を開催します	12月24日

No.	タイトル	報道提供日
46	平成26年度大阪府立環境農林水産総合研究所 農業大学校学生二次募集（一般入学）を行います	1月10日
47	緑化技術研修会「緑化のための土づくり」を開催します	1月10日
48	高機能抗菌めっき技術『KENIFINE（ケニファイン）』の植物プラントへの初採用について	1月22日
49	大阪府が発注する環境調査・検査業務に係る分析事業者の技術認定を実施しました。	2月3日
50	おおさか生物多様性パートナー協定をパナホーム（株）と締結します	2月4日
51	中小・ベンチャー企業のための環境技術セミナー「驚きのネイチャーテクノロジー！～自然に学ぶ新しいものづくり～」を開催します	2月5日
52	「無落差・低流量対応型 流水利用式マイクロ水力発電システム」など3技術・製品を大阪発の優れた環境技術「おおさかエコテック」に選定	2月5日
53	緑化技術研修会「緑化樹に多い病害虫と薬剤の安全な使用方法」を開催します	2月14日
54	関西国際空港土砂採取跡地の自然再生をサポート～南海電鉄とおおさか生物多様性パートナー協定を締結～	2月21日
55	平成26年度大阪産（もん）チャレンジ支援事業募集（2/3～3/7）	2月26日
56	「おおさかエコテック企画展 in MOBIO ～大阪発！中小・ベンチャー企業の環境技術～」を開催します	2月27日
57	イタセンネットが「淀川城北ワンドクリーン大作戦」の開催に協力	2月28日
58	40年前に生まれた大阪オリジナルぶどう目覚めるー大阪環農水研が品種登録ー	3月14日
59	環農水研シンポジウムを開催します～ニーズに応えた研究所の取り組みを紹介～	3月25日
60	省エネ・省CO2相談窓口では、「省エネ診断 改善提案事例集」を作成しました！	3月26日
61	『平成26年度大阪産（もん）チャレンジ支援事業』支援対象が決定しました	3月27日

1 1 新聞掲載・テレビ、ラジオ放送（実績報告書 14ページ）

●新聞掲載記事

No.	掲載日	掲載紙	掲載内容
1	4月16日	読売新聞	短期プロ農家養成講座受講生募集
2	4月30日	産経新聞	大阪湾の潮干狩り場貝毒発生でピンチ
3	5月1日	読売新聞	大阪湾における貝毒について
4	5月18日	毎日新聞	貝毒が大量発生
5	5月2日	朝日新聞	大阪湾の貝食べ2人入院
6	5月14日	産経新聞	神鋼の抗菌技術 水耕栽培試験
7	5月14日	読売新聞	抗菌メッキで野菜すくすく
8	6月4日	産経新聞	幻の高級魚、あこう大阪名物に
9	6月6日	産経新聞	幻の高級魚どんな味
10	6月11日	毎日新聞	いちじく丸ごとスイーツ
11	6月16日	読売新聞	キュウリの奇形果について
12	6月28日	読売新聞	家庭菜園のワザ紹介
13	7月14日	中日新聞	イタセンバラ 氷見は楽園
14	7月18日	大阪日日新聞	イタセンバラ孫世代初確認、淀川野生復帰へ前進
15	7月18日	読売新聞	放流イタセンバラ初の孫確認
16	8月2日	毎日新聞	イタセンバラ 淀川で自然繁殖
17	8月7日	読売新聞	淀川水系アユどこへ
18	8月9日	産経新聞	道頓堀川に発生したウキクサとアオウキクサ
19	8月9日	読売新聞	「食とみどりの探検隊」について
20	8月19日	読売新聞	ワンドの在来種戻った
21	8月22日	朝日新聞	淀川にイタセンバラ
22	8月24日	朝日小学生新聞	イタセンバラの野生復帰
23	8月30日	読売新聞	国の天然記念物「イタセンバラ」城北わんど群に500匹放流へ
24	8月31日	読売新聞	農家目指しませんか？農業大学校が養成講座
25	9月8日	読売新聞	プロ農家に学ぶ花壇づくり！20日羽曳野で
26	9月13日	日本経済新聞	H25年のクラゲの発生状況について
27	9月22日	読売新聞	イタセンバラの観察会、寝屋川で来月6日
28	10月2日	読売新聞	バイオコークスって何？羽曳野で7日講演会
29	10月11日	読売新聞	戻れイタセンバラ 淀川で500匹放流
30	10月12日	大阪日日新聞	イタセンバラを救え、放流初公開
31	10月19日	読売新聞	緑化樹の剪定技術学ぶ、来月1日羽曳野で研修会
32	10月30日	読売新聞	淀川の宝物イタセンバラ、研究所が小学校で特別授業
33	10月30日	大阪日日新聞	イタセンバラ出前授業
34	11月6日	産経新聞	パナ絶滅危惧種救う 府が初の生物多様性協定
35	11月7日	日本経済新聞	生物多様性保全で協定
36	11月9日	読売新聞	府が初の生物多様性協定

37	11月12日	産経新聞	食とみどり技術センター大阪産（もん）の商品を共同開発
38	11月13日	読売新聞	ぶどう栽培暑さ対策OK、ハウス換気新器具開発
39	12月13日	朝日新聞	特産なす害虫天敵で退治
40	12月27日	産経新聞	よみがえったイタセンパラ
41	1月24日	読売新聞	抗菌メッキ技術 野菜工場に採用
42	2月22日	朝日新聞	ガザミの生態等について
43	3月8日	朝日新聞	大阪と家鴨（肉）の歴史・かかわり
44	3月15日	日本経済新聞	40年前に開発 新ぶどう出願

●専門紙掲載記事

No.	掲載日	掲載紙	掲載内容
1	4月5日	全国農業新聞	いちじくから新しいスイーツを試作株枯病の防除方法
2	4月8日	水産経済新聞	新造船「おおさか」について
3	4月17日	農業共済新聞	飛ばないナミテントウ
4	4月22日	日本農業新聞	直売向け切り花残品の悩み解消
5	4月26日	全国農業新聞	泉州水なすの害虫防除 ダニの生物農薬普及
6	5月1日	日本農業新聞	デラウエアGA処理適期情報のHP掲載について
7	5月14日	日本農業新聞	抗菌メッキ 病原菌を抑制
8	5月29日	日本農業新聞	いちじくイスキアブラック有望
9	6月11日	日本農業新聞	ぶどう「シャインマスカット」パック売りへ小房化
10	7月11日	日本農業新聞	株元送風病害抑える
11	8月1日	農業共済新聞	培地に高機能抗菌メッキ技術
12	9月13日	日本農業新聞	豚ふんからリン回収試験
13	9月13日	日刊工業新聞	豚ふんからリン回収試験
14	8月7日	塗料報知新聞	「おおさかエコテック」の評価技術・製品について
15	9月25日	農業共済新聞	次代担うぶどう品種を探る
16	11月1日	日本農業新聞	イチゴ開花早め収穫長期化
17	12月6日	全国農業新聞	ぶどうハウス天井開放で高温回避
18	1月11日	日本農業新聞	豚ふん炭化リン有望 鉱石の4割代替可能
19	1月17日	日本農業新聞	ブドウ波状型ハウス天井開閉簡単に 高温対策に換気器具
20	3月20日	日本農業新聞	あっさり 甘いぶどう 新品種

●テレビ・ラジオ放送

No.	放送日	放送局	番組	内容
1	4月26日	テレビ朝日	スーパーJチャンネル	大阪湾における貝毒について
2	5月2日	TBS	朝ズバツ	貝毒について
3	5月2日	関西テレビ	スーパーニュースアンカー	貝毒について
4	5月2日	読売テレビ	夕方のニュース	貝毒について
5	5月3日	テレビ朝日	スーパーJチャンネル	貝毒について
6	5月3日	読売テレビ	関西情報ネットten	「謎のシジミ（タワシジミ）」全国で大発生 生のわけ
7	5月13日	読売テレビ	かんさい情報ネットten	貝毒について

8	5月15日	テレビ大阪	夕刊7チャンネル	キジハタ(あこう)について
9	5月28日	関西テレビ	スーパーニュースアンカー	スナメリについて
10	5月31日	NHK大阪	ゆうどきネットワーク関西発	水なすの系統・品種・皮の軟らかさなどのデータ提供
11	6月12日	NHK BSプレミアム	ぐるっと食の旅キッチンがゆく	～大阪(前編)・堺市～泉だこについて
12	6月18日	SBSラジオ(静岡新聞系列)		ナメクジについてのリスナーの質問に対する回答(電話インタビュー)
13	6月20～30日	JCOM	ローカルテレビ	生物一斉調査
14	6月30日	日本テレビ	「鉄腕ダッシュ」	カモメガイ(穿孔貝)について
15	6月30日	読売テレビ	「ほんわかテレビ」	生物一斉調査とアマモ場と海の生物について
16	7月18日	読売テレビ	関西情報ネットten	マダコについて
17	7月27日	テレビ大阪	夕方7チャンネル	ハモ豊漁
18	8月1日	朝日放送	ニュースキャスト	道頓堀川に「藻」大量発生 of ナゾ
19	8月10日	テレビ大阪	かがくdeムチャミタス	淀川はグルメリバー ウナギだジミだ大漁大作戦
20	8月11日	NHK大阪	NHK総合「うまいっ！」	水なす漬のもみ殻摩擦処理
21	8月20日	朝日放送	「キャスト」	あこう「キジハタ」、泉だこについて
22	9月9日	NHKラジオ	関西ラジオワイド	旬の人・時の人 イタセンパラの野生復帰、イタセンネットについて
23	10月3日	NHKテレビ	正午ニュース	イタセンパラ小学校で出前授業
24	10月3日	NHKテレビ	ニューステラス関西	イタセンパラ小学校で出前授業
25	10月10日	WEB	産経フォトニュース	イタセンパラ放流式 淀川の象徴初公開
26	10月10日	朝日放送	ニュースキャスト	イタセンパラ放流
27	10月18日	読売テレビ	関西情報ネットten	天然記念物の魚淀川に戻る
28	12月14日	NHKラジオ第1		絶滅寸前！天然記念物を救った市民力
29	2月15日	WEB	エコノミックニュース	企業が積極的に取り組む「生物多様性とは」
30	2月26日	NHK大阪放送局	ニューステラス関西	大阪湾の栄養塩などについて
31	3月8日	WEB	食の動画ニュース「フードボイス」	大阪産(もん)とチャレンジ支援事業について

12 法人職員が参加した学会・シンポジウム等及び公設試験研究機関等
ネットワーク (実績報告書 16ページ)

		名称						
学 会	1	日本哺乳類学会	9	スマートプロセス学会	17	日本動物分類学会	25	日本防菌防黴学会
	2	日本木材学会	10	日本陸水学会	18	日本甲殻類学会	26	IAFP European symposium
	3	日本生態学会	11	大気環境学会年会	19	日本水産学会	27	日本食品科学工学会
	4	日本森林学会	12	日本水処理生物学会	20	日本水産増殖学会	28	日本食品保蔵科学会
	5	応用森林学会	13	日本農薬学会	21	水産海洋学会	29	日本雑草学会
	6	「野生生物と社会」学会	14	日本水環境学会年会	22	日本沿岸域学会		
	7	日本農業気象学会	15	日本寄生虫学会	23	園芸学会		
	8	日本畜産学会	16	日本生態学会	24	日本植物病理学会		
シン ポ ジ ウ ム ・ セ ミ ナ ー ・ 研 究 会	1	第2回ナラ枯れ研究会			20	にじゅうまるプロジェクト パートナーズ会合		
	2	平成25年度西日本地区樹木管理セミナー			21	関西自然保護機構シンポジウム		
	3	全農肥料委託試験花き成果研究会			22	水辺の侵略的外来種、その生態と対策		
	4	関東北陸東海地域花き研究推進会議			23	淡水ガメ情報交換会		
	5	近畿地域マッチングフォーラム(直売切り花)			24	International Symposium on the Connectivity of Hills, Humans and Oceans		
	6	JA直売所店長会議			25	日本海洋学会シンポジウム		
	7	JICA草の根技術協力事業/園芸療法研修			26	水産海洋学会シンポジウム		
	8	新しい公共支援事業意見交換会			27	日本沿岸域学会シンポジウム		
	9	九州ブロック農業分野における障がい者就労セミナー			28	大阪湾Years2012-2013シンポジウム		
	10	農業気象学会・生態工学会シンポジウム			29	関西病虫害研究会		
	11	日本水環境学会シンポジウム			30	EBC研究会		
	12	全国環境研究所交流シンポジウム			31	野菜茶業課題別研究会		
	13	化学物質環境実態調査環境科学セミナー			32	食品ユニバーサル食品研究会		
	14	日本水環境学会年会併設研究集会			33	和歌山県工業技術センター専門技術研究会		
	15	淡水魚保全シンポジウム淀川大会			34	日本食品技術研究会		
	16	近畿大学農学部 里山連続講座			35	近畿中国四国地域果樹研究会		
	17	日本魚類学会市民公開講座			36	近畿中国四国野菜問題別研究会		
	18	生物多様性協働フォーラム			37	果樹系統適応性検定試験成績検討会(落葉果樹)		
	19	外来魚情報交換会			38	落葉果樹研究会(栽培・土壌肥料)		
公 設 試 等 ネ ッ ト ワ ー ク	1	全国環境協議会			13	近畿花き研究担当者会議		
	2	地方公共団体環境試験研究機関等所長会議			14	国環研I型共同研究モニタリングワークショップ		
	3	全国農業関係試験研究場所長会			15	大阪府酸性雨調査連絡会(APSN-OSAKA)会議		
	4	全国畜産関係試験研究場所会			16	全国水産試験場場長会		
	5	全国林業関係試験研究機関場所長会議			17	近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫検討会		
	6	全国林業試験研究機関協議会			18	全国養殖衛生管理推進会議		
	7	全国水産試験場場長会			19	南海・瀬戸内海洋調査技術連絡会		
	8	近畿中国四国農業試験研究推進会議			20	地方衛生研究所全国協議会		
	9	食品試験研究推進会議			21	瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議		
	10	近畿中国四国農業試験研究推進会議			22	全国食品関係場所長会議		
	11	林業研究・技術開発推進近畿・中国ブロック会議			23	日本植物防疫協会		
	12	関西地区林業試験研究機関連絡協議会						

13 調査研究関係業務一覧（実績報告書17ページ）

※研究課題の分野は、中期計画・年度計画に記載された研究分野の区分。“調査研究”は技術支援の基盤となる調査研究。

分類	No.	事業・研究課題名称	研究課題の分野	資金分類
環境	1	河川からの流入負荷が大阪湾の窒素濃度に及ぼす影響の解析	重点研究分野	特定運営費交付金
	2	大阪湾流入の陸域由来による大阪湾海域の難分解性有機物及び窒素、リンに関する研究	重点研究分野	外部資金
	3	外来生物対策調査業務(各種調査)	新たな研究分野	標準運営費交付金
	4	東海・近畿地域におけるPM2.5の都市汚染の機構解明	新たな研究分野	外部資金
	5	生物多様性保全活動ガイドライン作成業務	新たな研究分野	府委託
	6	彩都における生物多様性確保に係る教育指導及び水生生物の生息状況調査業務	新たな研究分野	外部資金
	7	イタセンパラ保護増殖調査	新たな研究分野	外部資金
	8	環境技術コーディネート事業	調査研究	標準運営費交付金
	9	大気検査業務費	調査研究	標準運営費交付金
	10	浮遊粒子状物質環境調査費	調査研究	標準運営費交付金
	11	水質検査・精度管理業務費	調査研究	標準運営費交付金
	12	環境情報解析費	調査研究	標準運営費交付金
	13	酸性沈着調査研究費	調査研究	標準運営費交付金
	14	ダイオキシン類検査分析費	調査研究	標準運営費交付金
	15	ダイオキシン類追跡調査費	調査研究	標準運営費交付金
	16	有害大気汚染物質モニタリング事業	調査研究	標準運営費交付金
	17	微小粒子状物質監視費	調査研究	標準運営費交付金
	18	アスベスト対策業務	調査研究	標準運営費交付金
	19	ゴルフ場排水農業水質監視業務	調査研究	標準運営費交付金
	20	化学物質環境実態調査費	調査研究	府委託
	21	有害大気汚染物質調査費	調査研究	府委託
	22	安威川ダム魚類補足調査業務	調査研究	府委託
	23	酸性雨モニタリング土壌植生調査	調査研究	府委託
	24	ANAMMOX反応を利用した窒素低減技術に関する研究	調査研究	外部資金
農業	25	TMRの飼料評価、品質安定技術および低コスト化技術の開発	重点研究分野	外部資金
	26	森林整備加速化・林業再生事業(木質バイオマス活用計画策定)	重点研究分野	府補助金
	27	害虫の光応答メカニズムの解明と高度利用技術の開発	重点研究分野	外部資金
	28	施設園芸作業の省力・軽労化アシストシステムの開発	重点研究分野	外部資金
	29	ガスプラズマを用いた農産物の殺菌・消毒法の開発	重点研究分野	外部資金
	30	クリシギゾウムシ防除技術の開発	重点研究分野	外部資金
	31	中空構造栽培槽で実現する「勝てる」イチゴ	重点研究分野	外部資金
	32	昆虫による畜ふんの堆肥化と養魚用飼料製造	重点研究分野	特定運営費交付金
	33	麦茶粕の飼料化利用に関する研究	重点研究分野	民間受託
	34	小規模醸造所から排出されるビール粕の飼料化に関する試験研究	重点研究分野	民間受託
	35	発生予察事業の調査実施基準の新規手法策定事業	重点研究分野	外部資金

農業

36	大阪産(もん)チャレンジ支援事業	新たな研究分野	標準運営費交付金
37	鳥獣被害対策調査業務(モニタリング調査)	新たな研究分野	標準運営費交付金
38	炭素・窒素安定同位体比分析によるアライグマの食性把握	新たな研究分野	特定運営費交付金
39	酸化型グルタチオンを施用したグランドカバープランツ(GCP)の生育促進効果	調査研究	特定運営費交付金
40	農環境調査研究費	調査研究	標準運営費交付金
41	間伐等実施林分モニタリング調査業務	調査研究	標準運営費交付金
42	飼料検査事業	調査研究	標準運営費交付金
43	地域適応型家畜改良研究事業	調査研究	標準運営費交付金
44	家畜環境保全業務(畜舎排水の水質検査・たい肥分析)	調査研究	標準運営費交付金
45	地球温暖化による施設栽培の夏季高温対策技術の確立	調査研究	標準運営費交付金
46	園芸優良健全種苗供給業務	調査研究	標準運営費交付金
47	森林資源モニタリング調査	調査研究	府委託
48	水稻採種事業における原原種及び原種生産業務	調査研究	府委託
49	大阪エコ農業の推進(農薬残留分析等)	調査研究	府委託
50	二級河川松尾川 羊の飼育指導及び健康管理業務	調査研究	府委託
51	病害虫防除総合対策委託(発生予察支援)	調査研究	府委託
52	大阪エコ農業推進対策研究	調査研究	府委託
53	マイナー作物農薬登録拡大事業	調査研究	府補助金
54	土壌有害化学物質のリスク管理措置の検証	調査研究	府補助金
55	葉菜類エコ農産物等安定生産対策事業	調査研究	府補助金
56	壁面緑化用マットの適正な施および気層の条件調査	調査研究	民間受託
57	芝用目土と基盤材による土壌改良	調査研究	民間受託
58	鶏卵の品質向上技術の開発	調査研究	民間受託
59	肉用鶏に対する低温乾燥菌床資材の免疫増強効果の検討	調査研究	民間受託
60	ブロイラーに対する生菌剤給与効果の測定と比較	調査研究	民間受託
61	タマネギ堆肥による、トマト萎凋病菌に対する抗菌効果の確認試験	調査研究	民間受託
62	薬剤の土壌灌注処理による害虫防除	調査研究	民間受託
63	液状魚かすを利用したイチジク施肥技術の開発	調査研究	民間受託
64	銀ゼオライト粉体混合発泡スチロールの養液栽培適応性試験	重点研究分野	民間受託
65	ブドウの着色改善技術の開発	調査研究	民間受託
66	液状魚かすを利用したイチジク施肥技術の開発	調査研究	民間受託
67	ハウレンソウの安定生産に関する研究	調査研究	民間受託
68	抗菌素材ケニファインを用いた農業用資材の衛生管理に関する研究	重点研究分野	民間受託
69	新しい食品素材の評価	調査研究	民間受託

農 業	70	砕氷同梱の発泡スチロール箱によるブロッコリーの鮮度保持効果調査	調査研究	民間受託
	71	吸着式の鮮度保持剤を用いたブロッコリーの鮮度保持効果調査	調査研究	民間受託
	72	省力施肥技術	調査研究	民間受託
	73	廃棄糠を用いた'生きている糠床'の開発	調査研究	民間受託
	74	屋上緑化商品の性能試験	調査研究	依頼試験
	75	肉骨粉の水分測定業務	調査研究	依頼試験
	76	Eマーク食品認証事業	調査研究	依頼試験
	77	水稲高温障害に係る調査事業	調査研究	依頼試験
	78	土壌分析	調査研究	依頼試験
	79	堆肥分析	調査研究	依頼試験
	80	植害試験	調査研究	依頼試験
	81	農薬残留対策調査事業	調査研究	外部資金
	82	スギ・ヒノキ花粉発生源地域推定事業	調査研究	外部資金
	83	高齢・障がい者など多様な主体の農業参入支援技術の開発	調査研究	外部資金
	84	牛への機能性バイパス投与技術の開発	調査研究	外部資金
	85	飼育動物の生殖器疾患等におけるINSL3測定の臨床検査への応用と同受容体発現解析	調査研究	外部資金
	86	大泉緑地 羊の飼育指導及び健康管理業務	調査研究	外部資金
	87	新農薬実用化試験	調査研究	外部資金
	88	農地管理実態調査	調査研究	外部資金
	89	水稲におけるヒ素リスク低減	調査研究	外部資金
	90	水田における温室効果ガス排出量算定に関する調査	調査研究	外部資金
	91	ブドウ樹体への局所加温導入による低コスト加温技術の開発	調査研究	外部資金
	92	豚ふん中の有用資源を循環利用する事業モデルの構築	調査研究	外部資金
	93	水稲新奨励品種優良系統調査事業	調査研究	外部資金
	94	水稲の減農薬栽培に向けた除草剤の防除効果比較	調査研究	外部資金
95	非破壊法による水ナス果実の空洞果判別技術の開発	調査研究	外部資金	
水 産	96	マクロベントスと海底環境の経年変化の解析	重点研究分野	特定運営費交付金
	97	大阪湾における栄養塩と基礎生産に関する研究	重点研究分野	特定運営費交付金
	98	微生物相に基づく漁業被害の発生予測・制御技術の開発	重点研究分野	外部資金
	99	新たなノリ色落ち対策技術開発費	重点研究分野	外部資金
	100	赤潮・貧酸素水塊対策推進事業	重点研究分野	外部資金
	101	陸起源有機物の影響を考慮した大阪湾底質の類型化と底生動物分布との関係に関する研究	重点研究分野	外部資金
	102	東部瀬戸内海における植物プランクトン群集の基礎生産力とその1960年代からの変化	重点研究分野	外部資金

水産	103	内水面G資源・漁場等調査・監視業務	調査研究	標準運営費交付金
	104	海域G資源・海域等調査・研究・監視業務	調査研究	標準運営費交付金
	105	増殖場効果調査	調査研究	府委託
	106	養殖生産安全対策	調査研究	府委託
	107	コイヘルペスウイルス病まん延防止事業委託	調査研究	府委託
	108	安威川アユ漁場調査	調査研究	府委託
	109	魚礁構造の違いがキジハタ種苗の蛸集に与える影響	調査研究	民間受託
	110	栽培C支援事業	調査研究	外部資金
	111	栽培漁業試験費・資源造成支援事業費	調査研究	外部資金
	112	資源評価調査費	調査研究	外部資金
	113	資源状況等効果調査	調査研究	外部資金
	114	生態系ネットワーク修復による持続的な沿岸漁業生産技術の開発(カレイ類)	調査研究	外部資金

14 学術論文及び学会発表等一覧（実績報告書 17ページ）

※ 研究区分の“重点”“新”“基盤”は、中期計画の重点研究分野、新たな研究分野、技術支援の基盤となる調査研究を示す。

(1) 論文(職員が第一著者の論文;アンダーラインが法人職員)

No.	論文	掲載誌	著者	研究区分	分類	
					第1	第2
1	POCISを用いた水田施用農薬モニタリング	日本農業学会 日本陸水学会誌(予定)	矢吹芳教・相子伸之・永井孝志・稲生圭哉	基盤	農水	農林
2	出生後の黒毛和種子牛への免疫グロブリンGと免疫グロブリンAの移行	日本畜産学会報84(3): 389-393	安松谷恵子・笠井浩司・山中健吾・坂瀬充洋・西野治・赤池勝・万所幸喜・久米新一	基盤	農水	畜産
3	大阪の食文化と畜産のかかわり	日本食品保蔵科学会誌 39(3) 161-164	藤谷 泰裕	基盤	食品	他
4	「なにわの伝統野菜」の品質向上と栽培技術の改善に関する研究	日本食品保蔵科学会誌 39(2): 93-99	嘉悦佳子	基盤	農水	農林
5	Lesion spreading of ceratocystis canker on 'Masui Dauphine' fig trees	International Journal of Agricultural Policy and Research (2014) 2(2) : 55-60	<u>Yuka Miwa</u> , <u>Akihiro Hosomi</u> and <u>Takaaki Ishii</u>	基盤	農水	農林
6	Shoot growth and fruit production of 'Masui Dauphine' fig trees having high limb position with downward shoots	Journal of the Japanese Society for Horticultural Science 82(3):215-221	<u>Akihiro Hosomi</u> , <u>Yuka Miwa</u> and <u>Takashi Mano</u>	基盤	農水	農林
7	Seedling rot of garland chrysanthemum caused by Gibellulopsis chrysanthemi and ecological characters of the causal fungus	J Gen Plant Pathol 79:346-349	<u>Mitsuo Kawaradani</u> , <u>Kiyoshi Taguchi</u> , <u>Kiyotsugu Okada</u> , <u>Yuuri Hirooka</u> and <u>Toyozo Sato</u>	重点	農水	農林
8	中空構造栽培槽の立体配置による壁面緑化材としての利用	日本緑化工学会誌 39(1):214-217	内山知二・佐野修司・遠藤常嘉・工藤渚・山崎敬亮・長崎裕司・西本登志・松山真三・隅谷智宏	基盤	農水	農林
9	メタリジウム粒剤処理による施設キュウリのミナミキイロアザミウマ、タバコナジラミおよびトマトハモグリバエの防除	関西病虫害研究会報 55:13-16.	柴尾 学・山中 聡・田中 寛	重点	農水	農林
10	色彩粘着板とLEDを組み合わせたトラップによるミナミキイロアザミウマの誘引特性	日本応用動物昆虫学会誌	柴尾 学・田中 寛	重点	農水	農林
11	樹木流出水の植物病原菌に対する抗菌効果	関西病虫害研究会報 55:77-78.	西岡輝美・瓦谷光男・東昌弘・岡田清嗣	重点	農水	農林
12	イチゴ灰色かび病およびキュウリ炭疽病に対する酸性電解水散布の防除効果	関西病虫害研究会報 55:17-21.	草刈眞一・阿知波信夫・阿部一博・岡田清嗣	重点	農水	農林
13	高機能抗菌メッキ技術“KENI FINE”によるPythium属菌およびFusariumぞくきんの孢子発芽阻害と養液栽培用培地の防藻効果	関西病虫害研究会報 55:43-50.	草刈眞一・森川信也・中山武典・田中敦子・遠谷秀明・岡田清嗣	重点	農水	農林
14	ホンシメジ廃床を副資材とするもみがら堆肥の特性	近畿中国四国農研22:3-6	佐野修司・上田昌弘・谷由美子・内山知二	重点	農水	農林
15	Life history of the greasyback shrimp <i>Metapenaeus ensis</i> in Osaka Bay, Japan	Plankton and Benthos Research	<u>Hiroyuki Ariyama</u> and <u>Masaki Sano</u>	基盤	農水	水産
16	Population dynamics and reproductive biology of the mysid <i>Orientomysis japonica</i> in the Yura Estuary, Tango Sound, Japan	Journal of Crustacean Biology	<u>Satoshi Akiyama</u> , <u>Masahiro Ueno</u> and <u>Yo Yamashita</u>	基盤	農水	水産
17	Redescription of a “rare” crab <i>Hemigrapsus longitarsis</i> (Miers, 1879) (Decapoda: Brachyura: Varunidae) based on the newly designated lectotype and recently collected material from Osaka Bay, central Japan, with some ecological notes.	Crustacean Research (42) :1-16, 2013.	<u>Hiroyuki Ariyama</u> and <u>Masaki Sano</u>	基盤	農水	水産

18	Reinstatement of Paragrandidierella (Crustacea: Amphipoda: Aoridae) from Japan, with the description of a new species.	Species Diversity 18(2): 223-235, 2013.	<u>Hiroyuki Ariyama</u>	基盤	農水	水産
19	Three rare mantis shrimps collected from Osaka Bay, Japan (Crustacea: Stomatopoda).	Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, (68): 27-39, 2014.	<u>Hiroyuki Ariyama, Hiroaki Omi, Hirotaka Tsujimura, Taichi Wada and Sho Kashio</u>	基盤	農水	水産
20	Flushing rate and salinity may control the blooms of the toxic dinoflagellate Alexandrium tamarense in a river/estuary in Osaka Bay, Japan	Journal of Oceanography, 69, 727-736.	<u>Keigo Yamamoto, Hirotaka Tsujimura, Masaki Nakajima, and Paul J. Harrison</u>	重点	農水	水産
21	大阪湾北東部の人工護岸に放流したキジハタの移動と成長	水産増殖	<u>辻村浩隆</u>	基盤	農水	水産
22	大阪の淡水魚を育んだ原風景と食文化	日本食品保蔵科学会誌 39(2) 105-108	<u>上原一彦</u>	基盤	食品	他
23	琵琶湖淀川水系のアユモドキの現状と保全	地域自然史と保全35(1) 17-22	<u>上原一彦</u>	新	環境	自然
24	大阪湾が作ったなにわの食文化	日本食品保蔵科学会誌 39(4) 225-228,2013.	<u>日下部敬之</u>	基盤	食品	他

(2) 論文(職員が共著のもの;アンダーラインが法人職員)

No.	論文	掲載誌	著者	研究区分	分類	
					第1	第2
1	2011年2月上旬に観測された広域的なPM2.5高濃度エピソードの要因推定	大気環境学会誌 48(4):196-205	山神真紀子、佐川竜也、 <u>中戸靖子</u> 、長田健太郎、米持真一、 <u>山本勝彦</u> 、山田大介、芝和代、山田克則、菅田誠治、大原利真	新	環境	環境
2	Invasion of Yakushima Island, Japan, by the Subtropical Lizard Japalura polygonata polygonata (Squamata: Agamidae)	Current Herpetology 32(2): 142-149	城野哲平・川村貴志・ <u>幸田良介</u>	新	環境	自然
3	Palatinose-hydrolyzing Activity and Its Relation to Modulation of Flower Opning in Response to the Suger in Dianthus Species	Journal of the Japanese Society for Horticultural Science Vol. 82(2013) No. 4, 337-343	S.Sato,M.Miyai,S.Sugiyama and <u>N.Toyohara</u>	基盤	農水	農林
4	Impact of anthropogenic disturbance on the density and activity pattern of deer evaluated with respect to spatial scale-dependency	Mammalian Biology 79:44-51.	Agetsuma N, <u>Koda R</u> , Tsujino R, Agetsuma-Yanagihara Y	新	環境	自然
5	ヤクシカの牧場利用と利用個体密度に影響する要因の把握	哺乳類科学53(2):345-350	川村貴志・ <u>幸田良介</u> ・立澤史郎	新	環境	自然
6	数種野菜のクロロフィルとアスコルビン酸含量に及ぼす異なるプランティングと処理前における切断の有無の影響	日本食品保蔵科学会誌 39(4): 207-212	阿部一博・嘉悦佳子・阿知波信夫	基盤	農水	農林
7	施設内のナスの株におけるオオタバコガの産卵場所	関西病虫害研究会報 55:121-122.	西濱絢子・井奥由子・砂池利浩・那須義次・ <u>岡田清嗣</u> ・柴尾 学・田中 寛	重点	農水	農林
8	ナミテントウ飛翔不能系統の幼虫と成虫に対する各種薬剤の影響	日本応用動物昆虫学会誌57:189-191.	安達鉄矢・ <u>柴尾 学</u> ・田中寛・世古智一・三浦一芸	重点	農水	農林
9	Kinetics of nutrient removal and biomass production by duckweed Wolffia arrhiza in continuous-flow mesocosms	Ecological Engineering (2013)57 210- 215	Satoshi Soda, Yusuke Kawahata, <u>Yuichiro Takai</u> , Daisuke Mishima, Masanori Fujita,	基盤	環境	自然
10	Free-swimming forms of cymothoid isopods (Crustacea: Peracarida) collected from the coastal areas in Japan: description of morphological characters and some ecological notes	Crustacean Research	Nobuhiro Saito, Takeo Yamauchi, <u>Hiroyuki Ariyama</u> and Osamu Hoshino	基盤	環境	自然

11	Degradation of <i>Abies veitchii</i> wave-regeneration on Mt. Misen in Ohmine Mountains: effects of sika deer population	Journal of Plant Research 126:625-634.	Tsujino R, Matsui K, Yamamoto K, <u>Koda R</u> , Yumoto T, Takada K.	新	環境	自然
12	海水試料の毒量分析による麻痺性貝毒モニタリング手法の開発と検証	水産技術, 6(2), 161-167	及川寛・ <u>山本圭吾</u> ・長井敏	重点	農水	水産
13	瀬戸内海における沿岸性主要資源の漁獲変動	水産海洋研究 77(4)308-311, 2013	山本昌幸・ <u>大美博昭</u> ・宮原一隆	基盤	農水	水産

(3) 学会発表(アンダーラインが法人職員)

No.	タイトル	学会	発表者	研究	分類	
				区分	第1	第2
1	PM2.5の近畿地方におけるローカルな要因による高濃度について	第53回大気環境学会年会	山本勝彦, 中戸靖子, 三田村徳子, 山神真紀子, 加藤三奈, 西山亨, 平澤幸代, 中坪良平, 板野泰之, 菅田誠治, 大原利真	新	環境	環境
2	大阪府内の農業用ため池における水質の現状	日本陸水学会第78回大会	相子伸之, <u>矢吹芳教</u> , 北出和美	基盤	農水	環境
3	パッシブサンプリング法による河川水中の農薬濃度と従来法の濃度との比較	日本陸水学会第78回大会	矢吹芳教, 相子伸之, 永井孝志, 稲生圭哉	基盤	環境	環境
4	廃棄物最終処分場浸出水調整池の底泥の脱窒とアナモックス菌	日本水処理生物学会第50回大会	相子伸之, 平大輔, <u>矢吹芳教</u>	基盤	環境	環境
5	浸出水調整池底泥のアナモックス活性	第48回日本水環境学会年会	相子伸之, <u>矢吹芳教</u> , 平大輔, 諏訪裕一	基盤	環境	環境
6	PM2.5の近畿地方におけるローカルな要因による高濃度について	第54回大気環境学会年会	山本勝彦, 中戸靖子, 三田村徳子, 山神真紀子, 加藤三奈, 西山亨, 平澤幸代, 中坪良平, 板野泰之, 菅田誠治, 大原利真	新	環境	環境
7	POCISのRs値と農薬の物理化学性との関係	日本農薬学会第39回大会	矢吹芳教, 相子伸之, 永井孝志, 稲生圭哉	基盤	農水	農林
8	オレガノ精油の酸化的ストレス反応緩和効果	平成25年度日本産業動物獣医学会(近畿)	出雲章久, 安松谷恵子	基盤	農水	畜産
9	ユリ‘ソルボンヌ’つぼみ期収穫切り花の低温湿式貯蔵後の開花処理が品質に及ぼす影響	日本園芸学会平成25年度秋季大会	山中正仁・玉木克知・水谷祐一郎・宮谷喜彦・豊原憲子・虎太有里・仲照史・東明音	基盤	農水	農林
10	大阪府内で排出されるバイオマスのエネルギー化利用に関する可能性調査	スマートプロセス学会2013年秋期総合学術講演会	笠井浩司, 出雲章久, 藤谷泰裕	重点	農水	畜産
11	カプセルを模した樹脂球の比重と直径が牛の反芻、消化管通過に与える影響	日本畜産学会第119回大会	瀬山智博, 笠井浩司, 平康博章	基盤	農水	畜産
12	大阪府におけるアライグマ生息状況の経年変化	第29回日本霊長類学会・日本哺乳類学会2013年度合同大会	幸田良介, 虎谷卓哉	新	環境	自然
13	大阪府におけるニホンジカのモニタリング-現状と課題-	日本生態学会第61回全国大会	幸田良介, 虎谷卓哉	新	環境	自然
14	大台ヶ原における小規模防鹿柵による実生・稚樹バンクの再生	日本生態学会第61回全国大会	小林徹哉, 上森真広, 辻野智之, 石原委可, 奥田史郎	新	環境	自然
15	中空構造栽培槽を用いたイチゴ育苗時における肥培管理	第59回日本土壌肥料学会全国大会	工藤渚・遠藤常嘉・内山知二・佐野修司・西本登志・山崎敬亮・長崎裕司・隅谷智宏・松山真三	基盤	農水	農林
16	各種炭化物の施用が作物生育および土壌特性におよぼす影響 -栽培実証試験の成果-	第59回日本土壌肥料学会全国大会	佐野修司・鈴木敏征・内山知二・東昌弘・阪本亮一・上田浩三・関戸知雄・十毛裕	重点	農水	農林

17	土壌改良のための有機物の局所施用が幼植物生育に及ぼす影響	第59回日本土壌肥料学会全国大会	内山知二・佐野修司・相子伸之・中野恵子・草場敬・久保寺秀夫・餅田利之・藤本順子・大森誉紀	重点	農水	農林
18	肥効調節機能を有する豚ふん焼却灰の施肥効果	第59回日本土壌肥料学会全国大会	遠藤常嘉・内山知二・佐野修司・井上さおり・山本定博・森剛	重点	農水	農林
19	土壌診断のための府県農業試験研究機関の位置づけを考える	第59回日本土壌肥料学会全国大会	内山知二・佐野修司	基盤	農水	農林
20	イチゴ育苗への中空構造栽培槽の導入による養分流亡の抑制	2013年度園芸学会秋季大会	内山知二・佐野修司・工藤渚・遠藤常嘉・西本登志・安川人央・長崎裕司・山崎敬亮・松山眞三・隅谷智宏	基盤	農水	農林
21	中空構造栽培槽を用いたイチゴ育苗における灌水方法の最適化	2013年度園芸学会秋季大会	佐野修司・内山知二・工藤渚・遠藤常嘉・西本登志・安川人央・長崎裕司・山崎敬亮・松山眞三・隅谷智宏	基盤	農水	農林
22	豚ふん堆肥炭化物のリン酸肥料としての利用特性	2013年度園芸学会秋季大会	鈴木敏征・佐野修司・上田浩三・阪本亮一・土手裕・関戸知雄	重点	農水	農林
23	施肥方法によるシロナのカドミウム吸収量低減の可能性	日本砂丘学会第59回全国大会	内山知二・佐野修司・遠藤常嘉・山本定博	重点	農水	農林
24	中空構造栽培槽で養成したイチゴへの夜冷短日処理が開花期に及ぼす影響	2013年度園芸学会秋季大会	安川人央・西本登志・皆巳大輔・内山知二・橋本敦・隅谷智宏	基盤	農水	農林
25	メタリジウム粒剤処理による施設キュウリのミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミおよびトマトハモグリバエの防除	関西病虫害研究会第95回大会	柴尾 学, 山中 聡, 田中 寛	重点	農水	農林
26	施設内のナスの株におけるオオタバコガの産卵場所	関西病虫害研究会第95回大会	西濱絢子, 井奥由子, 砂池利浩, 那須義次, 岡田清嗣, 柴尾 学, 田中 寛	重点	農水	農林
27	ハウスナスにおける成虫放飼によるオオタバコガ卵の分布様式および一定精度を得るための必要サンプル数	関西病虫害研究会第95回大会	田中 寛, 西濱絢子, 井奥由子, 砂池利浩, 那須義次, 岡田清嗣, 柴尾 学	重点	農水	農林
28	静電場スクリーン展張ケージによるトマトうどんこ病の発病軽減	平成25年度日本植物病理学会関西西部会	岡田清嗣・柴尾学・納村和美・森川信也・西岡輝美・草刈眞一	重点	農水	農林
29	ガスプラズマを用いたアブラナ科黒腐病菌に対する種子の消毒効果	日本防菌防黴学会 第40回年次大会	西岡輝美、高井雄一郎、瓦谷光男、岡田清嗣、草刈眞一、谷本秀夫、三沢達也	重点	農水	農林
30	1花穂2花房に整形し小房化したブドウ‘シャインマスカット’の果実品質	園芸学会近畿支部奈良大会	磯部武志, 三輪由佳	基盤	農水	農林
31	ブドウ‘デラウェア’樹体への局部加温が発芽および展葉に及ぼす影響	園芸学会平成25年度秋季大会	三輪由佳, 森川信也, 磯部武志	基盤	農水	農林
32	ブドウ‘デラウェア’の棚面下の相対照度による葉面積指数(LAI)の推定	園芸学会近畿支部奈良大会	森川信也, 三輪由佳, 磯部武志	基盤	農水	農林
33	豚ふん堆肥炭化物のリン酸肥料としての利用特性	園芸学会平成25年度秋季大会	鈴木敏征, 佐野修司, 上田浩三, 阪本亮一, 土手裕, 関戸知雄	重点	農水	農林
34	えき芽を利用した伝統野菜のさし木およびマイクロプロパゲーション法の確立	園芸学会平成25年度秋季大会	古川一・中島 悠・水上志穂・清水慎也・山崎基嘉	基盤	農水	農林
35	3次元アルゴンガスプラズマを用いたトマト果実表面殺菌	日本食品科学工学会第60回大会	高井雄一郎, 西岡輝美, 岡田清嗣, 谷本秀夫, 三沢達也, 作道章一	重点	農水	農林
36	3次元アルゴンガスプラズマを用いたトマト果実表面殺菌	平成25年度食品技術研究会	高井雄一郎, 西岡輝美, 岡田清嗣, 谷本秀夫	新	農水	農林

37	MA包装または枝付出荷によるエダマメの品質保持	平成25年度食品技術研究会	高井雄一郎、中村隆、谷本秀夫	新	食品	加工
38	ナス浅漬の加工における塩素処理が果皮色落ちに及ぼす影響	平成25年度食品技術研究会	高井雄一郎、橘田浩二、谷本秀夫	新	食品	加工
39	Efficacy of atmospheric gas plasma treatment for the control of <i>Listeria monocytogenes</i> on salad vegetables	IAFP European Symposium 2013	Yuichiro Takai, Terumi Nishioka, Kiyotsugu Okada, Hideo Tanimoto, Tatsuya Misawa	新	食品	加工
40	数種ナス果実の品種特性と収穫時期の相違によるその変化	日本食品保蔵科学会第62回大会	橘田浩二・松島さゆり・下川陽大・執行正義・山内直樹	基盤	農水	農林
41	赤色防虫ネットと天敵資材の併用による施設ナス・キュウリのミナミキイロアザミウマの防除	第58回日本応用動物昆虫学会大会	柴尾 学, 岡田清嗣, 鬼追良隆, 山中 聡, 田中寛	重点	農水	農林
42	肥料としての液状魚かす施用深度が窒素無機化とイチジク生育に及ぼす影響	園芸学会平成26年度春季大会	磯部武志・三輪由佳・内山知二	基盤	農水	農林
43	果房へのダクト冷却がブドウ‘クイーンニーナ’への着色に及ぼす影響	園芸学会平成26年度春季大会	三輪由佳・磯部武志・森川信也	基盤	農水	農林
44	Rapid and convenient method for evaluation of nitrate and available organic nitrogen of arable soils using a dual UV absorbance and modified phosphate buffer extraction	The 11th International Conference of the East and Southeast Asia Federation of Soil Science Societies	Shuji Sano, Motoyoshi Yamasaki, Norihito Onomoto and Tomoji Uchiyama	基盤	農水	農林
45	本邦産ヒメドロソコエビ属 <i>Paragrandidierella</i> 3種について(甲殻亜門: 端脚目: ユンボソコエビ科)	日本動物分類学会第49回大会	有山啓之	基盤	農水	農林
46	大阪府岸和田市の人工干潟で採集されたスネナガイソガニについて	日本甲殻類学会第51回大会	有山啓之, 佐野雅基	基盤	農水	水産
47	ガザミとヨシエビの放流効果について	平成25年度日本水産学会近畿支部後期例会	有山啓之	基盤	農水	水産
48	底びき網投棄生物のバイオマス資源化で回収可能なN・P量の推定	日本水産増殖学会第12回大会	日下部敬之, 大美博昭, 中谷直樹, 大塚耕司	重点	農水	水産
49	大阪湾における底質環境と小型魚類相の変化	日本水産増殖学会第12回大会	佐野雅基, 鍋島靖信, 日下部敬之, 大美博昭, 中嶋昌紀	基盤	農水	水産
50	大阪湾の漁業日誌からみる漁業と環境の変化	平成25年度日本水産学会秋季大会第62回漁業懇話会講演会	鍋島靖信	基盤	農水	水産
51	温暖化による大阪湾の環境変異と生物応答	2013年度 水産海洋学会	鍋島靖信	基盤	農水	水産
52	大阪湾の水域環境の変遷と課題	平成25年度 日本沿岸域学会 研究討論会(第26回)	中嶋昌紀, 山本圭吾, 佐野雅基, 矢持進	重点	環境	自然
53	大阪湾におけるサイズ別クロロフィルa濃度の季節変化	2013年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会	山本圭吾	重点	環境	自然
54	近年の大阪湾におけるカタクチイワシシラス期の成長	2013年度水産海洋学会	山本圭吾	基盤	農水	水産
55	大阪湾における春季・秋季のマクロベントスの分布と経年変化	平成26年度日本水産学会春季大会	秋山諭, 鍋島靖信	重点	農水	水産
56	大阪湾で8~10月に出現したウシノシタ科着底稚魚の形態	平成25年度日本水産学会近畿支部後期例会	大美博昭, 佐野雅基, 日下部敬之	基盤	農水	水産
57	大阪湾1991~2012年におけるマクロベントスと底質の経年変化	平成25年度日本水産学会近畿支部後期例会	鍋島靖信	重点	農水	水産
58	瀬戸内海東部におけるマダイの資源増大と環境変動関係	2013年度水産海洋学会	山本昌幸・大美博昭・安江尚孝・宮原一隆・笠井亮秀	基盤	農水	水産

59	Flexible feeding of a mysid shrimp and the role as a mediator in a coastal food web	International Symposium on the Connectivity of Hills, Humans and Oceans	Satoshi Akiyama, Kenta Watanabe and Yo Yamashita	基盤	農水	水産
60	瀬戸内海における沿岸性主要資源の漁獲変動	水産海洋学会創立50周年記念シンポジウム	山本昌幸・大美博昭・宮原一隆	基盤	農水	水産
61	淀川産コイおよびイシガイからのPhyllostomum sp.の新記録	平成25年度 第83回 日本寄生虫学会	石橋 亮、上原一彦、浦部美佐子	基盤	農水	水産
62	大阪府レッドリスト2013について	2014年度関西自然保護機構大会	天満和久、石井 実、石田 惣、上原一彦、梅原徹、木村全邦、佐久間大輔、中条武司、平井規央、平田慎一郎、道盛正樹、和田 岳	新	環境	自然
63	汽水・淡水魚類における大阪府レッドリストの見直し	2014年度関西自然保護機構大会	上原一彦、平井規央、花崎勝司、山本義彦、平松和也	新	環境	自然
64	昆虫類における大阪府レッドリストの見直し	2014年度関西自然保護機構大会	平井規央、天満和久、市川顕彦、河合正人、坂井誠、初宿成彦、長島聖大、平田慎一郎、平松和也、松本吏樹郎、宮武頼夫、森 康貴、山本哲央	新	環境	自然
65	淀川城北ワンドにおける外来魚駆除効果と増水による攪乱の影響	日本生態学会第61回全国大会	鶴田哲也、木邨建志、中埜将太、山下幸裕、和田恭典、内藤 馨、金丸善紀	新	環境	自然

(4) その他の発表

出版物

No.	タイトル	掲載誌等	著者	研究	分類	
				区分	第1	第2
1	メタン発酵技術の動向と展望	光合成のエネルギー利用と環境応用 第2編 第9章の7	藤谷 泰裕	重点	農水	畜産
2	シカ・イノシシ・アライグマのモニタリング調査	独立行政法人 森林総合研究所(編). 公立林業試験研究機関研究成果選集No.11	虎谷卓哉, 幸田良介	新	環境	自然
3	シカによる生態系被害に対する各都道府県の取り組み	特定非営利活動法人 森林再生支援センター ニュースレター N0.35	幸田良介	新	環境	自然
4	モンゴルの地誌とその特徴	藤田昇, 加藤聡史, 草野栄一, 幸田良介(編著). モンゴル 草原生態系ネットワークの崩壊と再生. 京都大学学術出版会. pp 12-21.	幸田良介	基盤	環境	自然
5	家畜の密度と摂食量	藤田昇, 加藤聡史, 草野栄一, 幸田良介(編著). モンゴル 草原生態系ネットワークの崩壊と再生. 京都大学学術出版会. pp 12-21.	幸田良介, 藤田昇	基盤	環境	自然
6	過放牧による摂食耐性植物の優占と土壌のアルカリ性化	藤田昇, 加藤聡史, 草野栄一, 幸田良介(編著). モンゴル 草原生態系ネットワークの崩壊と再生. 京都大学学術出版会. pp 12-21.	幸田良介, 藤田昇	基盤	環境	自然

7	森林の動態に対する人為攪乱の影響	藤田昇, 加藤聡史, 草野栄一, 幸田良介(編著). モンゴル 草原生態系ネットワークの崩壊と再生. 京都大学学術出版会. pp 12-21.	音田高志, 廣部宗, 幸田良介, 藤田昇	基盤	環境	自然
8	モンゴルの野生動物—フスタイ国立公園の今	藤田昇, 加藤聡史, 草野栄一, 幸田良介(編著). モンゴル 草原生態系ネットワークの崩壊と再生. 京都大学学術出版会. pp 12-21.	幸田良介	基盤	環境	自然
9	統計データでみる家畜と遊牧民—首都への集中度の変遷	藤田昇, 加藤聡史, 草野栄一, 幸田良介(編著). モンゴル 草原生態系ネットワークの崩壊と再生. 京都大学学術出版会. pp 12-21.	幸田良介	基盤	環境	自然
10	結束バンドで宙づり設置ができる中空構造栽培槽	施設と園芸161	内山知二	基盤	農水	農林
11	植物防疫基礎講座: 殺虫剤感受性検定マニュアル(4) アザミウマ類	植物防疫67(4):248-251.	柴尾 学	重点	農水	農林
12	苗木の熱処理によるイチジク株枯病防除試験	地方独立行政法人大阪府立環農水研報1:20-22	瓦谷光男・三輪由佳・磯部武志・細見彰洋・岡田清嗣	重点	農水	農林
13	果樹園管理のポイント —ブドウ—	果実日本 4月号, 2013 Vol.68, 127-129	磯部武志	基盤	農水	農林
14	果樹園管理のポイント —ブドウ—	果実日本 6月号, 2013 Vol.68, 120-121	磯部武志	基盤	農水	農林
15	果樹園管理のポイント —ブドウ—	果実日本 8月号, 2013 Vol.68, 121-122	磯部武志	基盤	農水	農林
16	ガスプラズマを用いた農産物の殺菌技術	食品における非加熱殺菌技術研究の最新動向	柳生義人, 西岡輝美, 高井雄一郎, 三沢達也, 作道章一	基盤	農水	農林
17	千切りキャベツの食感を数値化する	タキイ最前線 2013 夏号	高井雄一郎	新	食品	加工
18	UV-B照射によるナス科作物の病害防除	植物防疫 68(2):未定	岡田清嗣・岡久美子	重点	農水	農林
19	果樹園管理のポイント —ブドウ—	果実日本 10月号, 2013 Vol.68, 121-122	磯部武志	基盤	農水	農林
20	果樹園管理のポイント —ブドウ—	果実日本 12月号, 2013 Vol.68, 93-95	磯部武志	基盤	農水	農林
21	味は絶品! 「昭和の品種」がおいしい皮ごと食べられるイチジク	現代農業 2014年2月号	磯部武志	基盤	農水	農林

15 重点研究分野への取組

(1) 「安全・安心な特産農産物生産を目指した総合的作物管理(ICM)技術」 (実績報告書 18 ページ)

病害虫の防除の推進について

①必要性

農政室施策3本柱の1つである「生産振興・地産地消の推進」の中で、農産物の安全安心確保が求められている。とくに“大阪エコ農産物”の安定生産のために化学合成農薬の使用回数を減らすことが急務であり、その技術的課題解決のための研究・実証が必要である。

②業務の具体的内容(平成25年度)

ハウス栽培ナス・キュウリ等の果菜類では薬剤抵抗性の発達したミナミキイロアザミウマやコナジラミ類、アブラムシ類等の難防除害虫による被害が大きく、とくにミナミキイロアザミウマの防除に苦慮している。そこで、これらの難防除害虫の防除法として、天敵と天敵に対して悪影響の小さい薬剤を併用した総合的害虫管理法を開発する。

③業務実施結果の概要(平成25年度)

ア 捕食性天敵スワルスキーカブリダニと悪影響の小さい薬剤の併用による難防除害虫ミナミキイロアザミウマの防除法の開発

ハウス栽培キュウリにおいて、スワルスキーカブリダニの放飼と天敵に悪影響の小さい殺虫剤の散布を行ったところ、天敵放飼区(以下、天敵区)では慣行農薬防除区(以下、慣行区)と比較してミナミキイロアザミウマの発生が少なく抑えられ、防除効果が認められた(図1)。

イ 天敵糸状菌メタリジウム粒剤と捕食性天敵スワルスキーカブリダニとの併用によるミナミキイロアザミウマ防除法の開発

ハウス栽培ナスにおいて、メタリジウム粒剤の処理とスワルスキーカブリダニの放飼の併用によるミナミキイロアザミウマの防除効果を調査したところ、天敵区では慣行区と比較してミナミキイロアザミウマの生息密度が低く抑えられ、被害果率は低く抑えられたことから、防除効果が確認された(図2)。

10aあたりの天敵施用時間は、パック剤を枝にかける場合も、メタリジウム粒剤を株元処理する場合もそれぞれ30分程度の省力的な施用方法に改善され、効果の持続期間も1~2ヶ月見込めると考えられた。また、ミナミキイロアザミウマに対して散布された殺虫剤成分回数は天敵区が4回(生物農薬を除く)、慣行農薬防除区が7回となり、天敵区では3回(4割)削減された。

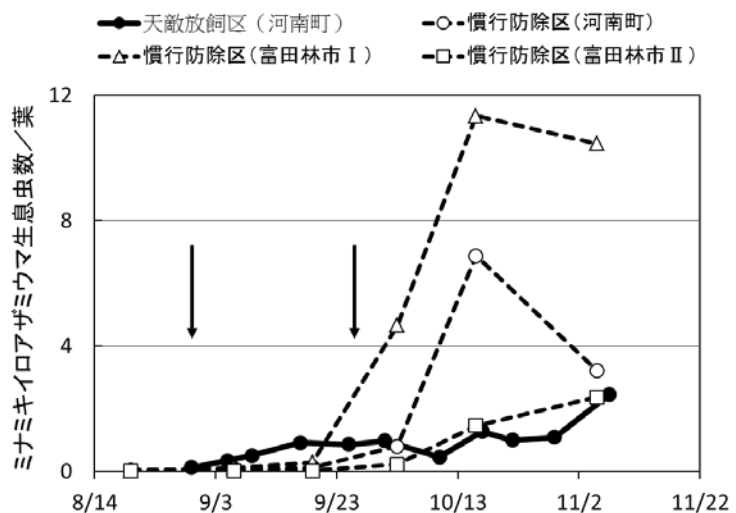


図1 施設キュウリにおけるスワルスキーカブリダニ放飼によるミナミキイロアザミウマの防除効果(2013年, 河南町・富田林市)
実線↓: 天敵放飼区におけるスワルスキーカブリダニの放飼



アザミウマを捕食するスワルスキーカブリダニ



スワルスキーバック剤の処理



メタリジウム粒剤の処理

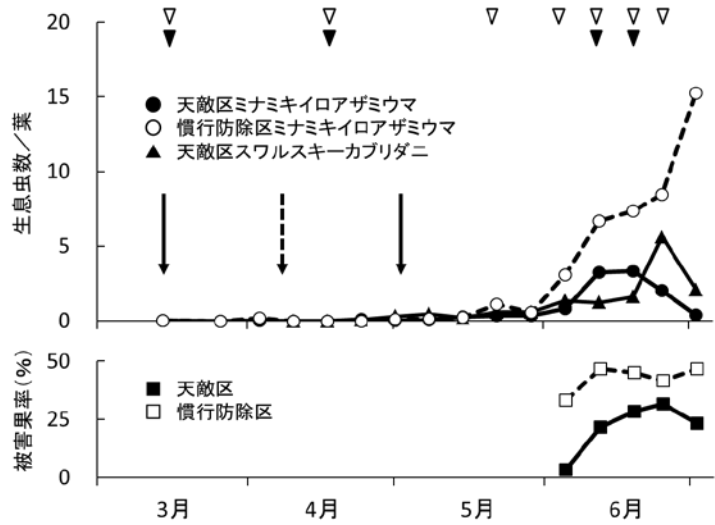


図2 施設ナスにおけるメタリジウム粒剤処理とスワルスキーカブリダニ放飼によるミナミキイロアザミウマの防除効果(2013年, 羽曳野市)
 実線↓:メタリジウム粒剤処理, 点線↓:スワルスキーカブリダニ放飼,
 ▼:天敵区の薬剤散布, ▽:慣行防除区の薬剤散布を示す

ウ 赤色ネット展張、メタリジウム粒剤、スワルスキーカブリダニの併用によるミナミキイロアザミウマ総合的管理 (IPM) 体系の確立

ハウス栽培ナスにおいて、赤色ネットの展張、メタリジウム粒剤の処理、スワルスキーカブリダニの放飼の併用によるミナミキイロアザミウマの総合的管理による防除効果を調査したところ、IPM区では慣行区と比較してミナミキイロアザミウマの生息密度が低く抑えられた(図3)。また、IPM区の被害程度別果実数において、慣行区と比較して良品果実数が顕著に増加し(図4)、天敵やネット導入費用を差し引いても増収が見込めると考えられた。

ハウス栽培キュウリにおいて、赤色ネットの展張、メタリジウム粒剤の処理、スワルスキーカブリダニの放飼の併用によるミナミキイロアザミウマの防除効果を調査したところ、IPM区では慣行区と比較してミナミキイロアザミウマの生息密度が低く抑えられた(図5)。

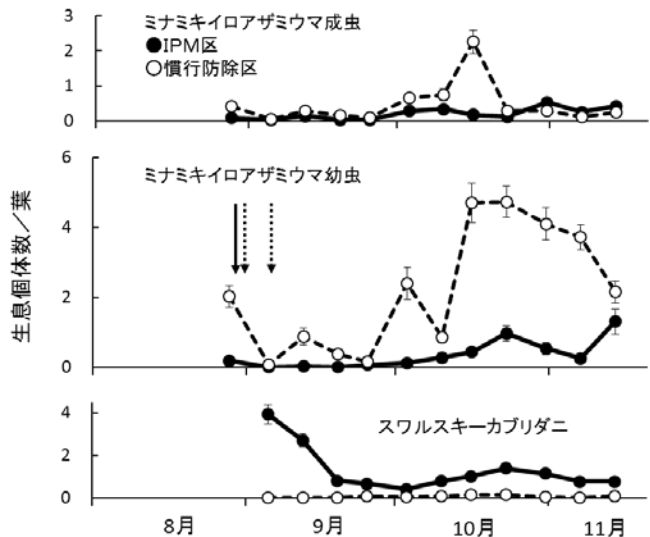


図3 施設ナスにおける赤色ネット展張、メタリジウム粒剤とスワルスキーカブリダニの処理によるミナミキイロアザミウマの防除効果(2013年, 羽曳野市)
 実線↓:メタリジウム粒剤処理, 点線↓:スワルスキーカブリダニ放飼



赤色ネットの展張

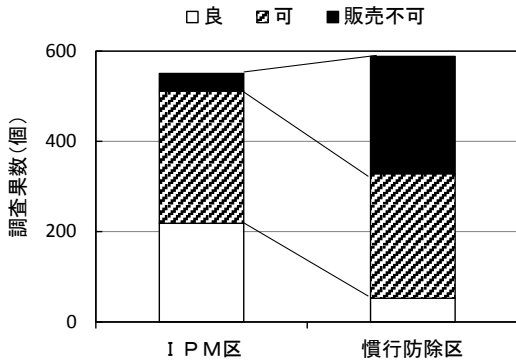


図4 施設ナスにおける赤色ネット展張, メタリジウム粒剤とスワルスキーカブリダニの処理によるミナミキイロアザミウマ被害の抑制効果 (2013年10~11月, 羽曳野市)

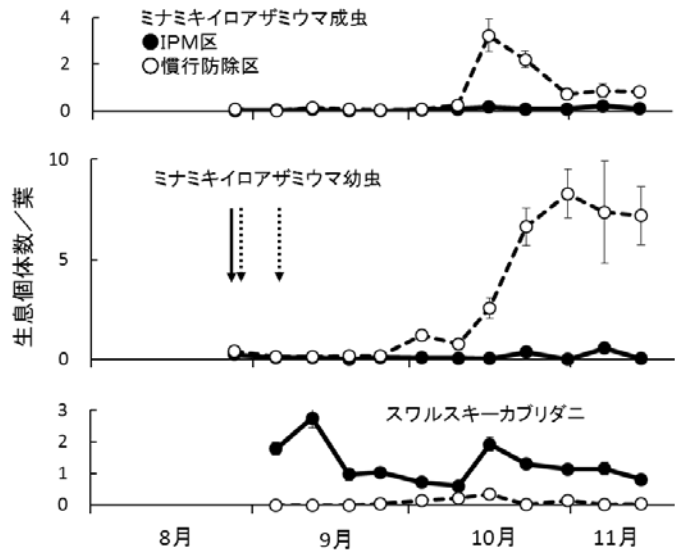


図5 施設キュウリにおける赤色ネットのメタリジウム粒剤とスワルスキーカブリダニの処理によるミナミキイロアザミウマの防除効果 (2013年, 羽曳野市) 実線↓:メタリジウム粒剤処理, 点線↓:スワルスキーカブリダニ放飼

④今後に向けた研究所の考え方

近年の病害虫の発生は、突発的、かつ、同時多発的に発生することから最新の診断・調査技術を用いた的確な判断に基づく防除対策の構築が必要である。本業務で得られた病害虫の制御技術やノウハウは、持続可能な大阪エコ農業推進の観点から継続的な調査研究が不可欠である。

(2) 「都市域におけるバイオマスの地域循環システム」

(実績報告書 19 ページ)

府内のバイオマス資源の固形燃料化利用

①必要性

バイオマスは「温室効果ガス」を発生する化石燃料の代替エネルギー資源として注目されている。府内には多数の食品工場や放置竹林、集約された畜産団地などがあり、大量のバイオマスが存在する。これらバイオマスのエネルギー利用が地球環境問題の観点から求められている。

②業務の具体的内容（平成 25 年度）

里山環境の悪化につながる放置竹林の拡大を抑制する方策の一環として、竹を原料としたバイオ固形燃料（バイオコークス）の研究を実施し、府内の竹を府内の事業所で産業利用する「エネルギーの地産地消」の実現可能性を検討した。

- ・竹を材料とするバイオコークスの実用性を実証する
- ・竹の燃料化利用モデルを策定し、実現可能性を評価する
- ・木竹混合バイオコークス利用の環境影響評価（LCA）結果を示す

③業務実施結果の概要（平成 25 年度）

ア 竹を原料とするバイオコークスの実用性

- ・間伐材と竹を 8:2 の割合に混合した木竹混合バイオコークス 10 トンを試作した（図 2）。
- ・府内鑄造事業所のキュボラ炉および電気炉で燃焼試験を実施した（図 3・図 4）。



図 1 木竹混合バイオコークス



図 2 キュボラ炉



図 3 電気炉

- ・キュボラ炉では石炭コークスの 5~20%を、電気炉では黒鉛系加炭剤の 20%を木竹混合バイオコークスで置換した。
- ・両試験とも出銑（鑄物に溶解された金属）中の炭素、ケイ素含量に大きな変化はなく（図 5）、操業にも問題ないことから、20%置換は可能との結果を得た。

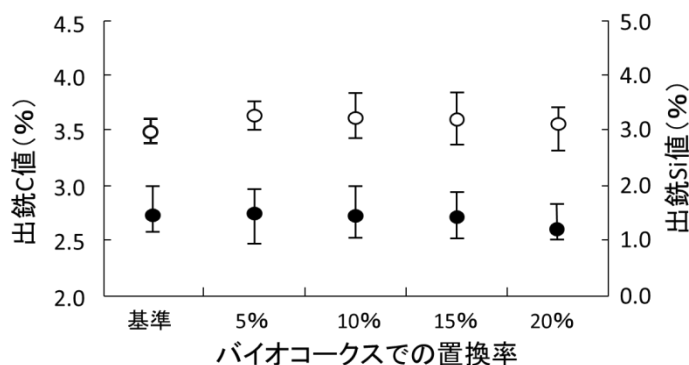


図 4 出銑中の炭素およびケイ素濃度（実験協力メーカー提供）

- ・この結果を受け、実験協力メーカーが追加試験実施希望を表明した。

- ・ 産業界で木竹混合バイオコークスの燃焼性能が高く評価されたことは、今年度の大きな成果である。

イ 竹の燃料化利用のモデルと採算性

- ・ 府内の石炭コークスおよび黒鉛系加炭材の需要からバイオコークスの市場規模を7,400トンと推定し、これをもとに年間3,000トンの木竹混合バイオコークスを生産して、キュボラ炉および電気炉向けに出荷するモデルを想定した(図6)。

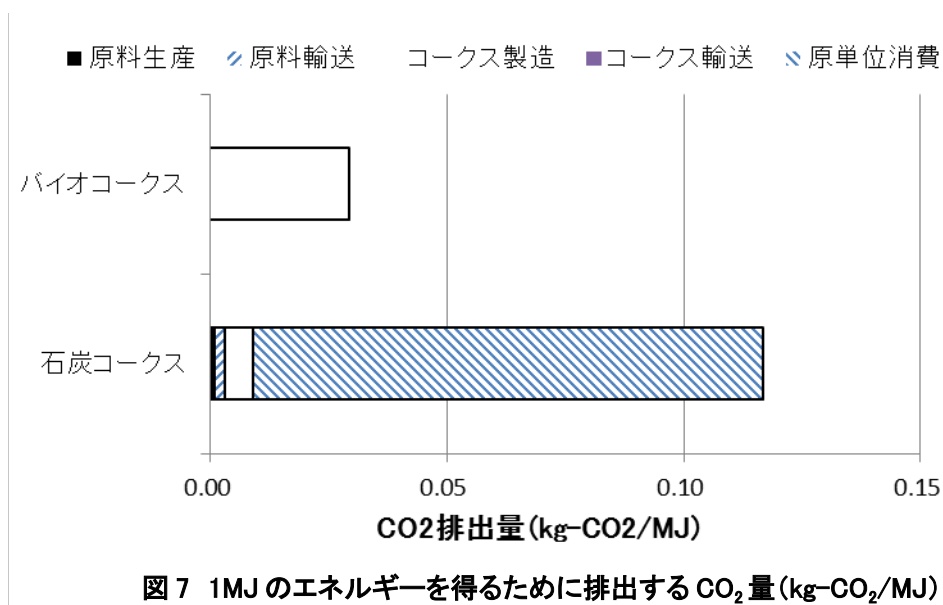


図5 大阪府内でのバイオコークス利用モデル

- ・ 原料調達から製造、商品配送までにかかる経費を試算した結果、バイオコークス1トン当たり52,400円と算定された。
- ・ H25年11月の鑄物用石炭コークスの価格50,000円~60,000円/トンをもとに熱量で等価換算すると、木竹混合バイオコークスの1トンの価値は34,500円~41,000円程度となり生産・供給コストの52,400円を下回った。
- ・ 採算ラインに乗せるためには生産・供給コストの削減が必要であることがわかった。

ウ 木竹混合バイオコークスの環境影響評価(LCA)

- ・ 石炭コークスと木竹混合バイオコークスについて、製造から燃焼に至る全プロセスのCO₂排出量を積算した。
- ・ 1MJのエネルギーを得るために排出されるCO₂量は石炭コークスの0.108kgに対し木竹混合バイオコークスでは0.0293kgであり、27%に抑えられることがわかった(図7)。
- ・ これは、原料である竹や木がカーボンニュートラルであり、燃焼によって出るCO₂は排出量にカウントされないためである。
- ・ 木竹混合バイオコークスが環境負荷の小さい燃料であることを、定量的に明示できた。



④今後に向けた研究所の考え方

バイオ固形燃料は、未利用バイオマス資源をエネルギーとして有効活用できる優れた技術であり、長期的なエネルギー戦略において重要なツールになりうる。産業的利用のためには、現状では原料調達や利用施設の開拓等解決すべき課題も多いことから、行政や関係機関と連携して実用化に向けたモデル形成等に取り組み、産業界に提案していく必要がある。

(3) 「大阪湾の環境変化が生態系に与える影響の解明」

(実績報告書 19 ページ)

大阪湾の底魚不漁要因推定に向けた餌料底生動物の動向解析調査

① 必要性

- 大阪湾では栄養塩濃度の低下とともに、シャコ、マコガレイ等の底魚類の漁獲量が減少しているが、両者の因果関係は、食物連鎖において様々な生物が介在するため明確ではない。このため、餌料生物を含めた動向調査によって因果関係を明らかにする必要がある。
- 大阪府を含む瀬戸内海関係漁連絡会議は、栄養塩濃度の低下と漁獲量の減少の関係性を解明して、豊かな海を再生することを行政に要望しており、そのための研究は急務である。

②業務の具体的内容（平成 25 年度）

海域の栄養塩低下と底魚類減少の関係性の解明に資するため、河川からの窒素負荷の増減や湾内における動態と底生動物の生息状況の変化を併せて調査する。25 年度は以下の項目に取り組んだ。

- 海域の難分解性有機窒素化合物の実態解明
- 海域における窒素化合物の動態解明
- 底質データによる海域類型化と底生動物の動態把握

③業務実施結果の概要（平成 25 年度）

- 海域の難分解性有機窒素化合物の実態解明

淀川水系 2 点、大和川水系 2 点、大阪湾内 4 点で 2013 年 8 月に採水した試料から難分解性有機窒素濃度を求めたところ、全有機窒素の 21%~73%が難分解性有機窒素と見積もられた(図 1)。

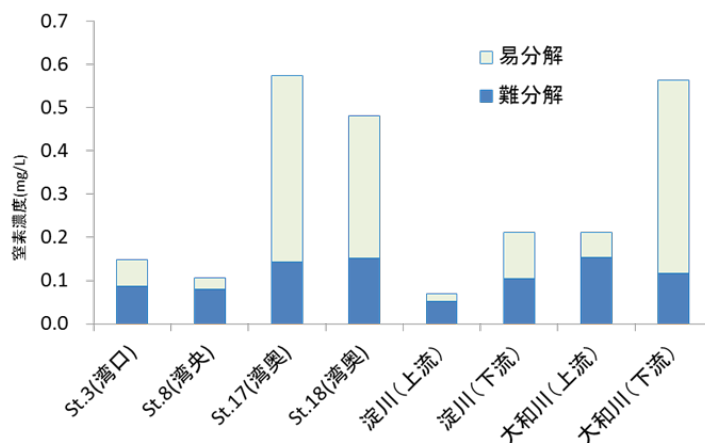


図 1. 海域、あるいは河川水中の難分解性有機窒素濃度

- 海域における窒素化合物の動態解明

毎月 1 回、大阪湾の 20 定点で採取したサンプルを分析して、形態別の窒素の季節的な動態を明らかにした。溶存態有機窒素は、懸濁態有機窒素や溶存態無機窒素と比較して、最も季節変動が小さかった(図 2)。

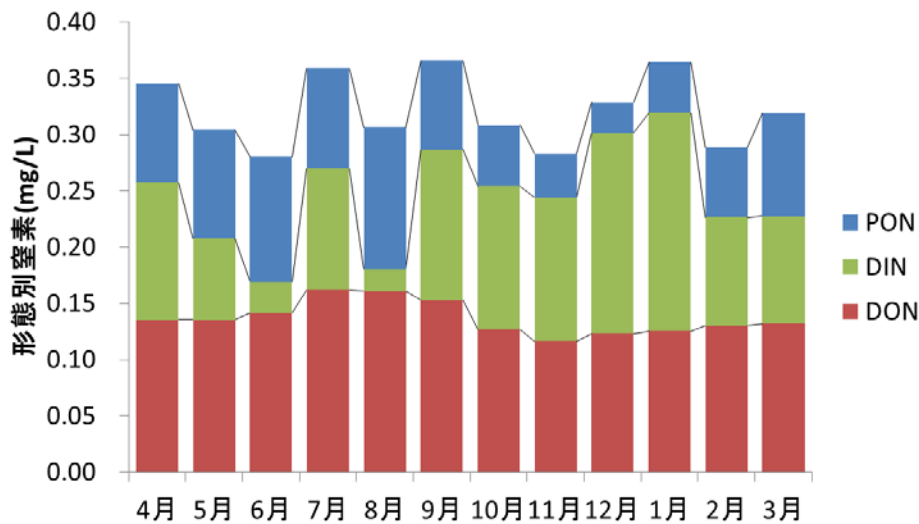


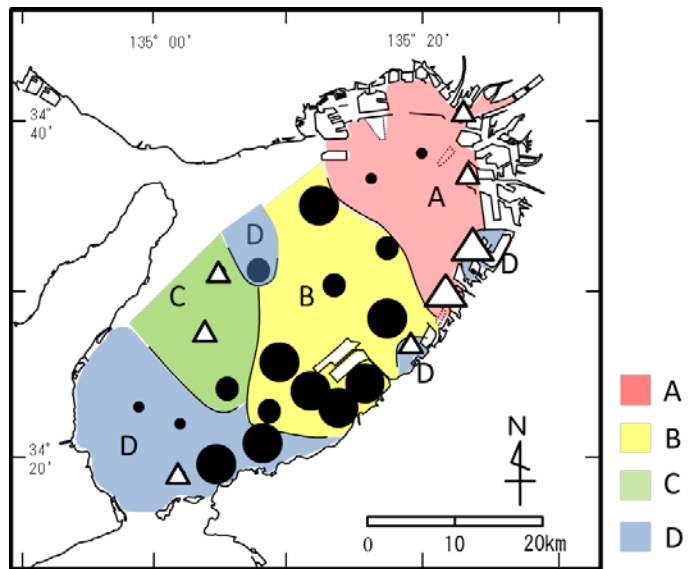
図 3. 表層における形態別窒素の季節変化 [2010 年度-2013 年度の各月平均値]
PON: 懸濁態有機窒素、DIN: 溶存態無機窒素、DON: 溶存態有機窒素

・ 底質データによる海域類型化と底生動物の動態把握

8月に大阪湾内の31点で採取した底質8項目の測定値の統計解析により大阪湾を4区分に類型化した。その特徴は以下のとおりであった。

- A 区分: 河川からの有機汚濁の影響がもっとも強く、泥分が多い。
- B 区分: A 区分よりも有機汚濁の影響が低く、泥分もやや少ない。
- C 区分: 有機汚濁の影響が少なく、砂泥底である。
- D 区分: 有機汚濁の影響が少ないが、泥分が多い。

メガベントス（大型底生動物）の生息状況（1992年比）は、湾奥部沿岸のA区分とD区分における減少と湾中央部B区分での増加が顕著で、底質の区分とよく一致していた。



- : 4倍以上 ● : 2倍以上4倍未満
- : 1倍以上2倍未満
- △ : 0.1倍以上1倍未満 △ : 0.1倍未満

図 4. 底質の主成分分析により求めた大阪湾の海域区分と1992年5月と2013年5月のメガベントス個体数増加率

④ 今後に向けた研究所の考え方

本業務で得られたデータによって、富栄養期と現在の違いが明らかになりつつある。さらなるデータの蓄積と過去のデータとの比較・解析を行うため、26年度以降は以下の取組を実施する。

- ・ 河川から海域への窒素化合物の流入調査
 - 河川の流下過程、および大阪湾内における難分解性有機態窒素を含めた形態別窒素化合物の動態把握を行う。
- ・ 海域における窒素化合物の動態解明
 - 形態別窒素・リンの時間・空間的変動把握のため、毎月1回大阪湾の20定点で調査を行う。
- ・ 栄養塩濃度の変化が底生動物に及ぼす影響の解析
 - 各区分においてメガベントスとマクロベントス、表層堆積有機物の関係を把握する。

16 新たな研究分野への取組

(1) 「農林水産業の六次産業化の促進支援」

府内産農産物の商品化に関する技術開発（大阪産（もん）チャレンジ支援事業） （実績報告書 21 ページ）

①必要性

「大阪産(もん)」の生産・流通・消費を拡大するため、「大阪産(もん)」を使用した商品の開発・改良、流通の改善、新しいサービスの提供などの事業者の取組に対して、研究所が技術面から支援を行い、それにより大阪府内の農林水産業・食品産業の振興を図る。

②業務の具体的内容（25年度）

大阪産(もん)の6次産業化等をテーマに、「大阪産(もん)」の生産・流通・販売を行う事業者などが本事業に応募していただき、外部審査で採択された事業計画に対して、実現に必要な支援を研究所が行う。

③業務実施結果の概要（25年度）

<かわいくてヘルシー！一口で食べられる、「ミニ野菜のまるごとピクルス」の開発>

ピクルスの原料となる水なす果皮の色を残す色止めと、漬け液中の色漏れを防ぐ技術を中心に開発を行い、色止め効果をもたらす最低限の酸化鉄添加濃度を明らかにするとともに、添加した酸化鉄の味への影響を確認した。また、漬け液中の色漏れを防ぐ手法も開発した。現在、ミニ水なすピクルスのきれいな果色を活かしたパッケージ方法などを検討中である。

<新たな辛みを活かした紅たで・ジンジャーシロップの開発>

ジンジャーシロップと混合する紅たでエキスについて、紅たでの辛さが際立ち、きれいな紅色を呈する製造方法を確立した。現在、製造委託による試作を行い、瓶の形、大きさ、価格などの検討を行っている。

<手作り白みそを使ったドレッシングの開発>

白みそを活かした味、風味が良好で、なおかつ保存性の高いドレッシングのレシピ開発を行った。絞り込んだレシピで一般消費者にアンケートを行うとともに、保存性の加速試験も行った。現在、お試しサイズ（小型瓶詰）の製造・販売の段階にある。

<江戸時代から今に受け継がれている“粕漬け”の味伝えるスナック菓子！>

服部しろりの粕漬けの菓子として利用を目的に、薄く切り、殺菌後、フリーズドライ法を用いて乾燥し、菓子への製造方法を明らかにした。当初、フリーズドライ処理した粕漬けをそのまま、スナック菓子にすることも考えたが、濃縮された味がかなり濃いため、菓子の材料となる加工品の製造に目標を改め、その製造方法を確立した。

<規格外の水なすを使った『大人のジャム』新商品の開発>

果肉の原型を保ったジャムとするために、水ナス果実の大きさを決定した。また、混合するワインの種類、味、風味などを検討し、最適な組み合わせを検討した。ジャムのレシピを決定後、加速試験を行って保存性を確認した。

<食卓を彩り、料理が楽しくなる！「泉州水なす塩」>

水ナス乾燥果皮の褐変防止方法、3色（赤紫、紫、青紫）の色を呈する製造方法、保存性について試験を行った。これにより、3色の水ナス塩の製造方法を確立でき、支援事業者により製造が始まっている。

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
1	「泉だこのやわらか旨煮」	「みかんドレッシング」 (富田林市生活改善クラブ)	「ミニ野菜まるごとピクルス」 (日本スチールワイヤロープ)
2	「タモロコの佃煮」	「水なすふりかけ」 「お茶漬の素」 (堺共同漬物株式会社)	「紅たで・ジンジャーシロップ」 (お野菜料理 ふれんちん)
3	「玉葱おこげ」 (七庭本店)	「ふき水煮」 (JA大阪泉州)	「白みそドレッシング」 (農事組合法人かなん)
4	「ドライイチジク」 (果樹振興会KUレディース)	「シャコ、トビアラ、穴子のふりかけ」	「服部しろり粕漬けの snacks 菓子」 (服部しろり生産部会)
5	「ウメビーフコロッケ」 (ウメビーフ協議会)	「八尾えだまめスイーツ」 (株式会社瓢月堂)	「水なすのジャム」 (川崎農園)
6	「止々呂美柚子、包近の桃のキャンデー」 (豊下製菓株式会社)	「イチジクグラッセ」 (株式会社かつら屋)	「泉州水なす塩」 (Flour bee*)

④今後に向けた研究所の考え方

平成 26 年度より、研究所の独自事業として募集時期を大幅に前倒しして実施。

(2) 「新たな環境汚染への対応」

PM_{2.5}対策等に係る発生源及び環境中の動態の解明 (実績報告書 21 ページ)

① 必要性

平成 23 年度より常時監視を実施している PM_{2.5} は、これまでの測定結果から多くの地点で環境基準の超過が見込まれる。PM_{2.5} の有効な低減対策策定のため、汚染実態の把握と高濃度メカニズムの解明が必要である。

② 業務の具体的内容 (平成 25 年度)

環境省環境研究総合推進費により近畿大学に設置した測定器を用いて PM_{2.5} 濃度測定及び 4 季節 2 週間ごと 6 時間間隔で PM_{2.5} 成分調査を行った。また、同様の観測を行っている大津、京丹後の測定結果及び東海・近畿地域の自治体常時監視データとの比較を行った。また、近畿大学においては、同じところで観測しているライダー観測データとの比較を行った。これらの測定結果から、近畿地方における PM_{2.5} 高濃度時の要因解析を行った。

③ 業務実施結果の概要 (25 年度)

近畿地方都市部での PM_{2.5} 高濃度の要因については、東アジア規模の広域移流、地元発生源による一次排出、地元の環境大気中における二次生成が考えられる。

2013 年 1 月 28 日から 2 月 2 日にかけての高濃度では、広域移流の指標とされる PM_{2.5} 中鉛亜鉛比が高く、広域移流の寄与が考えられる (図 1)。同時に、PM_{2.5} と NO₂ 濃度の相関が高く、地元からの一次排出の寄与もあったと考えられる (図 2)。

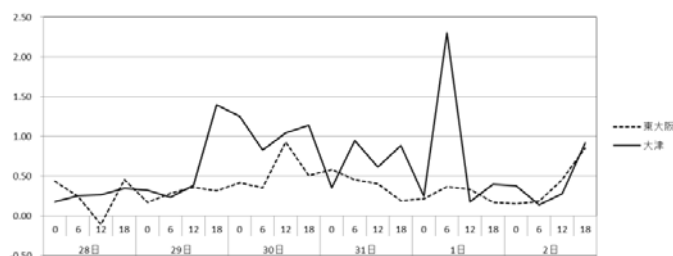


図 1. 2013 年 1 月 28 日～2 月 2 日の PM_{2.5} 中鉛亜鉛比

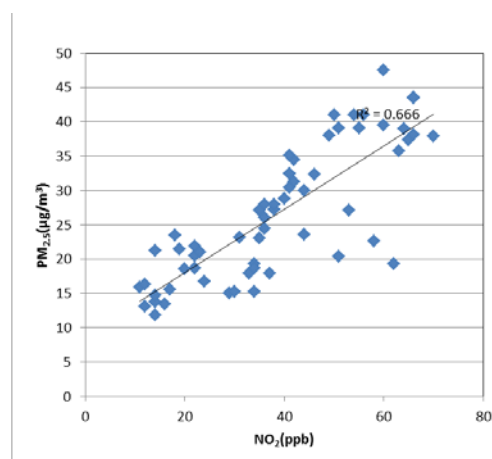


図 2. 2013 年 1 月 31 日 13 時～2 月 2 日の PM_{2.5} と NO₂ 相関 (東大阪)

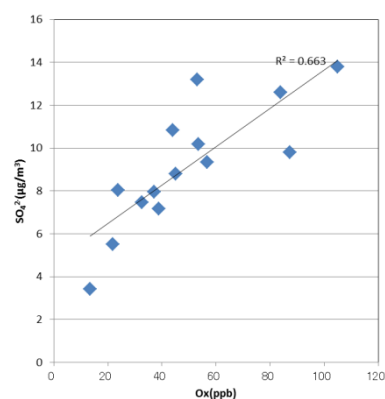


図 3. 2012 年 7 月 25～28 日 12 時のオキシダントと PM_{2.5} 中硫酸イオン濃度の相関

平成 24 年 7 月 25～30 日にかけての高濃度時には、PM_{2.5} の中でも一番多い成分である硫酸イオンとオキシダント濃度との相関が認められる (図 3)。このことから、地元における光化学生成反応あるいはそれと並行して起こる二次生成の寄与があると考えられる。

④ 今後に向けた研究所の考え方

- ・環境省環境研究総合推進費による測定により得られたデータの解析を行う。また、ライダー観測データとの比較を行い、高さ方向のPM成分の分布状況の推計を行う。
- ・PM_{2.5}成分分析結果を統計的手法で解析することにより、発生源寄与評価を行う。
- ・化学輸送モデルの導入・運用により、東アジア規模の広域移流の寄与等の数値的把握を行う。

①必要性

環境リスクが高い有害大気汚染物質等の事業所からの排出削減や化学物質リスクコミュニケーションを推進していくためには、事業者の自主的取組を支援していかねばならない。そこで、事業者が実施した対策を評価し、事業者の意欲向上を図ることを目指す。また、効果的に対策削減を進めていくために、重点的に指導に取り組む物質や地域、事業者を絞っていく必要がある。

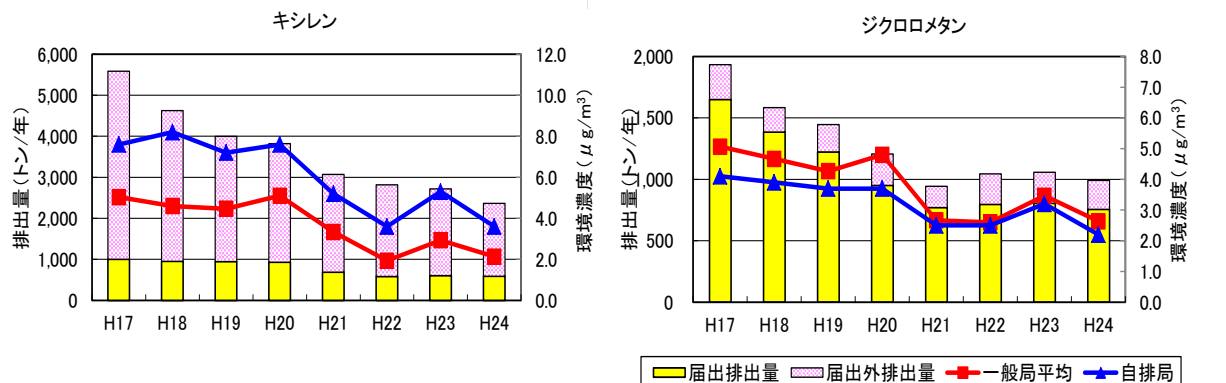
②業務の具体的内容〈平成 25 年度〉

有害大気汚染物質等の常時監視データと大阪府が提供する P R T R 排出量データを比較検討し、経年的な傾向及び地域特性等、その関連性について解析を行うことにより、事業所からの排出量が府域や事業所周辺に及ぼす影響について明らかにする。また、有害大気汚染物質の常時監視データが高い測定地点について、その要因を明らかにする。

③業務実施結果の概要 (平成 25 年度)

大気への排出量が多い有害大気汚染物質について、大気濃度との比較検討を行った。

ベンゼン、キシレン、ジクロロメタンについては、排出量と大気濃度の相関係数が高く (0.9497~0.8428)、排出量削減対策の効果がよく現れていると考えられた。



カモドールMBS (高石市) において、平成 24 年度にスチレンが高濃度で検出された要因を検討した。他の高濃度成分と継続して強い相関を示すものはなく発生過程が異なること、南東又は西南西の風向時に高濃度の傾向があり、それらの方向に発生源があると推測された。

	相関係数			
	H21	H22	H23	H24
エチルベンゼン	0.892	0.054	0.445	0.637
m,p-キシレン	0.773	0.030	0.534	0.231
o-キシレン	0.805	0.017	0.615	0.568
ウンデカン	-0.173	0.627	0.286	0.938

④今後に向けた研究所の考え方

事業所からの化学物質の排出量が府域や事業所周辺に及ぼす影響を検討する。

- ・発生源の分布状況で物質を区分し、環境濃度との関連性について解析
 - ・排出抑制対策が実施され排出量が削減した事業所に近い地点の環境濃度について検証
- 有害大気汚染物質の常時監視データが高い測定地点の要因を解明する。
- ・カモドールMBSにおいて、m, p-キシレン等他の芳香族炭化水素やウンデカンの濃度が高い要因を検討

有害化学物質による環境汚染状況の把握に必要な調査分析技術の開発

(実績報告書 22 ページ)

① 必要性

有害化学物質による新たな環境汚染へ対応するためには、環境汚染状況の把握に必要な調査分析方法を開発する必要がある。また、分析法開発調査への取り組みを進めることで、未知の化学物質汚染に即応できる技術基盤を確立することが可能となる。

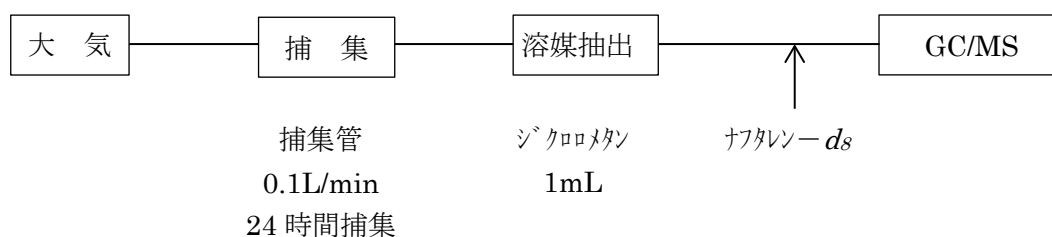
② 業務の具体的内容〈平成 25 年度〉

有害大気汚染物質に該当する可能性のある物質として環境省が指定している「ジビニルベンゼン」について、大気試料に関する分析法を開発する。

③ 業務実施結果の概要（平成 25 年度）

活性炭捕集材を用いた吸着捕集ーガスクロマトグラフ質量分析計による分析法を開発した。分析法の概要は以下のとおりである。

活性炭を充填した捕集管に大気試料を 0.1L/min で 24 時間捕集する。捕集したジビニルベンゼンをジクロロメタン 1mL で溶出した後、内部標準物質（ナフタレン- d_8 ）を添加し、ガスクロマトグラフ質量分析計（GC/MS）により定量する。



分析方法のフローチャート

④ 今後に向けた研究所の考え方

未知の化学物質汚染に即応できる分析体制を維持するため、今後も継続して分析法開発業務への取り組みを進める。

(3) 「生物多様性の保全」

野生生物被害対策調査（シカ・イノシシのモニタリング調査）（実績報告書 22 ページ）

①必要性

シカやイノシシなどの野生動物による被害が深刻化する中、都道府県や市町村では、鳥獣保護法に基づく特定鳥獣保護管理計画などにより適切に野生動物の管理を進めることが求められている。そのためには情報収集と解析を効率化し、現状把握や意思決定能力を向上させる必要がある。

そこで、府内におけるシカ・イノシシの生息分布とその経年変化、対策の効果などを明らかにし、大阪府シカ・イノシシ保護管理計画の策定や進捗状況の点検、見直しのために必要な科学的基礎資料を提供する。

②業務の具体的概要（25年度）

- ・ 狩猟者（821名）の出猟カレンダーから目撃効率等を算出する。
- ・ 北部地域30か所で冬季に調査地内のシカ糞数を計測し糞密度を算出する。
- ・ 農業被害調査として、府内全農業集落（1,278地区）対象の「農業被害アンケート」から出没頻度、被害強度、獣害対策への取り組み程度等を集計する。
- ・ 森林植生被害調査として、北部地域の落葉広葉樹林53か所でシカ採食痕、植被率から植生衰退度を算出する。
- ・ 効果的防除方法の調査として、農会アンケート結果から注目すべき地区について防護柵の種類や設置方法、捕獲状況、周辺環境等の詳細を現地調査する。

③業務実施結果の概要（25年度）

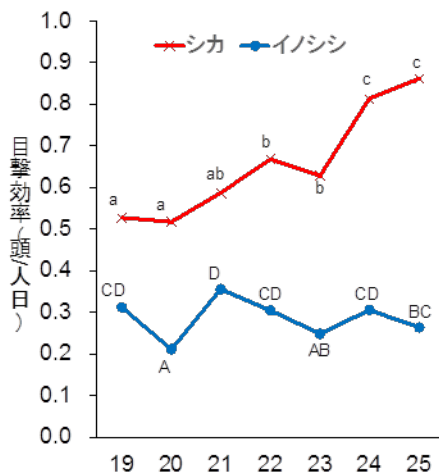


図1 銃猟狩猟者によるシカとイノシシの目撃効率*の変化
*狩猟者1人が1日あたりに目撃した頭数

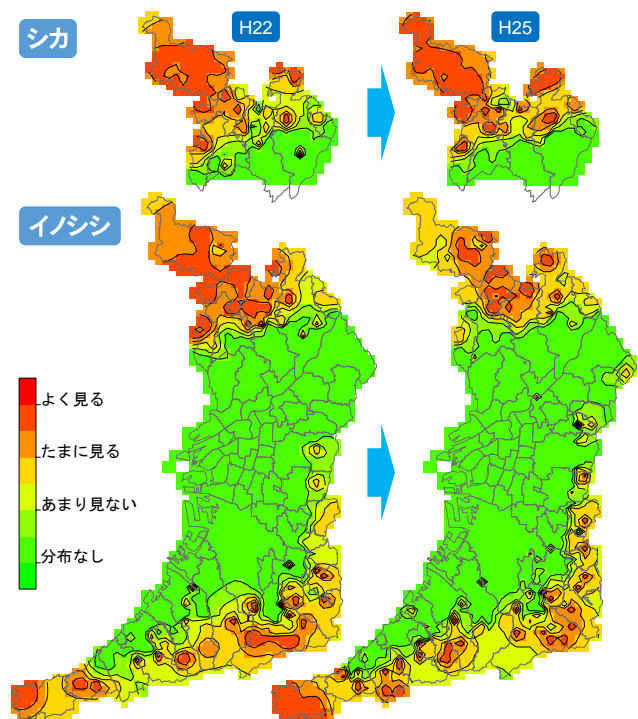


図2 農業者へのアンケート調査によるシカ、イノシシの出没頻度の変化
*農業アンケート結果から空間補間法により作図

・シカの生息状況

目撃効率（図1）や出没頻度（図2）ともに増加していることから、シカの生息数は増加傾向にあると考えられた。被害も増加傾向にあり、一層の対策が必要であると考えられた。

・イノシシの生息状況

目撃効率がほぼ一定であることから（図 1）生息数に大きな変動はないと考えられた。その一方で、北・中河内地域を中心に分布域が拡大傾向にあることが分かった（図 2）。

④今後に向けた研究所の考え方

捕獲目撃情報調査、シカ糞密度調査、農業被害調査及び効果的防除方法調査の結果を総合して、シカ・イノシシの生息状況と対策の効果を解析する。

(3) 「生物多様性の保全」

天然記念物イタセンパラの野生復帰 (実績報告書 22 ページ)

①必要性

現在、研究所では大阪府内の生物多様性保全のシンボルとしてイタセンパラを位置づけ、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所と共同プロジェクトとして、淀川への野生復帰を目指している。その取り組みを推進するため、放流に用いるイタセンパラの増殖、淀川の放流候補地での外来魚の駆除や環境改善などに関する調査研究が求められている。また、得られた研究成果を継続的に利活用するため、市民参加型の保全体制の構築も必要となっている。



②業務の具体的内容 (25 年度)

- ・ 淀川に放流するためのイタセンパラを育成し、野生復帰に供する。
- ・ 外来魚のブラックバスやブルーギル等を駆除し、放流候補地の生息環境を改善する。
- ・ 市民参加型の保全活動に移行するための、仕組みづくりを整える。
- ・ 住民監視による密漁抑制のため、イタセンパラの公開放流を目指す。

③業務実施結果の概要 (25 年度)

淀川の城北ワンド群 (大阪市旭区) の一部において、外来魚の割合を 2~3 割程度までに減少させることに成功したことに加え、市民団体や企業、大学、行政の計 25 団体からなる「淀川水系イタセンパラ保全体制」による野生復帰支援体制が整ったことから、10月に城北ワンド群の一部において、当研究所で育成したイタセンパラの親魚 500 尾を放流した。放流式には、地元の小中学生の児童生徒等を招き、公開で行なった。



④今後に向けた研究所の考え方

- ア. イタセンパラの安定した定着を目指して、今後も、淀川河川事務所と共同で野生復帰プロジェクトを進める。
- イ. 「淀川水系イタセンパラ保全体制」に参画し、イタセンパラ野生復帰の取り組みを進めるとともに、よりいっそう府民が生物多様性保全の取り組みに参画しやすい仕組みづくりを整える。

17 研究活力向上支援事業採択課題 (実績報告書 24ページ)

No.	課題名	研究分野	応募予定の競争的資金名
1	昆虫による畜ふんの堆肥化と養魚用飼料製造	新たな研究分野「都市域におけるバイオマスの地域循環システム」	J S T A-STEPシーズ顕在化 ステージ
2	炭素・窒素安定同位体比分析によるアライグマの食性把握	新たな研究分野「生物多様性の保全」	住友財団 環境研究助成
3	酸化型グルタチオンを施用したグランドカバープランツ(GCP)の生育促進効果	新たな研究分野「生物多様性の保全」	文部科学省 科学研究費 補助金(若手研究B)
4	マクロベントスと海底環境の経年変化の解析	重点研究分野「大阪湾の環境変化が生態系に与える影響の究明」	大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度
5	河川からの流入負荷が大阪湾の窒素濃度に及ぼす影響の解析	重点研究分野「大阪湾の環境変化が生態系に与える影響の究明」	環境省 環境研究総合推進費
6	大阪湾における栄養塩と基礎生産に関する研究	重点研究分野「大阪湾の環境変化が生態系に与える影響の究明」	環境省 環境研究総合推進費

18 外部研究資金応募実績（実績報告書 24ページ）

No.	機関名	外部資金名	研究体制 (代表機関/ 共同機 関)	テーマ	採択	
環境 情報 部	1	大阪湾広域臨海環境整備センター	大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度	共同	大阪湾流入の陸域由来による大阪湾海域の難分解性有機物及び窒素、リンに関する研究	○
	2	環境省	環境研究総合推進費	代表	総反応性窒素酸化物の生成移流の解析によるオキシダントの動態に関する研究	
	3	大阪湾広域臨海環境整備センター	廃棄物・海域水環境保全に係る調査研究費助成制度	代表	最終処分場の浸出水調整池における自然発生的anammox反応を利用した窒素低減技術に関する研究	○
	4	日本学術振興会	科学研究費助成事業	代表	最終処分場における高pH浸出水の低下機構の速度論的評価に関する研究	
	5	日本学術振興会	科学研究費助成事業	共同	神経毒性農薬の汚染実態と水生昆虫による生物検定手法開発	○
	6	日本学術振興会	科学研究費助成事業	代表	水相パッシブサンプラーによる化学物質の動態解析	○
	7	河川財団	河川整備基金助成事業	代表	パッシブサンプラーを用いた河川農薬モニタリング手法の構築	
	8	河川財団	河川整備基金助成事業	共同	農業地帯の流下河川における殺虫剤の汚染実態と二枚貝による浄化機能の評価	
	9	琵琶湖・淀川水質保全機構	水質保全研究助成	代表	難分解性有機物に関する研究	○
環境 研究 部	10	日本学術振興会	科学研究費助成事業	代表	人為的な生息地攪乱がもたらすシカの被害強度変動パターンの解明	○
	11	日本学術振興会	科学研究費助成事業	代表	匍匐性針葉樹を利用した圧縮あて材形成機構の解明	
	12	日本学術振興会	科学研究費助成事業	代表	施肥窒素成分が切り花の強度に影響するメカニズムの解明	
	13	資生堂	資生堂女性研究者サイエンスグラント	代表	施肥窒素形態が切り花の強度に影響するメカニズムの解明	
	14	(独)科学技術振興機構	国際科学技術共同研究推進事業	共同	大腸菌感染症の制御法開発に向けた感染状況調査及びプロバイオティクスを利用した制御技術の開発研究	
	15	日本学術振興会	科学研究費助成事業	代表	腸管出血性大腸菌のウシ腸管付着制御モデルとなる腸上皮株化細胞の樹立	
	16	日本学術振興会	科学研究費助成事業	代表	高度の暑熱に対するプロイラーの生理状態の解明	
	17	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同	侵入的拡大竹林の効率的駆除法と植生誘導技術の開発	
	18	(独)農業・食品産業技術総合研究機構	攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業	代表	自動撮影カメラによる市民参加型の野生動物モニタリング手法の確立	
	19	(独)農業・食品産業技術総合研究機構	攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業	代表	大規模化する牛群の繁殖管理集約化のためのコンビネーション繁殖プログラムの開発と実証	
20	農林水産省	産地活性化総合対策事業	共同	花き日持ち性向上対策実証事業	○	
	21	日本学術振興会	科学研究費助成事業	代表	水田土壌中の有機物変化も地力窒素およびメタンも同時に評価できるモデルの構築	
	22	日本学術振興会	科学研究費助成事業	共同	有機肥料を用いる水耕栽培野菜の安全性評価	
	23	(一財)桐山奨学会	大学等研究助成金	共同	テンペ菌で発酵させたオカラを活用した新規食感パンの開発について	○

食の安全研究部	24	(独)農研機構・食品総合研究所	広報・連携促進費	共同	安全かつ高品質な地域特産野菜加工製品の製造のための技術開発および普及	○
	25	堺市役所	平成25年度堺市ものづくり新事業チャレンジ支援補助金	共同	廃棄糠を用いた”生きている糠床”の開発	○
	26	(公財)発酵研究所	一般研究助成	共同	有機養液栽培野菜の根圏微生物群の解析と安全性評価	
	27	(公財)園芸振興松島財団	平成25年度第40回研究助成	単独	小果イチジク品種の果皮特性の解明（一口イチジクを身近に！）	
	28	日本学術振興会	科学研究費助成事業	共同	遺伝子発現パターンを用いた肥大根形態予測法の確立	
	29	池田泉州銀行	コンソーシアム研究開発助成金	共同	大阪名品粟おこしの災害時保存食としての産学連携商品開発	○
	30	農林水産省	攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業	共同	地下水水位制御による高収益性2年3作輪作体系の実証	
	31	農林水産省	攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業	共同	地域間連携による低投入型・高収益施設野菜生産技術体系の実証	○
	32	農林水産省	委託プロジェクト研究 技術でつなぐバリューチェーン構築のための研究開発	共同	薬剤抵抗性害虫の発生を事前に判定するための技術の開発	○
	33	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同	飛翔しない在来天敵の放飼と定着促進による露地野菜のIPM	
	34	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	代表	伝統根菜類の「イイとこ取り」選抜・挿し木利用による形状均一化速攻普及技術の確立	
	35	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同	イチジク新樹形(オーバーラップ整枝)による凍害回避と高品質果実早期収穫栽培	
	36	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同	優れた防虫機能と遮熱機能を兼ね備えた新規ネット資材の開発とその利用	
	37	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同	一季成りイチゴの周年収穫を実現する環境制御技術	
38	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同	ゼロエミッションによる「超減肥型」有機質肥料活用型養液栽培の開発		
39	農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	共同	鮮度と旨み保持に特化した植物工場ならではの「新ジャンル」野菜の生産技術開発		
水産研究部	40	日本学術振興会	科学研究費助成事業	共同	海産バイオマスプラント船団による栄養塩平滑化の社会実装実験	
	41	大阪湾広域臨海環境整備センター	大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成	代表	陸域起源有機物の影響を考慮した大阪湾底質の類型化と底生動物分布との関係に関する研究	○
	42	水産庁	平成25年度海面養殖業振興対策事業	共同	大阪湾における窒素・リンの動態解明と播磨灘海域への栄養塩流入量の把握	○
	43	キャンオン	研究助成プログラム「理想の追求」	共同	ウイルスは海洋生物多様性を創生・維持する素粒子か？	○
	44	日本学術振興会	科学研究費助成事業	共同	時系列トランスクリプトミクスによるキーストーン遺伝子の同定と制御	
	45	大阪湾広域臨海環境整備センター	大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度	共同	東部瀬戸内海における植物プランクトン群集の基礎生産力とその1960年代からの変化	○
	46	水産庁	資源評価調査事業	共同	平成26年度我が国周辺水域資源評価等推進委託事業	○
	47	水産庁	漁場環境・生物多様性保全総合対策事業	共同	瀬戸内海等での有害赤潮発生機構解明と予察・被害防止等技術開発	○
	48	農林水産省消費安全局	レギュラトリーサイエンス新技術開発事業	共同	貝毒リスク管理措置の見直しに向けた研究	○

49	水産庁	種苗放流による資源造成支援事業	共同	広域種資源造成支援事業	○
----	-----	-----------------	----	-------------	---

19 行政評価（実績報告書 25ページ）

※ 4段階評価の平均値； 4：よい、3：標準的、2：やや不十分、1：不十分

部会名	分野	事業実施の優先順位	行政課題名	到達水準	総合評価
みどり・都市環境部会	環境	1	省エネ・省CO ₂ 相談窓口の継続	4.0	4.0
		2	環境情報プラザの活用と「かけはし」による協働取組みの推進	4.0	4.0
	みどり	1	竹を原料としたバイオ固形燃料の研究	4.0	4.0
		2	間伐施業が森林の防災機能等に与える効果検証	3.0	3.0
	水産	1	地域の生物多様性度の評価手法等の開発	4.0	4.0
環境部会	1	PM2.5などの反応性大気汚染に関する研究	4.0	4.0	
	2	異常水質事故の原因究明手法の確立	3.0	3.0	
	3	一般環境中の有害化学物質濃度とPRTTR排出量データ等との比較検討及び関連性の解析	4.0	4.0	
	4	黄砂など広域・越境大気汚染に関する研究	3.0	3.0	
	5	寝屋川流域における浄化浚渫の水質改善に関する実証実験	3.0	3.0	
	6	大阪湾における窪地埋戻しに関する研究	3.0	3.0	
	7	河川における水生生物生息状況等調査データの集積	3.0	3.0	
農政・食品部会	野菜	1	水なすのつや無し果対策	3.0	3.0
		2	天敵を活用した難防除害虫防除技術の確立	3.5	3.5
		3	施設野菜栽培の高温対策技術の確立	3.0	3.0
		4	軟弱野菜の塩類障害対策技術の確立・大阪エコ農産物の施設軟弱野菜栽培の周年出荷技術の確立	3.7	3.7
		5	ハウス抑制きゅうりの急性萎ちょう症対策について	3.0	3.0
		6	みつば新害虫キノコバエの防除方法の確立	4.0	4.0
		7	なにわの伝統野菜の優良系統選抜及び出荷長期化のための技術確立について	3.0	3.0
		8	水なすにおける褐紋病の防除方法の確立	3.5	4.0
	果樹	1	大阪府特産品種（ぶどう）の育成・選抜及び有望品種の栽培方法の確立、品種転換技術の開発	3.7	3.7
		2	大粒系の黒色、赤色ぶどう品種の着色対策	3.3	3.0
		4	大阪で有望な中晩柑類の絞り込み	3.5	3.0
		5	ぶどう波状型ハウスの換気システムの開発	4.0	4.0
	花き	1	電照栽培におけるLEDの適用性	4.0	3.5
		2	泉南特産切り花リアトリスの立枯性病害対策	4.0	4.0
		3	球根切り花の作期拡大	3.5	3.5
	農産加	1	ドレッシングの品質向上	3.5	3.5
		2	直売所流通に向く「カットふき」の鮮度保持技術	4.0	4.0

	工	3	水なすの漬物時における殺菌による色落ち防止策の検討	4.0	4.0
	水稲	1	水稲の高温障害対策について	3.5	3.0
畜産・野生動物部会	畜産	1	発酵TMRの夜間給与による乳牛の生産性向上	4.0	4.0
		4	乳牛、鶏におけるエコフィード利用による低コストな飼養管理システムの検討	4.0	4.0
	野生動物	1	アライグマのモニタリング調査	4.0	4.0
水産部会		1	危機管理課題（有毒プランクトン、KHV病等の特定疾病）に関する調査・研究	3.0	3.0
		2	浅海定線調査	4.0	4.0
		3	資源回復を効果的に支援するための調査・研究	3.0	4.0
		4	資源管理型漁業の効率的な推進に関する調査・研究	4.0	4.0
		5	栽培漁業技術開発に関する調査・研究	4.0	4.0
		6	安威川・余野川河川調査	3.0	4.0
		7	大阪湾における海底窪地の埋戻しに関する調査・研究	4.0	4.0
		8	ため池における外来生物の駆除技術の確立と駆除支援	4.0	4.0
		9	漁場整備事業（増殖場等）の効果調査	3.0	3.0
		10	漁場整備事業（大阪湾漁場環境整備事業）の効果調査	4.0	3.0
総合部会		1	大阪湾における栄養塩の適正管理と底生魚介類への影響に関する研究	4.0	4.0
平均				3.6	3.6

20 平成26年度に実施する行政依頼事項（実績報告書 27ページ）

みどり・都市環境部会

順位	課題名
環科C分野-1	省エネ・省CO2相談窓口の継続
環科C分野-2	環境情報プラザの活用と「かけはし」による協働取組の推進
環科C分野-3	ヒートアイランド対策技術に関する調査研究及び対策技術の普及等
食みC分野-1	ナラ枯れ被害跡地の実態調査
食みC分野-2	放置竹林の樹種転換のための基礎調査
食みC分野-3	間伐施業が森林の防災機能等に与える効果検証
食みC分野-4	衛星画像による緑被率の調査
水生C分野-1	生物多様性研修用プログラムの開発

環境部会

順位	課題名
環境-1	PM2.5など反応系大気汚染に関する研究
環境-2	異常水質事故の原因究明手法の確立
環境-3	一般環境中の有害化学物質濃度とPRTR排出量データ等との比較検討及び関連性の解析
環境-4	廃棄物処分場における浸出水対策の検討
環境-5	黄砂など広域・越境大気汚染に関する研究
環境-6	寝屋川流域における浄化浚渫の水質改善に関する実証実験
環境-7	河川における水生生物生息状況等調査データの集積

農政・食品部会

順位	課題名
野菜-1	水なすのつや無し果対策
野菜-2	天敵を活用した難防除害虫防除技術の確立
野菜-3	施設野菜栽培の高温対策技術の確立
野菜-4	軟弱野菜の生育障害対策技術の確立
野菜-5	ハウス抑制きゅうりの急性萎ちょう症対策
野菜-6	なにわの伝統野菜の優良系統選抜及び出荷長期化のための技術確立
野菜-7	みつば新害虫キノコバエの防除方法の確立
野菜-8	水なすにおける褐紋病の防除方法の確立
野菜-9	地域特産野菜（葉ごぼう、しゅんぎく）の農業登録適用拡大
果樹-1	大阪府特産ぶどう有望品種系統の選定と栽培方法の確立
果樹-2	大粒系の黒色、赤色ぶどう品種の着色対策
果樹-3	大阪で有望な中晩柑類の絞り込み
果樹-4	ぶどう波状型ハウスの換気システムの開発

果樹-5	いちじく果実のアザミウマ類被害対策の検討
花き-1	電照栽培におけるLEDの適用性
花き-2	球根切り花の作期拡大
農産加工-1	水なすの漬物加工時における殺菌による色落ち防止策の検討
農産加工-2	紅たでを利用した加工品開発
農産加工-3	八尾若ごぼうの加工品開発
水稲-1	水稲の高温障害対策

水産研究部会

順位	課題名
水産-1-①	危機管理課題(有毒プランクトン)に関する調査・研究
水産-1-②	危機管理課題(有毒プランクトン、KHV病等の特定疾病)に関する調査・研究
水産-2	浅海定線調査
水産-3	資源回復を効果的に支援するための調査・研究
水産-4	資源管理型漁業の効率的な推進に関する調査・研究
水産-5	栽培漁業技術開発に関する調査・研究
水産-6	安威川・余野川河川調査
水産-7	ため池における外来生物の駆除技術の確立と駆除支援
水産-8	漁場整備事業(増殖場等)の効果調査
水産-9	漁場整備事業(大阪湾漁場環境整備事業)の効果調査

畜産・野生動物部会

順位	課題名
畜産-1	乳牛のストレスに関する研究
畜産-2	発酵TMRの夜間給与による乳牛の生産性向上
畜産-3	乳牛、鶏におけるエコフィード利用による低コストな飼養管理技術の検討
畜産-4	畜舎・堆肥舎で利用可能な低コスト脱臭システムの開発
畜産-5	乳牛の受胎成績改善と省力化のための繁殖プログラム
畜産-6	効果的な臭気低減法、拡散防止技術等の情報提供
畜産-7	家畜ふん尿の利用促進に関する協力依頼
野生動物-1	シカ・イノシシのモニタリング調査
野生動物-2	アライグマのモニタリング調査

総合部会

順位	課題名
総合-1	大阪湾における栄養塩の適正管理と底生魚介類への影響に関する研究
総合-2	大阪湾における海底窪地の埋戻しに関する調査・研究
総合-3	ソーラーシェアリングに適した農作物の選定及び影響調査

21 研究アドバイザー委員会による研究課題評価（実績報告書 25ページ）

※ 11人の委員による4段階評価の平均点 4:大変よい、3:よい、2:やや不十分、1:不十分

(1) 事前評価

No.	課 題 名	総合評価	研究推進体制	研究目的	研究目標	研究計画	期待される研究成果	期待される事業効果
1	総反応性窒素酸化物の挙動による光化学オキシダントの広域移流、生成機構に関する研究	2.7	2.5	2.8	2.8	2.5	2.9	2.0
2	カメラトラップ法による野生生物の広域モニタリング手法の確立	3.0	2.7	2.9	2.6	2.6	2.8	2.5
3	都市型畜産のための低コスト複合型臭気低減プロセスの構築	2.8	2.8	3.1	2.8	2.5	2.5	2.9
4	大阪湾の海域類型化にもとづく主要メガベントスとマクロベントスの捕食—被食関係の解明	2.8	2.9	2.5	2.8	2.7	2.6	2.7

(2) 中間評価

No.	課 題 名	総合評価	研究推進体制	研究目的	研究目標	研究方法・計画	研究成果	期待される研究成果	期待される事業効果
1	パッシブサンプラーの河川農薬モニタリングへの適用の検討	2.7	3.1	2.8	2.6	2.6	2.6	2.8	2.9
2	施設園芸における高度環境制御技術の開発	3.1	3.2	3.2	3.0	2.8	3.1	2.7	2.7
3	ガスプラズマを用いた農産物の殺菌・消毒法の開発	3.1	3.1	3.1	2.8	2.6	3.2	3.0	2.9

(3) 事後評価

No.	課 題 名	総合評価	研究推進体制	研究成果	今後の普及方針
1	既存の自然換気型温室に利用可能な簡易設置型パットアンドファン冷房の開発	3.3	3.3	3.6	3.2
2	豚ふん堆肥の炭化による低コストなリン・カリウム回収技術と環境保全型農業資材の開発	3.5	3.5	3.4	3.5
3	野生生物保護管理の意思決定支援システム等の構築	3.1	3.2	3.2	2.7
4	都市域直売切り花の需要に対する特定日開花・常温品質保持技術の開発	3.7	3.5	3.8	3.1
5	沿岸育成場を利用したキジハタ、オニコゼの資源増殖技術の開発	3.5	3.5	3.0	3.4

22 法人が参画するコンソーシアム一覧（実績報告書 26ページ）

分野	名称 (法人が代表者となるもの)	構成機関	研究課題	事業
農林	中空構造栽培槽技術開発コンソーシアム	・奈良県	密度は高く、収穫は長く—中空構造栽培槽実現する「勝てる」イチゴ	平成25年度農林水産省農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
		・鳥取大学		
		・（独）近畿中国四国農研センター		
		・樹脂メーカー		
		・農業機材メーカー		

分野	名称 (他機関が代表者のもの)	構成機関	研究課題	事業
農林	「施設園芸における高度環境制御技術の開発」共同研究機関	代表機関の千葉大学ほか2大学、5機関、2企業	施設園芸における高度環境制御技術の開発	農作業の軽労化に向けた農業自動化・アシストシステムの開発
	炭化プロジェクト共同研究機関	代表機関の日立造船(株)ほか2大学	豚ふん中に含まれる有用資源の循環利用技術開発	平成25年度農林水産省農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
	「害虫の光応答メカニズムの解明と高度利用技術の開発」共同研究機関	代表機関の(独)農研機構ほか7大学、14機関、3企業	施設ナス・キュウリにおけるミナミキイロアザミウマの光の利用による防除技術の開発	平成25年度農林水産省委託プロジェクト
	「クリのくん蒸処理から脱却するクリシギゾウムシ防除技術の開発」共同研究機関	代表機関の(独)農研機構ほか8機関	クリシギゾウムシ発生生態の解明と零細クリ農家・共同出荷グループにおける温湯処理手法・モデルの確立	平成25年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
	「発生予防事業の調査実施基準の新規手法策定事業」共同研究機関	代表機関の(独)農研機構ほか12機関	ナス(アザミウマ類・コナジラミ類・タバコガ類)の発生調査基準案の実証・評価	平成25年度農林水産省消費安全局委託事業
	「ガスプラズマを用いた農産物の殺菌・消毒法の開発」共同研究期間	代表機関の琉球大学ほか1大学、1高専	青果物、種子及び食肉製品へのガスプラズマ殺菌の実用性の検証	平成25年度イノベーション創出基礎的研究推進事業
	国産飼料(3系)コンソーシアム	代表機関の(独)農研機構ほか1大学、19機関、1企業	柑橘粕類を活用した発酵TMRによる乳牛の暑熱対策技術の開発	平成26年度自給飼料多給による高付加価値牛肉・牛乳生産技術の開発委託事業
	農食事業25071コンソーシアム	代表機関の(独)農研機構ほか1大学、2機関、2事業所	高齢・障がい者など多様な主体の農業参入支援技術の開発	平成25年度農食研究推進事業(実用技術開発ステージ)
	フードチェーンプロヒ素コンソーシアム	代表機関の(独)農業環境技術研究所のほか、1大学、5県、6機関、1企業	水稻におけるヒ素のリスクを低減する栽培管理技術の開発	平成25年度水稻におけるヒ素のリスクを低減する栽培管理技術の開発委託事業
	「沿岸海域の栄養塩管理技術の開発委託事業」共同研究機関	代表機関の(独)水産総合研究センターほか5機関、3大学	ノリ漁場及びその周辺海域における栄養塩等の動態解明と有効かつ適切な栄養塩管理手法の開発	平成25年度海面養殖業振興対策事業のうち新たなノリ色落ち対策技術開発事業のうち「沿岸海域の栄養塩管理技術の開発委託事業」

水産	「海洋微生物解析による沿岸漁業被害の予測・抑制技術の開発」共同研究機関	代表機関の(独)水産総合研究センターほか5機関、3大学、3企業	海洋微生物群のモニタリングによる早期の赤潮被害発生予測技術及び海洋微生物群を利用した赤潮被害の発生抑制技術の開発	平成25年度農林水産技術会議委託プロジェクト研究「海洋微生物解析による沿岸漁業被害の予測・抑制技術の開発」
	生態系ネットワーク共同研究機関	代表機関の(独)水産総合研究センターほか12機関、5大学、2企業	沿岸における漁獲量減少種についての生態系ネットワーク分断要因解消による自律的資源回復技術の開発	平成25年度生態系ネットワーク修復による持続的な沿岸漁業生産技術の開発委託事業
	「我が国周辺水域資源評価等推進委託事業」共同実施機関	代表機関の(独)水産総合研究センターほか39機関、3大学、1社団法人	我が国周辺水域の重要水産資源に係る資源評価等の実施	平成25年度我が国周辺水域資源評価等推進委託事業
	瀬戸内海赤潮共同研究機関	代表機関の(独)水産総合研究センターほか17機関、6大学、3企業、1NPO法人	有害赤潮等の監視体制の強化、発生機構の解明や原因プランクトンの生理・生態特性に基づく発生機構の解明と発生予測技術の開発及び被害防止技術の開発	平成25年度漁場環境・生物多様性保全総合対策事業のうち赤潮・貧酸素水塊対策推進事業(瀬戸内海等での有害赤潮発生機構解明と予察・被害防止等技術開発)

2 3 法人の知的財産 (実績報告書 28ページ)

No.	特許(発明)の名称	発明者	共願者	出願番号 出願日	公開番号 年月日	登録番号 年月日
1	育苗資材および育苗方法	内山知二	東レ(株)	特願2001-191477 13年6月25日	特開2003-000056 15年1月7日	第3777308号 18年3月3日
2	牛の飼育方法	藤谷泰裕 西村和彦	チョーヤ梅酒 (株)	特願2002-035229 14年2月13日	特開2003-235467 15年8月26日	第3987734号 19年7月20日
3	フザリウム汚染土壌殺菌用 組成物及び該土壌の殺菌方 法	岡田清嗣	大阪有機化学 工業(株)	特願2004-270430 16年9月16日	特開2006-083108 18年3月30日	第4676180号 23年2月4日
4	食品残渣の保存方法及びそ の保存方法により保存され た食品残渣	西村和彦	ヤンマー(株)	特願2005-010111 17年1月18日	特開2006-197809 18年8月3日	第4300191号 21年4月24日
5	微生物菌体の乾燥方法	西村和彦	(株)林原生物 化学研究所	特願2005-011388 17年1月19日	特開2006-197829 18年8月3日	第4630071号 22年11月19日
6	駐車場用窒素酸化物浄化装 置	辻野喜夫 吉良靖男	越井木材工業 (株)	特願2005-239017 17年8月19日	特開2007-50389 19年3月1日	第4937547号 24年3月2日
7	多孔質資材を使用した食品 廃棄物からの機能性成分の 吸着濃縮	藤谷泰裕	(株)堀木工所	特願2005-261090 17年9月21日	特開2007-068491 19年3月22日	第4512541号 22年5月14日
8	飛動生物除去装置及び植物 保護装置	草刈眞一	カゴメ(株) 近畿大学	特願2006-014135 18年1月23日	特開2007-195404 19年8月9日	第4771310号 23年7月1日
9	水質モニタリング装置	森 達摩 矢吹芳教	(独)農業・生 物系特定産業 技術研究機構	特願2006-088648 18年3月28日	特開2007-263723 19年10月11日	第4817100号 23年9月9日
10	水質評価方法および水質評 価システム	谷本秀夫 古川 真	エス [®] ックミック (株) 大阪大学	特願2006-227429 18年8月24日	特開2008-51621 20年3月6日	第4730786号 23年4月28日
11	定量灌水による育苗・栽培 方法	森川信也	大阪府立大学 エス [®] ックミック (株)	特願2007-012641 19年1月23日	特開2008-178307 20年8月7日	第5010931号 24年6月8日
12 13	誘電分極を用いた分生子吸 着による防カビ方法、飛動 生物除去装置、及び植物保 護装置(国際出願)	草刈眞一	(米国での権 利) 近畿大学 カゴメ(株)	PCT/JP2007/052562 19年2月14日 米国: 12/279, 186 20年8月13日 13/337, 600 23年12月27日 (分割)	W02007/094339A1 19年8月23日	米国 第8, 105, 418号 24年1月31日 第8, 262, 781号 24年1月31日
14	スギ材を用いた二酸化窒素 の浄化方法	辻野喜夫 吉良靖男	(有)ホームア イ	特願2007-147511 19年6月1日	特開2009-006310 21年1月15日	第4759550号 23年6月10日
15	飛動可能生物収集兼オゾン 発生装置及び植物栽培装置	草刈眞一	近畿大学 カゴメ(株)	特願2007-051756 19年3月1日	特開2008-214119 20年9月18日	第5216225号 25年3月8日
16	養液栽培(湛液式および固 形培地方式養液栽培)にお けるオゾン水を用いた培養 液殺菌技術	草刈眞一 岡田清嗣 磯部武志	(株)神戸製鋼 所 (独)農研機構 農工研 東京大学	特願2008-5192 20年1月15日	特開2009-165374 21年7月30日	第5453600号 25年1月17日
17	発泡散布装置	森川信也	大阪府立大学 有光工業(株) (株)アワフル	特願2008-191342 20年7月24日	特願2010-22340 22年2月4日	第5358153号 25年9月6日
18	植物栽培装置	内山知二	(株)ヴェイル	特願2008-311990 20年12月8日	特開2010-130981 22年6月17日	第5430919号 25年12月13日
19	養液栽培設備および養液栽 培方法	草刈眞一 岡田清嗣 磯部武志	(株)神戸製鋼 所	特願2009-146459 21年6月19日	特開2010-000070 22年1月6日	第5308247号 25年7月5日

※ 出願中のもの						
1	誘電分極を用いた分子吸着による防カビ方法、飛動生物除去装置、及び植物保護装置	草刈眞一	近畿大学 カゴメ(株)	特願2008-500512 19年2月14日	W02007/094339A1 19年8月23日	出願中
2	発泡装置	森川信也	有光工業(株) 大阪府立大学 (株)アワフル	特願2009-182639 21年8月5日	特開2011-31221 22年2月17日	出願中
3	養液栽培方法	嘉悦佳子 森川信也 磯部武志	エスペック ミック(株)	特願2009-216578 21年9月18日	特開2011-62152 22年3月31日	出願中
4	メタン発酵方法およびメタン発酵装置	藤谷泰裕 瀬山智博 平康博章 崎元道男	東洋紡エンジニアリング (株)	特願2010-105515 22年4月30日	特開2011-230100 23年11月17日	出願中
5	水耕栽培用パネル	草刈眞一 森川信也 嘉悦佳子	トーホー工業 (株) 金山化成(株)	特願2011-028970 23年2月14日	特開2012-165680 24年9月6日	出願中
6	肥効調節機能を持つ土壌改良材	佐野修司 内山知二	鳥取大学 株式会社モリ プラント	特願2011-119035 23年5月27日	特開2012-246386 24年12月13日	出願中
7	遠赤外線による低温乾燥による高機能スギ木口材の製造方法	辻野喜夫 上堀美知子	社団法人大阪府木材連合会 有限会社ホームアイ	特願2011-129628 23年6月9日	特開2012-254226 24年12月27日	出願中
8	施肥器	森川信也	大阪府産技総研 株式会社ハイ ポネックスジャ パン	特願2012-005478 24年1月13日	特開2013-143919 25年7月25日	出願中
9	微生物乾燥粉末の製造方法	西村和彦 笠井浩司 因野要一 平康博章		特願2012-62088 24年3月19日	特開2013-192490 25年9月30日	出願中
10	生育環境調節装置	内山知二 佐野修司	奈良県 鳥取大学 (独)農研機構 大日本プラス ティック(株) (株)ヴェイル	特願2013-096820 25年5月2日		新規出願
11	容器(切り花用バケツ)	豊原恵子 森川信也		特願2013-100239 25年5月10日		新規出願
12	植物のエチレン生合成阻害剤とその利用	豊原恵子	京都府公立大学法人 クリザールジャ パン(株)	特願2013-23264 25年11月9日		新規出願
13	温室の換気装置	磯部武士 森川信也		特願2013-207659 25年10月2日		新規出願
14	銀ゼオライト紛体混合発泡スチロールによる抗菌化発泡スチロールの成型と生物抑制技術	草刈眞一 森川信也	トーホー工業 (株)	特願2013-268707 25年12月26日		新規出願
15	反芻動物用の経口投与剤およびそれを含む反芻動物用飼料	瀬山智博 平康博章 笠井浩司 藤谷泰裕	森下仁丹(株)	特願2014-17200 26年1月31日		新規出願
16	赤色光照射による微小害虫の植物体への定着及び産卵を抑制する方法	柴尾学	静岡県農林技術研究所	特願2014-29080 26年2月19日		新規出願

・ 品種登録

1	大阪農技育成1号(ふき)	岩本 嗣 中曾根渡		第11980号 11年9月13日		第10632号 14年9月30日
2	羽曳野育成1号(なす)	岩本 嗣 辻 博美 中曾根渡 長町知美		第12479号 12年3月29日		第10976号 15年2月20日
3	ぶどう	細見彰洋 磯部武志 古川真 三輪由佳 林部寿美雄		第28922号 26年2月13日		新規出願

・ 商標登録

1	おおさかエコテック ロゴ マーク			商願2012-8139 24年1月24日		第5533649号 24年11月2日
2	エコテック・ゴールド ロ ゴマーク			商願2012-8140 24年1月24日		第5531919号 24年11月9日

・ 著作権

1	ユリの開花日予測ソフト	豊原憲子	奈良県 農研機構 兵庫県	P第10267号-1 25 年6月24日		新規出願
---	-------------	------	--------------------	----------------------------	--	------

2.4 法人職員が受講した研修（実績報告書 34ページ）

・専門研修等（他機関が実施したもの）

分類	研修実施機関	研修制度名	受講人数	期間
環境	環境省環境調査研修所	特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS、年2回）	1	10日間
	環境省環境調査研修所	ダイオキシン類環境モニタリング	1	15日間
農業等	農林水産技術会議	農林交流センターワークショップ「戦略的な研究企画の策定」	1	2日間
	農林水産技術会議	農林水産関係研究リーダー研修	1	3日間
	農林水産技術会議	農林水産関係研究中堅研究員研修	1	3日間
	農林水産技術会議	農林水産関係若手研究者研修	1	3日間
	筑波学都資金財団筑波研修センター	樹木医研修	1	12日間
	(独)農業・食品産業技術総合研究機構（畜産草地研究所）	革新的農業技術習得支援事業	1	3日間
水産	(社)日本水産資源保護協会	魚類防疫士養成コース	1	12日間
その他	(一社)大阪発明協会	知的財産権基礎講座	1	1日間
	(一社)地方公務員安全衛生推進協会	安全衛生研修会 職場巡視・安全衛生点検セミナー	1	1日間

・一般研修（法人が実施したもの）

管理職研修（科長塾）；産技研と共催	31	1日間
新規採用職員研修	20	4日間
主幹研究員研修	8	2日間
個人情報保護研修及び情報セキュリティ研修	88	1日間
人権研修	40	2日間
労働安全衛生管理研修	74	1日間
環境マネジメント研修（一般）	28	1日間
環境マネジメント研修（専門）	57	1日間
生活習慣病予防研修	20	1日間
産業医研修（熱中症対策）	29	1日間
産技研・環農水研合同管理職研修（第2回科・課長塾）	21	1日間
労働安全管理講演会	30	2日間
メンタルヘルスセミナー	50	1日間
IPK（財務会計システム）研修	16	1日間
会計研修	27	1日間
コンプライアンス研修 公的機関における不正経理と内部統制	33	1日間

25 目的積立金使途計画及び実績 (実績報告書 36ページ)

項目		金額 (千円)						備考
		H25		H26		H27		
目的積立金確定額		87,000						
		計画	実績	計画	実績	計画	実績	
調査研究資金	・キジハタブランド化に関する調査研究及び深層型養殖水槽改修費 ・6次産業化支援事業等	0	0	31,000		16,000		
研究体制強化 (施設・備品)	施設・備品整備計画に基づく執行	11,700	7,700	78,000		22,000		
研究体制強化 (人件費等)	・任期付職員採用 ・次期中期計画策定 関連調査	0	0	33,000		33,000		
調査研究力向上 (研修等・ 情報収集)	・職員表彰事業 ・大学院修学・通信 教育受講支援	600	500	1,800		1,800		
	文献検索システム	300	300	900		900		
合計		12,600	8,500	144,700		73,700		

26 法人が有する資源の有効活用事例（実績報告書 42 ページ）

1	小学校の環境教育のため水生生物センタービオトープ池の利用
2	環境情報プラザに併設する研修室・小会議室・環境実験室(いこらぼ)の環境活動団体等への貸出
3	事業者への食品機能実験室の貸出
4	府農の普及課等への土壌分析室の貸出
5	奈良先端科学技術大学院大学企業体験プログラム受入
6	摂南大学理工学部「生命科学学外演習」受入
7	守口市立八雲中学校職業体験学習受入
8	羽曳野市立高鷲中学校職業体験学習受入
9	羽曳野市河原城中学地域学習受入
10	近畿大学技術研修生受入
11	摂南大学技術研修生受入
12	大阪府立豊中高校の研修受入(大阪府緊急雇用創出基金事業(震災等緊急雇用対応事業)関係)
13	大阪府立住吉高校スーパーサイエンスハイスクールに関わる研修受入
14	奈良学園スーパーサイエンスハイスクールに関わる研修受入
15	開成高校スーパーサイエンスハイスクールに関わる研修受入
16	大阪府立大学総合リハビリテーション学類「作業療法科学実習」受入
17	大阪府立大学生命環境科学部獣医学科・生命環境学域獣医学類学生実習受入
18	大阪府立藤井寺支援学校体験学習(園芸)受入
19	泉北高等支援学校体験学習(園芸)受入
20	堺市立もず支援学校体験学習(園芸)受入
21	花の文化園ボランティア花き栽培技術研修受入
22	福祉農園を活用した農産園芸福祉ボランティアおよび地域社会福祉施設の園芸活動受入

27 講師派遣実績 (実績報告書 42ページ)

	タイトル	講演会等名称	主催団体	講演月日	
環境情報部	1	国際環境学特論	国際環境学特論	大阪府立大学	5月30日、7月4日
	2	PM _{2.5} (微小粒子状物質)の現状と課題	摂津市学校保健会総会	摂津市学校保健会	6月6日
	3	老人保健施設等の省エネ・節電対策について	(公社)大阪介護老人保健施設協会特別講演会	(公社)大阪介護老人保健施設協会	6月12日
	4	おおさかエコテック	JEO定期セミナー	(一社)全国環境対策機構	6月20日
	5	公共用水域水質監視業務の精度管理等	平成25年度環境モニタリング技術研修	環境省環境調査研修所	7月5日
	6	環境行政基礎技術研修「温暖化対策・エネルギー管理コース」	環境行政基礎技術研修	大阪府	7月31日
	7	おおさかエコテックの概要について	NPO法人テクノメイトコープ技術講演会	NPO法人テクノメイトコープ	11月27日
	8	おおさかの環境問題と取り組み	大阪府高齢者大学校自然文化研究科	NPO法人大阪府高齢者大学校	1月21日
	9	成分分析結果から得られた大阪府域におけるPM _{2.5} 濃度の特徴について	大気エアロゾルセミナー	大気環境学会近畿支部エアロゾル部会	3月14日
	10	PM _{2.5} の基礎知識と大阪府におけるPM _{2.5} 汚染の現状について	大阪市環境経営推進協議会セミナー	大阪市環境経営推進協議会	3月20日
	11	工場・事務所の省エネ対策について	企業研修会	扶桑化学工業㈱	12月18日
環境研究部	12	園芸療法	基礎作業科学実習	大阪府立大学	4月22日、5月13日、5月31日
	13	全農肥料委託試験花き成果発表会	全農肥料委託試験成果発表会	全農	5月16日
	14	農と福祉の連携を核とした地域づくりに向けて	JICA草の根技術協力事業	NPO法人グローバル園芸療法センター	5月19日
	15	キクの電照栽培におけるLEDの効果	玉串きくほ場土壌分後説明会	玉串花き生産組合	6月7日
	16	乳牛の泌乳生理・牛乳成分・ルーメン機能について	牧場実習事前講義	大阪府立大学	7月25日
	17	農と福祉の連携を核とした地域づくりに向けて	障がい者就労支援セミナー	グリーンケア NAGANO	8月4日
	18	培養土等の栽培に関する基本的な知識、播種等の栽培技術に関する基本的な知識及び技術とその指導方法	平成25年度 中学校「技術」指導力向上研修	大阪府教育センター	8月13日
	19	種まきから始める花苗の育て方を講義及び実習(府民向け)	市民対象緑化技術研修会	東大阪市	9月18日・10月25日
	20	種まきから始める花苗の育て方	市立小中学校校務員研修	東大阪市教育委員会	10月16日
	21	農産物直売所における切り花の戦略的販売と品質管理	JA直売所店長会議	JA大阪中央会	10月21日
	22	鶏と卵の基礎知識	大阪府鶏卵品評会消費者交流会	大阪府総合畜産農業協同組合連合会	11月12日
	23	福祉から就労へ～障がいのある人材が農業で活躍するために～	九州ブロック農業分野における障がい者就労セミナー	九州農政局	11月13日
	24	直売所の切り花需要に対応する 特定日開花・品質管理の技術と支援ソフト	近畿地域マッチングフォーラム	農林水産技術会議	11月19日

	25	農産物直売所における 切り花の戦略的販売と品質管理	関東東海北陸地域推進会議 花き部会	花き研究所	11月26日
	26	都市域で発生するバイオマスの利用	生態系におけるバイオマス -自然生態系から都市圏生態系 まで	日本農業・気象学会 近畿支部	11月30日
	27	直売所の切り花需要に対応する 特定 日開花・品質管理の技術と支援ソフト	JAおうみ富士 直売所研修会	JA滋賀中央会	12月2日
	28	街と人を元気にする大阪のみどりづく り	環境問題の現状と課題～地球 や地域にできること～	はびきの市民大学	12月11日・12月20 日
	29	植物の管理と癒しの園芸 植物を育て る意味を考える	府営公園指定管理者研修会	都市整備部公園課	3月25日
	30	ナラ枯れ被害の現状とその対策につ いて	ナラ枯れ研修会	大阪府治山治水協会	10月29日
食の安全 研究部	31	イチジク栽培における肥培管理と土づくり	イチジク研修会	藤井寺市いちじく研究 会	5月8日
	32	野菜病害防除講習会	野菜の病害について	河内っこ軟弱野菜研 究会	5月14日
	33	えだまめの鮮度保持について	直売所畑のつづき 農業塾	JA中河内本店	5月28日
	34	普及指導員新任者研修	水稻の栽培方法、及び奨励 品種決定調査について	大阪府農政室	5月29日
	35	最近の果樹を巡る病気の防除について	南河内地区果樹振興会連絡 協議会研修会	南河内地区果樹振興 会連絡協議会	7月4日
	36	大阪府農産物検査員育成研修会	水稻の育種と栽培について	大阪府種子協会	7月19日
	37	アザミウマ類の薬剤抵抗性及び生物農薬 を活用したなすのアザミウマ類の防除に ついて	大阪府植物防疫協力員等研修 会	大阪府環境農林水産 部・大阪府植物防疫 協会	7月22日
	38	静電気を利用した病害虫侵入防止技術	アグリアドバイザー研修	JA中央会	7月30日
	39	着色向上のための環状剥皮技術	ぶどう品種検討会	研究所、農と緑の総 合事務所(中部、南河 内)	8月29日
	40	イチジク株枯病抵抗性台木の効果	イチジク研修会	大阪府果樹振興会	10月9日
	41	イチジク株枯病の発生生態と防除	イチジク研修会	大阪府果樹振興会	10月9日
	42	クロルピクリン剤の防除効果について	普及指導員を対象としたクロ ルピクリン剤研修会	府環境農林水産部・ 大阪府植物防疫協会	10月17日
	43	病害虫防除における最近の話題と防除対 策	田尻町農業委員会視察研修	田尻町農業委員会	10月30日
	44	病害虫防除	スーパーアグリアドバイザー研修	JA中央会	11月14日
	45	施設ナス・キュウリのIPMについて	野菜の害虫防除研修会	南河内4Hクラブ	11月25日
	46	現場で活かせる果樹病害の生態と防除につ いて	全国農業協同組合近畿地区会 議	全国農業協同組合	2月5日
	47	大阪の水辺環境	研修会	ファインエイジの会	4月9日
	48	幹線水路の水生生物	水辺に親しむ会定例会	水辺に親しむ会	4月14日
	49	大阪湾の環境と生物	岬町民生委員会研修会	岬町民生委員会	4月26日
	50	堺浜の生物観察会	堺エコロジー大学	堺エコロジー大学	5月8日
51	大川にすむ魚	大川ふれあいの水辺地曳網調査	大阪府河川室等	5月18日	
52	プールに集まる水生昆虫を調べよう	プールのヤゴ救出作戦	大阪府公園協会服部 緑地管理事務所	5月25日	

53	海岸生物の観察会	やさしい自然かんさつ会	大阪市立自然史博物館	5月26日
54	淀川の外来生物	研修会	東都島エコクラブ	5月26日
55	里海公園の生物観察会	大阪湾生物一斉調査	里海クラブ	6月8日
56	千里川の水生生物	千里川水生生物調査	豊中市立豊島北小学校	6月11日
57	水路の生き物を探そう	彩都凹凸特別授業	彩都の丘学園	6月12日
58	安威川の水生生物	安威川「水辺の楽校」	茨木市立山手台小学校・安威川ダム建設事務所	6月14日
59	淀川の外来水生植物、寝屋川市の水路に発生したミズアオイ	研修会	NPOシニア自然大学 研究部植物科	6月28日
60	大阪湾の環境と生物	大阪府南部民生・青少年委員会研修会	岬町民生・青少年指導委員会	7月2日
61	水辺の生き物を探そう	彩都凹凸特別授業	彩都の丘学園	7月3日
62	大阪湾と岬町の環境と生物	岬町老人会研修会	岬町老人会	7月17日
63	生物多様性の保全と水生生物センターの役割	現地視察	寝屋川市環境保全審議会	7月18日
64	弧ヶ池の生きものを探そう	水辺の生きもの観察会	大阪府公園協会服部緑地管理事務所	7月21日
65	大阪湾と堺の環境と生物	堺エコロジー大学	堺エコロジー大学	7月23日
66	川や池の魚を学ぼう	水辺の生きもの図鑑を作ろう	近鉄文化サロン	7月27日
67	水辺の生きものを学ぼう	水辺の生きもの図鑑を作ろう	近鉄文化サロン	8月3日
68	水辺の生きものたち	水辺体験学習	寝屋川市立木屋小学校エコクラブ	8月7日
69	水辺の生きものたち	寝屋川市立小学校理科教員研修	寝屋川市立小学校理科教員	8月8日
70	幹線水路の水生生物	水辺に親しむ会定例会	水辺に親しむ会	8月14日
71	淀川の外来水生植物、アゾラの駆除対策	生物多様性に関わる業務担当者等を対象とした研修会	大阪府民循環型社会推進機構	8月20日
72	大阪の水辺環境、生物多様性	CTS野外実習		8月20日
73	ワカメの生態、養殖について	わかめについての勉強会	明るい水産業を創る会	9月7日
74	タチウオ釣りに関するトークショー	船釣りフェスティバル	名光通信社	9月8日
75	淀川の外来種	水辺の生きもの教室	いきいき地球館こどもエコクラブ	9月14日
76	城北ワンドのイタセンパラ野生復帰	淀川エクスカージョン	応用生態工学会	9月18日
77	カニに関する何でも聴いて	大阪湾生物一斉調査報告会	大阪湾見守りネット	9月23日
78	水辺に集まる生き物を観察しよう	寝屋川市リーダーズ小学生クラブ環境学習	寝屋川市教育委員会 社会教育部	9月28日
79	イタセンパラの生態	イタセンパラ出前授業	大阪市立城北小学校	10月3日
80	魚類調査法と外来魚対策とその技術	水辺の外来種対策リーダー養成講座	イタセンネット	10月5日
81	大川にすむ魚	大川ふれあいの水辺地曳網調査	大阪府河川室等	10月6日

水産研究部

82	幹線水路の水生生物	水辺に親しむ会定例会	水辺に親しむ会	10月13日
83	城北ワンド群	合同パトロール	城北わんどイタセン パラ協議会	10月19日
84	生き物からみた大阪湾”環境・漁業・生物”	大阪府高齢者大学校	大阪府高齢者大学校	10月22日
85	堺の海、再発見	堺エコロジー大学	堺エコロジー大学	10月26日
86	堺の海 今昔(いまむかし)	堺市立中央図書館強度資料 展記念講演会	堺市立中央図書館	11月24日
87	大阪湾における麻痺性貝毒原因プランク トンの発生状況について	地方衛生研究所全国協議会 近畿支部自然毒部会研究発 表会	地方衛生研究所全国 協議会近畿支部自然 毒部会	11月29日
88	アマモ場の生物について、ほか	アマモ学習会(苗床づくり)	環境教育技術振興会	12月15日
89	大阪の水辺から生物多様性を考える	羽曳野市民大学	羽曳野市	1月15日
90	幹線水路の水生生物	水辺に親しむ会	水辺に親しむ会	1月19日
91	大阪湾の魚よもやま話	栄養セミナー 知ろう! 食べよ う!お魚セミナー	大阪市立環境科学研究 所付属栄養専門学校	1月23日
92	淀川生物多様性復活ーイタセンパラ物 語ー	近畿地方整備局	近畿地方整備局	2月4日
93	大阪湾環境再生市民参加ワーキング	大阪湾環境再生市民参加 ワーキング	国交省神戸港湾空港 技術調査事務所	2月14日
94	外来魚の駆除技術	あさぎ里山公園池外来魚駆除活 動	彩都建設協議会	2月26日
95	海藻の生活史、ほか	アマモ学習会(苗移植)	環境教育技術振興会	3月9日
96	大阪湾の魅力と漁村文化	大阪湾の釣り漁村文化 フォーラム	豊かな大阪湾をつくる 会	3月9日
97	希少魚と外来魚の生態	茨木市立彩都西小学校環境教 育	彩都建設協議会	3月13日
98	イタセンパラ野生復帰の取り組み	生物多様性研修	積水化成工業	3月14日
99	希少魚と外来魚の生態	茨木市立彩都西小学校環境教 育	彩都建設協議会	3月20日
100	イタセンパラの生態	イタセンパラ出前授業	大阪市立大宮小学校	10月29日
101	外来魚の駆除技術	外来種対策リーダー養成講 座	イタセンネット	11月2日
102	淀川に生息する魚類	村野浄水場イベント	村野浄水場	11月3日
103	城北ワンドの自然	水環境に係る市民セミナー	大阪市環境局	11月16日
104	外来植物の駆除技術	外来種対策リーダー養成講 座	イタセンネット	11月17日
105	イタセンパラの生態	奈良学園高等学校研修	奈良学園高等学校	11月18日、25日
106	淀川とイタセンパラ	大阪府立大手前高等学校平 成25年度集中セミナー	大阪府立大手前高等 学校	12月6日
107	イベントでの危機管理、イタセンパラ野生 復帰	水生生物センターサポートス タッフ講習会	水生生物センター	12月23日

28 役員・委員等の派遣（実績報告書 42ページ）

	依 頼 元	役 職 名	期 間
役員・経営企画室	1 大阪府環境審議会	大阪府環境審議会幹事	平成24年度～
	2 大阪府地球温暖化防止活動推進センター	運営委員	平成24年度～
	3 大阪府環境保全課	環境影響評価連絡会構成員	平成24年度～
	4 産学官連携推進協議会	産学官共同研究開発事業審査委員会委員	平成24年度～
	5 産学官連携推進協議会	産学官連携人材育成等事業審査委員会委員	平成24年度～
	6 近畿中国四国農業研究協議会	評議員	平成21年度～
	7 (財)畜産環境整備機構事業推進委員会	委員	平成20年度～
	8 府商工労働部	大阪府中小企業新事業活動促進法承認等審査委員	平成24年度～
	9 府健康医療部	大阪府食の安全安心推進委員会幹事	平成24年度～
	10 大阪府地方農業協議会	大阪府地方農業気象協議会委員	平成24年度～
	11 大阪府地方農業協議会	大阪府地方農業気象協議会幹事	平成24年度～
	12 日本植物病理学会	評議委員	平成17年度～
	13 日本植物病理学会	植物病害診断研究会幹事	平成18年度～
	14 大阪府農業共済組合連合会	損害評価委員	平成21年度～
環境情報部	15 (株)エックス都市研究所	環境技術実証事業運営委員会委員	平成24年度～
	16 瀬戸内海水環境研究会	企画検討会委員	平成24年度～
	17 大阪府エコ店舗普及推進協議会	会計監査	平成24年度～
	18 大阪府省エネ外食店舗普及推進協議会	会計監査	平成24年度～
	19 茨木市環境政策課	茨木市地球温暖化対策推進委員会委員	平成23年度～
	20 (株)エックス都市研究所	環境技術実証事業実証試験結果検証小委員会委員	平成24年度～
21 大阪府魚腸骨処理対策協議会	検討会委員	平成18年度～	
環境研究部	22 大阪市食肉市場協議会・大阪市中央卸売市場南港市場	農林水産祭参加行事「全日本牛枝肉コンクール」審査委員	平成18年度～
	23 大阪府鶏卵品評会(大阪府総合畜産農業協同組合連合会)	審査員	平成元年度～
	24 泉南市役所	畜牛品評会審査委員長	平成20年度～
	25 全国林業試験研究機関協議会	会長	平成25年度～
	26 関西林業試験研究機関協議会	幹事	平成25年度～
	27 大阪府堆肥共励会	審査委員長	平成24年度～
	28 大阪府鶏卵品評会	審査委員長	平成24年度～
	29 大阪府はちみつ品評会	審査委員長	平成24年度～
	30 大阪府森林審議会	委員	平成24年度～
	31 大阪府林業経営協議会	委員	平成24年度～
	32 大阪府林業・木材産業構造改革専門部会	委員	平成24年度～
	33 近畿中国森林・林業交流研究発表会	審査員	平成24年度～
	34 (社)大阪府畜産会	非常勤畜産コンサルタント	平成24年度～
	35 大阪花き園芸連合会	大阪府花き園芸品評会	平成18年度～
	36 神於山保全活動推進協議会	協議会会員	平成25年度～
	37 大阪府農業共済組合連合会	損害評価委員	平成21年度～
	38 農業電化協会近畿支部	副支部長	平成23年度～
	39 農業電化協会近畿支部農業電化普及技術研究委員会	委員	平成21年度～
	40 農業電化協会近畿支部 大阪地区運営委員会	役員	平成21年度～
	41 大阪府加工食品(Eマーク食品)認証啓発事業推進委員会	専門委員	平成21年度～
	42 大阪府果樹振興会	大阪府果樹品評会審査長	平成21年度～
	43 大阪府花き園芸連合会	大阪府花き品評会審査委員長	平成22年度～
	44 大阪府養液栽培研究会	大阪府養液栽培品評会審査委員長	平成23年度～

食の安全研究部

45	河内長野市	河内長野市産品ブランド化委員会認定部会委員	平成23年度～
46	日本農業気象学会近畿支部	評議員	平成23年度～
47	農業電化協会近畿支部 大阪地区運営委員会	幹事	平成21年度～
48	大阪府農業会議	大阪府経営構造対策推進委員会 委員	平成21年度～
49	大阪府立園芸高校SSH運営指導委員会	委員	平成24年度～
50	園芸学会近畿支部	評議員	平成19年度～
51	日本砂丘学会	副会長	平成21年度～
52	日本土壌肥料学会	地域担当委員	平成23年度～
53	近畿土壌肥料研究協議会	理事	平成22年度～
54	日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会	幹事	平成17年度～
55	日本植物病理学会	植物病害診断研究会幹事	平成18年度～
56	関西病虫害研究会	編集委員	平成18年度～
57	農林害虫防除研究会	副会長	平成24年度～
58	近畿土壌肥料研究協議会	幹事	平成22年度～
59	近畿土壌肥料研究協議会	監査	平成24年度～
60	大阪府農業共済組合中央会	JAグループ大阪「スーパーアグリアドバイザー認証試験」試験委員	平成20年度～
61	日本食品保蔵科学会	評議員	平成21年度～
62	大阪府農業共済組合連合会	損害評価委員	平成25年度～
63	近畿中国四国地域農業試験研究推進会議作物推進部会部会	副部長	平成25年度～
64	近畿中国四国地域農業試験研究推進会議野菜推進部会部会	副部長	平成25年度～
65	大阪府農業共済組合中央会	JAグループ大阪「スーパーアグリアドバイザー認証試験」試験委員	平成19年度～
66	大阪府能力開発協会	後期技能検定委員	平成18年度～
67	大阪府農業共済組合連合会	損害評価委員	平成21年度～
68	日本水産学会	近畿支部幹事	平成11年度～
69	大阪府岸和田土木事務所	せんなん里海公園(人工磯浜)検討会委員	平成21年度～
70	大阪府資源管理協議会	副会長	平成23年度～
71	大阪府豊かな海づくり協議会	副会長	平成25年度
72	(財)大阪府漁業振興基金	理事	平成25年度
73	大阪府環境保全課	大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会委員	平成23年度～
74	国土交通省	大阪湾見守りネット運営委員	平成18年度～
75	国土交通省	大阪湾環境再生連絡会委員	平成18年度～
76	国土交通省	大阪湾窪地対策技術検討委員会委員	平成18年度～
77	大阪府環境保全課	大阪府環境影響評価審査会委員	平成18年度～
78	関西国際空港環境監視機構	委員	平成18年度～
79	(社)関西経済同友会	関西サイエンスフォーラム専門部会委員	平成18年度～
80	アナゴ漁業資源研究会	世話人	平成18年度～
81	(財)みなと総合研究財団	海底地形修復技術に関する検討委員会委員	平成20年度～

水産 研究 部	82	(社)日本水産資源保護協会	赤潮情報等ネットワークシステムの高度化事業連絡協議会検討員	平成16年度～
	83	国土交通省淀川河川事務所	淀川イタセンパラ検討会委員	平成20年度～
	84	国土交通省淀川河川事務所	淀川環境委員会委員	平成21年度～
	85	環境省近畿地方環境事務所	淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会	平成25年度～
	86	環境省中部地方環境事務所	イタセンパラ生息域外保全検討会委員	平成21年度～
	87	大阪府環境農林水産部	大阪府レッドリスト改訂検討委員会委員	平成24年度～
	88	関西自然保護機構	運営委員	平成24年度～
	89	大阪生物多様性保全ネットワーク	専門委員	平成24年度～
	90	寝屋川市	寝屋川市環境保全審議会委員	平成25年度～
	91	国土交通省淀川河川事務所	淀川環境委員会水域環境部会オブザーバー	平成18年度～
	92	大阪府北部農と緑の総合事務所	内が池整備検討委員会WG委員	平成18年度～
	93	寝屋川市	寝屋川せせらぎ公園環境管理等業務委託審査委員	平成18年度～
	94	琵琶湖・淀川流域圏再生協議会	水辺の生態系保全再生ネットワークWG	平成21年度～
	95	大阪府河川室	「私の水辺」大発表会実行委員	平成15年度～
	96	大和川水環境協議会	「大和川水環境協議会」水環境アドバイザー	平成22年度～
	97	淀川水質汚濁防止連絡協議会	水質保全委員会委員	平成21年度～
	農 大	98	大阪府学校農業クラブ連盟	大阪府学校農業クラブ連盟研究発表会審査員
99		大阪府立農芸高等学校	農芸高等学校学校協議会委員	平成24年度～

